

興中公司が全部經營し、探炭設備作業を進めまた津浦沿線の治安状況も比較的良好となつて明年中には年産百五十萬噸の出炭が豫想され將來石炭業の統制にも極めて好都合に進んでゐる。一方北部膠濟線プロックは事變のため爆破された博山、淄川等の主要炭田は治安状況がなほ不安定なるものあり復舊にはなほ三ヶ年を要すると見られるが博山附近一帯の悅昇、河東等支那人經營の數十の炭礦は何等の損害も受けず休業中のものもありまた西河化雨炭礦の如きは探炭を開始してゐる有様で本年末乃至明年には探炭も可能と豫想される。これ等支那人炭礦は年産百二十餘萬噸に達し、日本の技術及び經營によればこれに倍する出炭の可能性があるがいづれも支那特有の複雑なる企業組織を持ち、これを統制することは極めて困難な實情があるので。

山東省炭礦一覽表

炭田名及公司名	所在地	資本關係	資本額	埋藏量	炭質	強粘結性有煙炭	交通
(博山炭田) 博東煤礦公司	博山八陡莊	日支合辦	一五〇千元	四〇〇萬噸	強粘結性有煙炭	二七萬噸	博山驛より輕便二軒

悅昇公司	黑山后及西河	支那民營	一、〇〇〇	滙青有煙炭	一六三萬噸	同	輕便線
同興公司	白黑園	同	一六〇	同	同	同	同
吉成公司	石炭塢及東關外	同	三〇	同	同	同	同
華東公司	園子	同	三〇	同	同	同	同
利興公司	萬山	同	一五	同	同	同	同
其他							
(淄川炭田) 魯大公司	淄川、十里莊、南旺、大崑崙	日支合辦	一〇、〇〇〇	半滙青、無煙、半無煙	九萬噸	支店より一七、六九軒、支線あり	小車及家畜
南定鐵業所	華塢	同	五、〇〇〇	半滙青炭	同	同	同
(濰子炭田) 南炭	坊	子	三〇	不粘結性有煙炭	八萬噸	同	坊子驛より支線有
東魯炭	坊	子	一〇〇	同	同	同	同
西炭	同	日	一〇〇	同	同	同	同
(豐邱炭田) 旭華鐵業公司	天	院	二〇〇	同	同	同	小車及家畜により 普集驛迄運搬す
旭華德記	同	支那民營	二〇〇	同	同	同	同
福康公司	文	同	四〇	同	同	同	同

- 一、これを膠濟線プロック炭田を株主とする石炭共販會社を設立。
 - 二、同社に運送、販賣一切を取扱はせ探炭の自治的統制をなさしめる。
 - 三、共販會社利潤は利益金として配當する。
 - 四、輸送販賣費の節約による剩餘金によつて新なる開發を促進せしめる。
- 等の原則を樹立、右會社の主體として山東鐵業株式會社を充てる方針である。同會社は去る三月末以來既に一部出炭共販を實行してゐるが北支開發會社の子會社たる石炭會社設立の曉にはそのまゝ移行されるものと見られる。

(151)—業産源資

博平煤礦公司	博山羊瀾河	一八,〇〇〇
福源煤礦公司	耿家峪博山殷家溝	二九,五〇〇
東成煤礦公司	博山殷家溝	八五,〇〇〇
旭華煤礦公司	章邱天尊院	三〇,〇〇〇
利興煤礦公司	淄川南馬山花	一一,〇〇〇
利和煤礦公司	博山後峪	一七,〇〇〇
犬成煤礦公司	博山後池	一八,〇〇〇
永和煤礦公司	博山蔣家林	一五,三九八
實業煤礦公司	博山安山	四四,〇〇〇
博山縣其他煤礦		五,一〇〇
淄川縣其他煤礦		四,〇〇〇
章邱縣其他煤礦		五,一〇〇
益都縣其他煤礦		九,八〇〇
沂源縣其他煤礦		二〇,九三七二
縣各煤礦		二〇,九三七二
有煙炭合計		二〇,九三七二

博山諸炭礦	本炭田の北部は淄川縣に跨るも大部分は博山縣に屬し東西、南北各一五軒、面積二〇〇平方軒に達する炭田で細別して黑山區、西河区、博山西北區となすことが出来る。炭質は黑山、西河の兩區のものは粘結性でコークス製造に適し博山西北區のものは無煙炭乃至半無煙炭で土人は前者を大山炭、後者を小山炭と呼んでる	二〇,九三七二
博山縣其他煤礦		二〇,九三七二
淄川縣其他煤礦		二〇,九三七二
章邱縣其他煤礦		二〇,九三七二
益都縣其他煤礦		二〇,九三七二
沂源縣其他煤礦		二〇,九三七二
縣各煤礦		二〇,九三七二
有煙炭合計		二〇,九三七二

(A) 黑山區
 博山各炭礦中最も旺盛なる出炭力と且優良なる炭質を

公司名	縣名	民國二十年	民國二十一年	民國二十二年	民國二十三年
魯大煤礦公司	淄川大荒地	(一九三二) 五九,三〇九	(一九三三) 五七,六六六	(一九三三) 六〇,八三四	(一九三三) 六七,四三〇
同	濰縣坊子	五五,三四二	一〇,一九三	一四,六四四	一四,七六一
同	淄川華埠嶺		三〇,〇五二	三五,八八三	一三,二七八
同	淄川羅家莊		九七,三二九	一三,三五四	一三,二七八
中興煤礦公司	博山	七三,六八一	七三,三二九	六八,二〇〇	九〇,五三二
華豐煤礦公司	博山	四六,〇〇〇	七,五二二	二〇,二四八	二二,六三八
華豐煤礦公司	泰安沈禹村	一五,〇〇〇	一九,五三七	二〇,二四八	二二,六三八
悅昌煤礦公司	博山西何莊	六五,七六三	一三,八〇八	二九,二二二	三九,九三三
博東煤礦公司	博山八陡	八三,六四八	五五,三三八	七三,七六五	二五,〇〇〇
華東煤礦公司	博山雨花溝	五三,五〇〇	四三,一四〇	五二,一〇〇	五二,〇〇〇
裕華煤礦公司	淄川油房後	四七,七三〇	五〇,〇〇〇	四〇,三三六	四五,〇〇〇
悅昇煤礦公司	博山桃花峪	一五,六〇三	二四,七〇六	三三,七三三	三〇,六八七
同興煤礦公司	博山荒場地	一〇,〇〇〇	二八,三三六	二二,八四〇	一三,〇〇〇
吉成煤礦公司	博山青沙嶺	一〇,〇〇〇	一六,一八〇	一一,九一〇	一三,〇〇〇
振業煤礦公司	博山偏坡地	一八,〇〇〇	一六,一八〇	一三,一九〇	一三,〇〇〇
久豐煤礦公司	博山安山		五二,〇〇〇	六二,一九〇	五〇,〇〇〇

山東省石炭産額表 (單位噸)

(博山炭田)
 中興煤礦公司 博山縣 棗莊
 合 計
 拂込七五〇〇〇 (100,000)
 一三〇
 粘結性有煙炭 一五〇萬噸
 一六二萬噸
 棗莊驛より臺兒莊迄自家輕便線を有し臺兒莊より趙墩經由連雲港に達す亦津浦線臨城に支線あり

有してゐるものは博東鑛業公司經營の黒山炭礦である。
 博東鑛業公司 山東省博山縣八陡莊にあり膠濟線
 博山支線の終點博山縣からさらに博東公司自營の博山輕
 便鐵路を約一二軒の地點に山元黒山あり博東公司經營の
 炭山である。礦區は四三〇萬平方米で埋藏量は五、二〇
 〇萬噸と稱せられその上被覆層には耐火粘土三、〇〇〇
 萬噸を含んでゐる。日獨戰爭後邦人の直接間接に同炭田
 に關係するもの一時百餘に達し投資額も數百萬圓に上つ
 たがその後財界不況の打撃と山東還付による採鑛權の喪
 失のため邦人關係業者は概ね退却し結局残つたのが邦商
 東和公司の東和炭礦を日支合辦に改めて企業化した博東
 公司以爾後十數年の經營により益々隆盛となり年産三十

黒山炭分析表 (東和公司分析)

炭名	水分	揮發分	灰分	固定炭素	硫黃分	發熱量 カロリー	粘結度
大礫炭	0.55	24.33	7.56	67.74	0.61	7930	七二
小礫炭	0.77	24.25	6.82	68.93	0.55	8210	九五
小礫炭	0.55	23.96	6.50	70.99	0.55	8330	八三
小礫炭	0.33	23.54	6.31	70.73	0.75	8100	
灰石炭	0.88	23.10	7.42	70.60	0.55	8050	

萬噸を超えてゐる。今事變により工場、寄宿舎その他縣
 附近の建物は片影だに残さぬ程度に破壊された。
 (A)炭層 炭層は一八層あり現在稼行中のものは上
 部層の礫子炭、大礫炭および小礫炭の三層で中部層、下
 部層は未だ未採掘の儘であり。
 (B)炭質・用途 黒山炭は瀝青炭乃至半瀝青炭に屬
 し膨脹強粘結性で強大な火力を有し用途は頗る廣汎で礫
 石炭は特に灰熔融點は一、七三〇度に達し高級コークス
 製造用として賞用されてゐる。含有燐分および硫黃分極
 めて少量なると同時に灰の熔融點はゼーゲル維三三番
 (攝氏一、七三〇度)で炭質極めて優秀である。I工業
 分析表は左の如し。

東和コークス工場 早くから博山驛前にコークス工場
 を設置し年産一萬噸程のコークスを黒山炭を原料として
 製造して來たもので窯數一基二一本 (Bee Hive Oven)、
 原料黒山炭礫炭石炭、一本裝入炭量平均三噸、出來高二
 ・三噸、燒成時間四八時間、日産三〇噸、洗炭設備ジツ
 ガー式である。

大黃石炭	0.55	23.85	6.55	70.55	1.55	8110	七五
油性炭	0.82	23.61	2.52	70.55	0.88	8310	
小石炭	0.63	23.33	2.71	70.33	0.66	8300	七二
大石炭	0.77	23.18	2.70	69.77	1.82	8090	七〇

黒山坑には博東鑛業公司の外に隆昌・中興・惠東・祥
 東・和井・東興・同興・東魯・悅昇・永和・德盛・吉成
 等の小坑多數あり各年産二萬噸から八萬噸程度の出炭を
 示してゐる。
 博山西北區 本區は博山驛西北姚家林、羊瀾河、南北
 圍、青龍山、李家峪、萬山、王坡峪に亘る一帯の地域に
 して、主要炭礦は華東公司經營の姚家林礦、利和公司の
 大平嶺、久安煤礦の李家峪、核桃窪礦、魯安公司の白揚
 溝礦等である。
 華東鑛業公司 博山西四子外の雨花溝にあり、博山驛

迄輕便を通じてゐる。北大架、姚家林、馬道地の各礦區
 があつて年産約八萬噸程度の出炭を見せて居る。支那側
 炭礦としては西河區の悅昇公司に亞ぐものである。
 利和公司の大平嶺礦は年産約五、六萬噸程度にして久
 安煤礦の核桃窪礦も年間五萬噸程度、魯安公司の白揚溝
 亦四萬噸前後である。

西河區 博山西方の西河を中心とする區域で張博支線
 大崑崙嶺から悅昇公司經營の西崑支線一二軒にある。
 悅昇公司 博山炭田における支那側最大の公司以年産
 二〇萬噸の出炭を見せてゐる。外に魯東・大業・益昇・
 福海・大東・大同等の小坑があつて二、〇〇〇噸内外の
 出炭力を有し合計年四十萬噸程度の出炭を見せてゐる。
 濰川諸炭礦
 魯大鑛業公司 光緒二十三年 (一八九七年) 曹州におい
 て獨逸人宣教師二名が支那暴民に殺害せらるゝや獨逸は
 これに藉口して翌年膠州灣租借條約を締結した。右條約

中山東鐵路沿線三〇支里内の嶺山は獨逸人に採掘許可を與へるとの條項がありこれに基き光緒二十七年德化煤礦公司を設立し宣統三年淄川、金嶺鎮、坊子諸炭坑の採掘を行つたのである。青島の役後軍管理時代には鐵道の兼營事業となつたが華府會議を経て山東細目協定の結果支那側に返還し資本金一、〇〇〇萬圓(四分の一拂込)の日支合辦(折半)を以て設立されたのが魯大鐵業公司であるが日本政府は設立に當り從來の投資額約一千數百萬圓を僅か五百萬圓に評價し魯大公司に無利子で引繼がしめた。而して魯大公司への出資は山東鐵業會社これなしその拂込は一二五萬元である。同公司の鐵區は獨逸が占有してゐたものをその儘繼承したもので坊子、淄川の

炭層別	水分	揮發分
A	0.40	22.5
B	0.8	10.8
C	0.3	22.6
D	0.5	21.0
E	0.7	10.3
F	0.5	10.0
G	0.5	8.5

二石炭鐵區と金嶺鎮鐵礦とで鐵區總面積は四億萬坪に達する。金嶺鎮鐵礦は事變前まで長く休止してゐた。坊子炭坑は年額一〇餘萬噸を採掘してゐたがこれは請負掘に於て、而して魯大公司の努力を拂つてゐるものは淄川炭礦であるが昭和十年五月の出水で一時大打撃を受けたが間もなく復興し日産二千噸の出炭を見るに至り山東最大の日本關係鐵山として使命を果してゐる。炭礦は魯山にあり張博支線淄川驛から分岐する支線四軒の地點で青島へ三〇八軒、濟南へ一三四軒程である。炭層及炭質 炭層は十餘枚あり上部炭層群、中部炭層群、下部炭層群、と三段に分けてゐる。工業分析は左の如くである。

固定炭素	灰分	硫黄	發熱量 カロリー
68.5	19.5	1.3	6900
73.8	15.9	1.5	7390
77.0	12.0	1.2	7560
79.5	8.0	0.7	8100
78.3	11.7	1.7	7800
76.5	13.0	1.5	7640
79.0	8.6	1.0	8110

上部炭層群と中部炭層群の間には六〇米の頁岩あり中部と下部との間は百米を隔て可採炭質は總厚約六米で淄川全區の石炭埋藏量は七億三〇萬噸とも稱せられてゐる炭質は上部は有煙炭で下部に至るに従つて炭化度進み無煙炭となつてゐる。

なほ事變後膠濟沿線治安の恢復に伴ひ從來華商經營の各炭礦合併および採掘量の増大に努め第一期復興費豫算約七百萬元を計上し、三、五〇〇キロ發電機並排水抽水機器等の新施設も着々進捗し十四年二月迄には採掘可能量も一億萬噸となるべく事變前の年産三百二十萬噸であるが最近普集の官莊鐵礦(華人經營)の合併問題起り資本金七十五萬圓乃至九十萬元で山東鐵業との間に中日合辦新會社となすべく改組中であり持株の割合は日本側六割、支那側四割であるが魯大公司事業が完全に復興以後において年産五百萬噸は可能となる模様である。なほ魯大公司の礦區を賃借して稼行せるものに後記南定華塢礦と魯業公司および坊子炭礦とがある。

間に南定探炭契約を締結して今日に及んだもので最初は 大倉組、藤田組の共同出資であつたが現在は大倉組の全額出資である。埋藏量五千萬噸、一ヶ年約十萬噸を産出しよう。韓復榘軍退却に際し徹底的に破壊されたが擴張計畫遂行途上にあつたため新設機械はわづかに一部を現地に送つてゐたので損害はそれだけで済んだ目下復興中であるが復興費には少くとも百萬弗を要する見込である。なほ華塢煤礦公司是同社の別名でかつて華塢一帯を支配し採掘したことがあつた。

坊子諸炭礦

坊子炭田 光緒二十七年獨人により開發されたもので日獨戦後わが軍の管理下に移され坊子地方の西、東、南、北、中央の五業者に貸下採掘を許可したが火成岩の夾雜甚しく作業不便なると地下水の湧出多量なため一時作業を中止した。魯大公司の設立と共に同公司に引繼がれることになつたがその後五者の既得權益は魯大公司と各個人の正式契約がなり夫々經營を繼續してゐる礦區を東、西中央の三區に分ちこれを支那人に貸與して採掘せしめてゐる。炭層は三枚にして、厚さは各々一・五米乃至五米中間の一層は四米で最も良質である。炭質は本來有煙

炭なるも火成岩の作用を受けて燧石様無煙炭となつた所
—もある。分析結果は次の如くである。

礦區別、性分	水分	揮發分	固定炭素	灰分	硫黄	發熱量 カロリー
東 炭 礦	四二	一四六	六九〇	二二〇	〇五	七五三〇
西 炭 礦	五五	一三〇	六三九	一六二	〇九	六八七〇

礦區別、性分	水分	揮發分	固定炭素	灰分	硫黄	發熱量 カロリー
天 尊 院	〇八〇	一四八	六〇七	一九七	一六	六八三〇

東炭礦 元日本人に依り經營されたが缺損により支那人組織の東魯公司に譲渡經營せられてゐる。
西炭礦 元日本人に依り探掘されたが後支那人に轉貸され目下は中孚公司の經營下にある。
中央炭礦 日本人の經營であつたが後華商華魯公司に轉貸されて今日に至つてゐる。

以上三炭礦の出炭額は最近十萬噸程度で販路は維縣、坊子方面の地賣炭を主としてゐる。
章邱諸炭礦 章邱炭田は膠濟線王莊、普集、明水及郭店の各驛の南方に位置し東西延長四〇軒に亘り東部は淄博炭田に接してゐる。炭層は概して淄川と等しく上、中下の三層に分れてゐるが層厚比較的薄く埋藏量は約四億

噸、坑内出水多量のため未だ旺盛なる出炭をなすに至らない。炭質は揮發分少く灰分多く硫黄分もまた多量である。性狀は大部分弱粘結性であるが不粘結性のももあり火成岩に影響された部分は燧石となつてゐる。
炭礦は普集附近の旭華德記、元惠、三元莊附近の惠元裕興、華勝、月宮莊附近の協大建業、旭華德業公司があるが旭華、協大の二礦を除いては目ぼしいものはない。
旭華公司 民國十三年日支合辦、資本金二十萬元を以て設立、日本側は昭和八年以來山東鐵業株式會社の出資である。炭層は十三枚、厚さ一米以上のものは二、八、一一の三層で、現在探掘中のものは第八層二・五米乃至四米である分析の成績は次の通りである。

販路は主として山元附近並に膠濟沿線を主とし出炭は年十五萬噸で山元普集驛間約四軒の輸送は大車に據つてゐる。

協大炭礦 元の天源公司以て資本金六〇萬元であつたが後十萬元を増資、資本金を七十萬元として協大建業公司と改稱した。以上の外山東省には未開發と目される大汶口、萊蕪、新泰等の諸炭田があるが現在未だ出炭を見るに至つて居らぬ。

豐莊炭礦(中興炭) 舊經營者中興煤礦公司是總公司として上海に置き炭礦は嶧縣城北一二軒の東莊にあり津浦線臨城驛を去る三二軒の地點でこの間支線開通し東莊から運河沿岸の臺兒莊迄は自營の輕便鐵路を有し大運河の水運により輸送してゐたが民國二十二年鐵道敷設後これにより直接連雲港に搬出し來つた。開坑は李鴻章時代で一時獨逸との合併經營となり後これを回收したもので資本金一千萬圓、拂込七百五十萬圓である。昨年十二月十六日

炭層別、性分	水分	揮發分	固定炭素	灰分	硫黄	發熱量 カロリー
大 槽 塊 炭	〇六四	二〇六	六三三	九九五	〇六三	七八三〇
小 槽 塊 炭	〇四三	二六三	六〇九	七〇三	一四六	六九三〇

以來事變のため停工してゐたが本年二月下旬わが軍によつて接收され興中公司以て經營するに至つた。兵火の洗禮を受けず無事日本に接收された原因の一としては獨逸人技師長クリツカー博士の勞が存してゐる。昨年未韓復渠および中央軍からの破壞命令があつたが同博士の擁護で安全を保つたもので從來ボロ炭礦だつた同礦が今日の名を得たのも同博士の努力によるものとされてゐる。

農田と炭質 炭田は嶧縣を中心とする一帯で埋藏量は一億三千萬噸と稱せられ年産能力二百萬噸、炭層は六枚あり、之を柴煤(一米)、大窩(八米)、白炭(一米)、泥窩(一・四米)、鷄子窩(一米)、磗子窩(一米)と稱してゐる。然して現在稼行中のものは大窩及泥窩にして、一名大槽及小槽とも稱してゐる。炭質は粘結性有煙炭で灰分僅少固定炭素多くコークス原料炭として優秀である。工業分析は次の如くである。

河南省の炭業

河南省はいはゆる舊北支五省には包含されないが同省産出炭は北支斯界に相當の關係を持つてゐるのでこれを略述すれば左の如くである。北部炭田はその北端におい

Table with columns: 公司名称, 所在地, 資本關係, 資本金. Lists companies like 六河溝煤礦公司, 中原煤礦公司, 福公司, etc.

て河北省滋縣炭田に隣接して六河溝炭田がありさらに山西省東南隅に接して舊道清線の集作鎮を中心とするいはゆる清化炭田がある。その外道口鎮附近にも有望なる炭田は存在するが何れも記するに足るものではない。

Table with columns: 埋藏量, 炭質, 出炭額, 交通. Lists coal reserves and quality for different regions.

福公司 初め山西炭を開發すべく設立を見たもので後ち焦作附近炭田採掘に轉じた。設立は光緒二十三年(一八九七)、英系で資本金は百五十四萬磅、炭質は中原公司のものより優れてゐる。兩社合辦經營後は福公司が實權を握つてゐる。

焦作炭 前記中福公司の石炭の謂で事變前までは運賃關係その他で到底門頭清炭や坨里炭との競争は出来なかつたが本年十月から大量に京津方面にも輸送されること

になり與中が配給することに決定し惡質の前記二炭の地盤に進出せんとしてゐる。

鐵

概況 北支蒙疆の鐵礦は滿洲國のそれと對比すると著しく劣勢にあるが北支においては石炭に次ぐ重要鐵産物で全支の四六・〇九%を占めてゐる。鐵礦資源に恵まれぬ日本としてはその近代的重工業の確立のために何よりも焦眉の急を要するものは鐵礦資源の確保であつて日滿支を通ずる産業計畫中でも鐵鋼業の自給確立は重大な項目としてこれが開發に意を注がれてゐるがその埋藏量は蒙疆の九千六百六十餘萬噸(主として龍煙鐵礦)が全

支の二八%餘を占めこれを筆頭に河北の四千二百萬噸、山西の三千萬噸、山東の千四百萬噸である。山東は嘗て全支中第五位を占める主要埋藏地であつたが近年南支において新たに鐵礦が發見されて第九位となつた。

北支蒙疆鐵礦埋藏量 (單位千噸)

Table with columns: 河, 山, 山, 察哈爾地方, 綏遠地方. Lists iron ore reserves for various regions.

北支蒙疆鐵礦埋藏量

Table with columns: 區, 別, 埋藏量噸數. Lists iron ore reserves for different districts.

Table with columns: 根, 擔, 鑛床, 備考. Lists iron ore reserves and related information.

金	11,400,000
合	1,577,000
全支合計	3,396,000

一方産額の點から見るときは嶺山が多いに拘はらず大部分採掘を中止してゐるため新式、舊式生産によるものを合せてわづか二十萬噸(全支産額の一四%)といふ貧弱さでありために北支第一の鐵山龍煙鐵礦の開發が焦尾の急とされるに至つたものである。

河北・山東・山西各省及鐵礦 河北の鐵礦埋藏地は近年滿鐵の發見にかゝる遼化の龍潭庄を初めとして灤縣、灤源、盧縣、遷安および臨榆等の如くいづれも舊冀東管内の諸縣下を中心としてゐる。埋藏量は最近の調査水準では四千四百餘萬噸と稱せられ最近さらに舊冀東管内の盧龍縣に尅大な埋藏量を有する有望鐵礦が發見されたといはれ河北省の鐵礦資源はいよいよ好望さるゝに至つた。

山東の鐵礦は金嶺鎮(益都)を始めとし嶧縣、膠縣、臨沂、濟南その他福山、蓬萊、即墨、高密、昌邑、安邱、沂水、博山、歷城、萊蕪、新泰、寧陽、昌平、順義等省内到るところに埋藏されるが金嶺鎮を除いてはいづれも經

Tegengren 0 谷底又は地下數十米迄

濟的價値に乏しいとされてゐる。

金嶺鎮鐵礦 は一九〇五年獨逸によつて試掘が行はれそれによれば埋藏量は一億噸、採掘容易なる量二千萬噸と推定された。華府會議後日支合辦魯大公司の經營下に置かれたが同公司在稼行停止のため今日迄そのまゝ放置されてゐる。最近滿鐵の調査によれば鐵山、玉皇山、四寶山等の主要鐵區中稼行價値ありと認められるものゝみでも推定鐵量一千二十六萬三千八百四十噸、推定殘存量一千三百萬六千九百噸、可採鐵量六百三十三萬九千二百一十一噸とされてゐる。なほ昨今金嶺鎮附近には巨大な埋藏量を有する鐵區が發見されたと傳へられてゐる。

山西の鐵礦はリヒトホーヘンの過大評價推定を破つたリードによつて、山西の鐵床からは大規模な鑄鐵鑪作業の基礎を存するに足る程の供給は先づ得られない、と誌さしめたほどであるが北支の鐵礦が未だその機能を發揮しえざる今日山西の土法採掘、土法製鐵は依然としてその價値を失ふものではないと言はれてゐる埋藏量は三千

萬噸と云はれ太行山脈の東側正大鐵路沿線の平定及び其北方の孟縣地區、同山脈南端東側の晉城(澤州)高平、長治の各縣地區と呂梁山脈西側の臨縣、隰縣の兩地區に分布して居り、察哈爾、湖北に次いで埋藏量が多いとされてゐる。平定縣の陽泉には今回大倉鐵業が經營を引受けた保晉鐵廠がある。

製鐵 從來北支における近代的設備の製煉は僅かに山西陽泉の保晉公司煉鐵廠があるだけに過ぎず北京の西方に龍煙鐵礦公司在世界大戰當時設立した石景山製鐵所も二百五十萬鎊鑄鐵一基の据付をやつと終つた際大戰が終息となり遂に恐慌の荒波に打たれ火入れをせず今日まで放置されてゐた。事變後石景山製鐵所は興中公司、日本製鐵の協力により復活し二百萬噸一基を完成して八月末火入式を舉行し九月十五日から正式に操業を開始したがつゞいて陽泉の保晉煉鐵廠も近く二十萬噸一基を十一月には太原の西北實業煉工廠四十萬噸および百二十萬噸も完成すべくこれによつて北支三製鐵所は本年中に何れも北支製鐵界に夫々邁進する段取りとなつた。

(註) 製鐵工業部門参照

土法製鐵 なほ製鐵法において見るべきものは土法に

よる小規模のものが發達してゐることである。從來山西における土法製鐵業は平定、澤州および長治、昔陽、沁源、和順の諸縣下を中心に採炭に次ぐ省内の重工業としてその産鐵は夙に獲鹿鐵或は潞鐵の名を以て知られてゐる。なほ汾州、孝義および大同にも土法製鐵が見られるが産額は極めて少く何れも附近の需要を充した残り少量を、前者にあつては張家口、歸化城および包頭に、後者にあつては趙城および洪同附近に移出するに過ぎぬ。平定鐵礦の諸鄉村中蔭管は爐房の數約二百戸に達し縣下土法製鐵業の最大中心地をなしてゐる。これら産鐵の大部分は從來大部分を保晉公司煉鐵廠に賣却し來つたものである。

澤州の鐵礦産地は晉城および高平の二縣下で爐房による土法製鐵の中心地は南村および大箕の二地方で生鐵年産一千五百萬乃至二千萬斤と稱せられ爐數は西太陽の九十餘爐を最大とし合計三百四十爐に達してゐる。

平定縣鐵産地及爐數

地名	爐數	地名	爐數
梨林頭	一三	銷黃村	二五

流谷	楊樹	蔭莊	北家	曹家	下千	煙裏	土領	立北	章村	龍先	鄭家	三泉	桃村
溝頭	頭	溝	莊	掌	畝	裏	頭	北	村	峪	峪	村	村
五	八	三	〇	四	三	四	五	〇	八	九	三	三	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
燕	林	馬	黃	寧	三	南	李	河	西	北	任	東	友
合	燕	家	龍	艾	郊	瑞	家	底	峪	峪	家	西	道
龍	頭	鎮	站	村	村	莊	莊	底	峪	峪	家	白	家
村	頭	房	站	村	村	莊	莊	底	峪	峪	家	白	家
二	三	〇	二	八	四	三	五	六	〇	二	二	二	七
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

層鐵礦蒐集 戰時體制下における鐵鋼資源補給のため内地において層鐵礦の國民運動が展開されてくるのに協力し北支においても京津地方を始め山東、山西各鐵道沿線地帯において三井、三菱が層鐵礦蒐集に當つてをりこれに對し大倉組は當局の許可を得て眞鍮および同合金の買集めを行つてゐるが現在までに相當巨額の蒐集を遂げた模様である。

坡根、黑龍潭其他、戸部庄、楊各庄、西灣子、南石片東倉峪、下管娘々廟、陳家峪、田家庄、田各庄。
興隆 主要金礦—官堂溝、姚家南山、平山頂、趙家溝。其他金礦—東大河。
昌平 主要金礦—段樹溝、大砂地。其他金礦—樓子峪、石湖峪、桃園、葉家庄北山、金廠峪、分水嶺。

(註) 以上四縣以外に煙臺の寧陽山その他盧龍、濰安、撫寧、臨沂縣等に若干の金礦あり。
(註) 寧陽縣の寧陽、密雲縣の西院村は邦人大月茂次郎經營で前者は本年三月、後者は六月夫々作業を開始したが治安惡しきため一時待機中である。

右の中邊化の沙嶺、大安堡、三道溝、密雲の西院村等は冀北金礦公司(官商合辦を以て一九三二年設立)の經營鐵區に係り近代採探に従事しつゝあつたが一九三二年産金額の最も多い七撥子鐵區を失ひ近年の採探地は馬蘭峪および密雲縣下の三ヶ處で日産二十餘兩程度である。
山東省の金礦 山東省は會て有数の金産地として屢々外國人の試掘が行はれ産額も見るべきものがあつたが近年衰微してゐる。しかし山東の金は砂金、特に山金として石炭と共に鐵脈中に存し北支中最も將來を嚮望されてゐる。金礦は招遠の玲瓏、九曲莊、賢子蔣、紅青、金山

金

北支においては金は鑛業として注目すべきものなく全支においても大部分は砂金であるがその中鐵脈として存在する北支、就中山東の金が最も期待されうる。しかし從來北支産金の九〇%以上を占めるものは河北省の金礦で連化、密雲、興隆、昌平、懷柔、遷安、撫寧、盧龍、臨榆、蘇縣等に亘りいづれも舊冀東地區各縣下に存在する。但しすべて土法採掘を以て小規模に稼行され若干の金礦を除いては經濟價値に乏しい。最近數年間の統計によるも北支一年間の産金額は十萬圓を超ゆることなく極めて不振の状態に置かれてゐる。

河北省の金礦 滿鐵産業部調査に係る舊冀東特別區内各金礦は次の如し。

連化 主要金礦—冷咀頭、沙嶺、茅山、元各庄、大安堡、王爺嶺、三道溝、老虎山、朝陽庵、其他金礦—馬家溝、馬路峪、八角亭、吳家溝、大塊地、密雲 主要金礦—治仙山四道溝、二道溝、西院村、雙山寨子溝。其他金礦—銀冶嶺、大轉山、歐榴山、平安莊、蔡家窪、大梁峪、葦子峪、馮家峪、東院、骨、裡蒼峪、小城子永坎溝、大桃山、水泉溝、楊

黃山、朱家、王家、台子および沂水の紅石橋が著名である。なほその他の諸縣下—平度、牟平、汶上、文登、掖縣、即墨等の諸縣下にも多少の埋藏量がある。而して從來採金は土法による民採であつたが近年省政府の重要産業統制すなはち採金統制の進展に伴ひ省内の金礦は全く省營事業として統制された。即ち民國二十四年(一九三五)省政府は採金局を設立し先づ沂水紅石橋および招遠九曲莊の採掘を試みたが成績が良好だつたので翌年八月省營金礦管理委員會の成立を見るに至つた。
招遠金礦公司 招遠玲瓏金礦は山東省龍口に近く含有量は十萬分の三と稱せらるゝ金礦で清朝の末期から開掘され支外共同經營支那側單獨經營等を経て十年程前迄は日支共同で經營されたが精鍊設備の不十分と操作不利のため久しく休鑛した。しかるに世界金價の暴騰によつて再び日本側の注目するところとなり鬼怒川水電會社利光鶴松等の再掘計畫が進行し支那側の舊持主李公氏と日本側の合作によつて前記の省政府の産業統制強化とは反對に日支合辦—支那側七十五萬元、日本側六十五萬元、計百四十萬元の合辦會社が設立され國民政府の許可を得て操業を開始したものであるが、事變後前記鬼怒川水電、

小田急、帝都鐵道三會社より招遠玲瓏金礦ほか四礦區(九曲、黃山嶺、平度、芳山)の五礦區總面積千二百十二萬五百餘坪、埋藏量一千二百九十四萬五千噸、六億圓に上る産金事業を獨占經營することになつてゐる。

北支産金開發案 從來舊式な方法による採掘と貧弱な資本とに委ねられ不振の状態を續けたがこれら山東、河北の諸金山の開發に關しては現地當局で研究の結果自由企業として單なる許可を與へるに止まらず殊に緊急を要する事業として産金會社の資金調整その他に就ても大蔵省當局と協議の上便宜を圖ることになり大要次の通りの方針で積極的金増産獎勵をなすことに決定してゐる。

一、北支の金礦は河北省冀東地區山東省招遠、平度、福山縣地方にあるが、治安其他の關係より第一次開發地區として冀東地區に重點を置く。

一、北支金礦の特質より冀東地區昌平、密雲、遷安、遵化、蘆龍、撫寧、臨榆各縣に亘る金脈地帯を數個の礦業權プロックに分け一礦業權プロックを有力なる一組織體に擔當せしむる方針で既に遵化縣一帯のプロックは北支産金會社が開發に當ることになつてゐる。

一、産金會社の進出についてはその資本と技術を慎重檢

アルミナ原礦 (礬土頁岩)

アルミナ原礦は北支未開發資源中最も期待されつゝあつた就中山東の礬土頁岩は質量共に嚮望され淄川、博山一帯がその主要埋藏地である。其他淄川東北の黃莊、南定瓦村、帶および刀虎峪、磁窑場などにも亘り章邱北田中にも露頭は多い。露出部分のみで博山北關楊庄間約一千五百萬噸、黒山附近約八百五十萬噸、博山から淄川一帯に至る間約二億三千六百萬噸、費山小内斜層(埋藏)一千二百萬噸が推定され張博鐵路沿線の礬土頁岩總埋藏量は二億七千一百万噸に達してゐる。アルミニウム含有量は黒山の最低三九・七七%、黒山中部の最高五九・二三%、平均五一・六六%で極めて良好な状態にありさきに國民政府實業部はアルミニウム工業の重要性に鑑み今次事變前淄川礦區を國營となした。

興中公司粘土工業所 興中公司ではさきに長城礦業と提携して資本金百二十萬圓(第一回拂込四分の一、本社天津)の冀東礬土礦業株式會社を設立したが粘土事業の重要性に鑑み資本金一千萬圓の一大統制開發粘土會社を設立すべく計畫中で右事業範圍は河北、山東の兩省に及

討の上名實ともに實力あるものに許可する資力技術に乏しきものは合併せしむる。

一、右會社の資本に關しては現地當局において特に大蔵省その他關係當局と協議し、資金調整法を運用特殊の考慮を拂ふ。

北支産金株式會社 冀東地區における金資源を開發すべく冀東自治政府その他出先官憲の希望により去る四月上旬興中公司住友會社に依る資本金二百萬圓(四分の一折半拂込)の北支産金會社が設立された。その後同社は事業遂行の必要上資本金十萬圓の華人法人子會社を設立し技術および經營はすべて住友がこれに携はり礦山買収も多額の買収金を以てはこれをなさず採掘による利益折半を以て採掘權を獲得する方法を採り既に冀東遵化縣を中心とする三十八礦區面積四一、五〇〇町歩の廣大な地域に礦域を展べてゐる。

(註)北支産金會社は遵化一帯で採掘しつゝある事情に鑑み附屬法による豊富な遊資を擁する裕豐紡(東洋紡)ではその大部分の資金を擧げて産金會社設立に充て産金事業に歩を進むべく折衝中であり天津公大紡もこれが計畫を進めつゝある模様である。

銀

ぶ廣汎なもので同系の冀東礬土礦業會社は新會社の設立と共に吸收する豫定である。冀東地區の粘土は從來開採炭礦が自家用耐火煉瓦月産一千五百噸生産をなしてゐるがさきに興中公司では開採礦區における粘土の礦業權を確保し冀東粘土の一元化を計つて來たが開採の携はり來れる煉瓦製造は既得權益として妨害しない方針であり。なほ右粘土の一部は煉瓦製造にも充てられてゐる。

北支蒙疆における銀礦としては特に著名なものはない。また經濟的に重要な役割を有するものもない。將來調査の進展如何によつては多少の銀産も見られるであらうが現在迄のところでは最近の滿鐵調査による銀礦に次のものが擧げられてゐる。

- 河北 臨榆(南天門、樓家炊溝其他)、蘇縣(周莊子)、密雲(圍頂白露峪、冷峪、靖頭圍)、昌平(灰峪古洞)、遵化(朝陽溝、西上溝、山口、木山、蔡寶、廟兒溝、十八嶺、石佛山)、昌平(勾勾峯、河間村、古洞、花塔寺)、宛平(銅坡溝)、房山(穀積山、光景山、黑洞溝、土神廟溝、光金溝)、涿源(大安山)、阜平(晉爺廟溝、銀河村)并陘(白草后)

山東 掖縣、安邱(白山鎮、文登、膠縣)。
山西 天鎮(水磨口)、大同(鎮邊堡)、離石(馬頭山)、文水(陷家溝)、蒲縣(峽村)、聞喜(西山溝)、平陸(三峯寺)、解縣(桃花洞)。
蒙 疆 末城(黑蛇山)、興和、豐鎮(西黃膠村、吉祥里)。

銅

北支における銅もまた銀と同様現在までに特記すべきものなく未開發資源に屬し産額、地質、鑛床、品質、埋藏量等は判明しない。滿鐵調査による埋藏地は次の通りである。

河北 遷安(佟家莊)・昌平(錫頂山・檜榔溝・香屯積・柳溝)・宛平(白鐵山・雲岳寺・午宮・王家山)・房山(大樂溝村・鼓積園山)・易縣(張峪・村東大・北坡)・完縣(合陽坡)・涑源(鼻子嶺・大南山)・獲鹿(古心根)・井陘(對九溝・吳家窪營・秦山南大窪)。
山東 歷城(桃科・第茨舍)・福山(張家莊)・沂水(桃花洞)。
山西 開西・垣曲・夏縣—北支にあつては最も有望視されてゐる。

鉛

北支蒙疆における鉛としては埋藏地に次の如き箇處が擧げられる。なほ河北の房山(周口店)、撫寧および山東の來陽(玉蘭莊)には黒鉛の埋藏が見られる。就中周口店の黒鉛は埋藏量九十一萬三千五百噸と推定されてゐる。

河北 涑源・臨榆・昌平・昌黎・宛平・房山・易縣・平山・獲鹿・井陘・磁縣。
山東 淄川・膠縣・文登・平度・安邱・昌樂・沂水・莒縣。
山西 離石・文水・蒲縣・聞喜・平陸・解縣。
蒙 疆 天鎮・大同・蕪地溝・蕪圪洞・興和・豐鎮、張北・沽源。

マンガン

埋藏地は河北の昌平(西湖村)、撫寧(北許峪、北館溝)および山東の即墨(九水)の三縣を主としこの中最も期待されるものは西湖村のマンガンで平均品位は四・四五二%、埋藏量は品位四五%内外の富鑛六千九百六十七噸と推定されてゐる。

鹽は北支、蒙疆工業資源中石炭、鐵に次ぐ大資源でこれを海鹽、陸鹽に大別される。陸鹽およびその他の鹽類資源としては湖鹽、井鹽、岩鹽(以上陸鹽)石膏、硫酸ソーダ、天然曹達、硝などがある。

陸

鹽 (湖鹽・井鹽・岩鹽)

産地は山西および蒙疆地區でいづれも邊疆地帯が中心地をなしてゐる。

山西の陸鹽(河東鹽)山西省の解縣と安邑との間、同蒲線東南方の周圍百五十支里に及ぶ解池場と稱する鹽池が主産地で露鹽の名で知られてゐる。鹽田は四十餘鋪、鹽畦は一千五百七十六であるが近年利用されてゐるのはその半數の七百二十七で各鹽田は深さ五六丈に達する二本乃至三本の井戸を有し製鹽方法は池内の土地を切開いて畦を作りこれに池水を誘導し天日に乾すものである。含鹽量は井水が最も多く灘水(鹽田の水)がこれに次ぎ湖水は最淡とされてゐる。

硫酸曹達 (芒硝)

硝

山西の解池鹽區か全支第一の産地で天日製鹽に際し風向、氣温の變動に伴ひ畦底に附着して有水芒硝を生ずるもので冬期はこれが激しいために硝板を結成する。

硝は破壁、舊屋の土中から有機物の腐敗により自然に産出するものとされ河北は氣候其他自然的條件に恵まれて全支第一の産地で年一千二百噸程度を産出する。山東は年五百噸山西は年二百五十噸を出してゐる。

石膏

北支の石膏はなほ未開發資源に屬し將來の開発に俟たねばならぬものであるが山平の平陸における産額は全支中第三位にある。なほ山西省太原西山から二十支里餘の三狼窪、龍池窪、麻黃溝、月門溝等には奥陶紀石灰岩中に石膏脈が見られ大同の侏羅紀炭系中にも石膏晶體が散見してゐるとのことである。

太原石膏開發會社 太原石膏開發に關する會社設立案の概要は左の如くである。太原石膏採掘に關しては豫て三井(小野田)で着目し淺野セメント、大倉でも從來同

地との關係上別個に之れが準備を進めてゐたのであるが現在當局の意向として邦資本による石膏開發上の摩擦は面白からずとの理由で各社共同出資、共同開發の方針に従ひ三井、淺野セメント、大倉、磐城セメントの四社協定（磐城は缺席）となりさらに北京で正式の四社協定を経て茲に四社均分出資、均分權益の石膏會社案が決定するに至つたものである。右は取敢へず資本金一百萬圓、内拂込四分の一となしゆくゆく情勢に應じ増資することになつてをり目下正式の設立認可は下りてゐないがこれも殆んど決定的のものとなされ設立は北支開發會社の創立後になる豫定である。

セメント原料—石灰

河北は年産七十五萬噸で全支中でも江蘇省に次ぎ第二位を占め省内主産地は年産は唐山三十餘萬噸（啓新洋灰公司）、周口店、萬佛堂、三家店以上の二十餘萬噸、井陘、盧龍、昌黎、房山の二十餘萬噸等で粘土採取と共に右地方の重要礦産資源をなしてゐる。山東は年産二十五萬噸で全支中山西、河南と共に第三位を占め主産地は淄川、博山、章邱の年産十萬噸、その他樂清、濟陽、曲阜、濟

南附近馬鞍山等で山西は山東と同じく二十五萬噸、太原（西北洋灰廠）その他の諸縣下で産出し蒙疆地方でも大同はじめ各地に多少の生産を見せてゐる。

石綿

石綿は北支、蒙疆の重要非金屬礦として石灰に次ぐもので防火材料としての役割は相當大なるものがあり河北の涿、易、房山、昌平、完、靈壽、平山、獲鹿、懷來の各地から年産百五十噸前後を産し蒙古自治聯盟地區からは年産三十噸程度を出してゐるが年々相當量の輸入を行ひつゝある。主産地は前記の涿源縣であるが涿源の石綿採掘は仲達公司の經營にかゝり土法により稼行されてゐる。埋藏量は四十萬噸と稱せられる。埋藏地、産地は左の如くである。

- 河北 涿源（燕美洞一帯—白否口・辛庄南・張家壑・黃郊嶺・水泉溝・銀岩嶺）昌平（禾子潤・李洞林・鍋頂山・永子洞）密雲（銀冶嶺）獲鹿（金珠嶺）井陘。
- 山東 膠縣（南灰村・紅石崖）即墨（嶗山東・峰山西）王哥莊（鳳山）掖縣（金華山・老子山）
- 山西 聞喜・垣曲・五臺・繁峙（半園村）

綫 遠 武川（西南半溝・西北六州溝）察素齊（北方五十支里石灰窯）包頭（西北沙壩子・鷄毛窯子）固陽（邵不支）板申免・涼城（三道管子）安北（母哈溝）歸綏・薩縣・烏盟烏拉特旗。

硫黃

全支硫黃産額の約三分の一は北支、蒙疆で産出し山東は全支中首位を占めその淄川、博山、章邱、招遠、山西の陽曲、隰縣、汾西、靈石、文水、和順、霍縣、河北の磁縣、晋北の宣化等が主産地であるがこれらは硫化鐵礦中から精鍊するもので普通二百斤の鐵石から十四斤の硫黃が得られる。支那は不足分を日本から輸入してゐる。

粘土（製陶用原料）

北支における粘土は特に製陶用原料としての高嶺土が著名で非金屬礦産資源としては石灰、鹽に次いでゐる。粘土の分布は極めて廣く河北の磁縣、彭城、豐潤、唐山、井陘、臨榆、灤縣、昌黎、山東の博山、淄川、臨沂、山西

北支に於ける其他非金屬資源産地

（埋藏地）

の太原、晉城、平定、陽泉、察南の蔚縣、萬全、蒙古聯盟の清水、固陽等はその生産を見られる。これらの粘土を利用する窯業は河北省が主位を占め年産は磁縣五、六十萬元、唐山六、七十萬元、山東は約三十五萬元であるが近年は極めて不振である。

寶石類

- 寶石類の埋藏地および産地は左表の如くである。
- 金 剛 石 山東の臨沂（千家泉）鄭城（神泉院）沂縣（李家莊）
- 水晶 河北の易縣（紫荆關）涿源、山東の即墨（嶗山）、山西の五臺山、綏遠の陶林、茶水晶固陽（賽林忽喇）—茶・紫水晶。
- 瑪瑙 山東半島海岸地帯、察南の宣化・蔚縣、綏遠東部の阿拉善。
- 藍晶石及黃玉 綏遠の陶林（黃花格喇）固陽（賽林忽喇）、河北の易縣・涿源縣。
- 紅寶石及藍寶石 河北の平山（第五次『中國礦業紀要』二七八—二七九頁）。

石	珪	紅	滑	重	螢	大	花	長	鑛
墨	石	石	石	石	石	石	岩	石	物
房山(周口店)平山	房山(西莊)	宛平(灰峪)	昌平、涑源、房山(燕墨水、石窩村、黃井兒)	昌平(灰嶺口)	房山、涿縣	北平西山羊坊、房山(周口店)	北平西山羊坊、房山(周口店)	北	河
萊陽			招遠、掖縣(滑石山)、蓬萊(大趙村)			青島附近	淄川(大崑崙)	戴	北
						膠縣(七寶山)	淄川、博山	河	山
						掖縣、膠縣(七寶山)、蓬萊(上寺鎮、戚家溝、紀家溝)、博山(載莊)	沂縣	淄	山
						即墨	交城	樂	西
						高密、膠縣、即墨(南泉、萊陽、龍河頭、南嶺前村)、博山(小山顶)、諸城、莒縣、萊蕪、臨沂			

製陶用原料として北戴河産は唐山、淄川産は博山、靜樂産は平定に供給せらる。

北支	北戴河	一九三三年	一、〇〇〇噸	一九三三年	一、〇〇〇噸	一九三四年	一、〇〇〇噸
産額	博山	一九三三年	五、〇〇〇噸	一九三三年	五、〇〇〇噸	一九三四年	五、〇〇〇噸
	靜樂	一九三三年	三、〇〇〇噸	一九三三年	三、〇〇〇噸	一九三四年	三、〇〇〇噸

膠縣産は博山ガラス工業原料、交城の探掘は山西煉鋼廠の經營に係る。

山東産額 一九三三年 一九三四年

南泉埋藏量九四萬噸、青島賣價七元八角乃至一二元。

蓬萊の滑石は年産約一、〇〇〇噸、煙臺賣價每噸一〇元

埋藏量一六二、二〇〇〇噸

三省以外の産地としては綏遠の歸綏、興和、晋北の天鎮、河北、山西産は夫々北京、太原、山元原價、每噸八元、市場賣價、每噸一二元

石 英 砂 岩 北平附近、秦皇島、龍口、青島、掖縣

苦 灰 岩 井陘

油 母 頁 岩 遷安(劉家營)

マグネサイト 掖縣(滑石土黃山)

雲 母 密雲(小新開嶺、新開嶺村)平山、即墨(王哥莊、鳳山)、平安(泉眠溝)、諸城(石明子)淄川(周村鎮)

鑛業權の整理 北支における鐵、石炭、金、銀、ニッケル、銅、マンガン、タンゲステン、アルミニウム原鑛などに關する民間鑛業權の所在に就ては錯雜してゐるので臨時政府實業部では創設以來鋭意これが整理調査に當ると共に民國二十一年修正鑛業令の大檢討を重ねて來たが現在までに判明せる方針は略次の如きものである。

北支各地の鑛業權は治安の確保、行政組織の整備に至るまで暫定的に同權の處分を停止することに決し六月下旬これが布告を發した。

鑛業權處分停止に關する件。

鑛業權の變更、移轉その他これに關する一切の處分は當分の間これを認めず、事變後における鑛業權の變更その他これに關聯する處分また同じ。

沂縣 ガラス製造原料に供せらる。嶧縣の苦灰岩は無盡藏と稱せらる。三省以外の産地としては察南の宣化晋北の渾源

鑛業權の出願は當分の間これを受理せず。本布告は公布の日よりこれを實施す。而して右布告は鑛業に關する權利の歸屬關係を明瞭ならしむるために行つたものであるが鐵、石炭などの統制事業をはじめ内地における鐵、金屬増産開發計畫に相呼應するために鑛業權移轉、新設禁止の解除の要望が各方面に擡頭しつゝあるので前記鑛業權處分停止の解除には次のやうな處置が必要案件とされてゐる。

一、既存鑛業權の整理 既存鑛業權設定の記録は國民政府實業部に保管せられその歸屬關係が不明瞭となつてゐるので臨時政府としては省、市、縣所管官廳に保管された控への提出を求めて整理するとともに鑛業權確認の届出をなさしめる方針であるが一部地方は治安の關

係上この届出の不可能なる状態にあり政府としては今後適宜な時機に（鑛業権確認の届出でに關する布告）を發布整理の促進につとめる。

二、鑛業法の修正 民國二十一年修正の現行鑛業法によればその過半数の株を中國人が所有するを要しかつ重役の過半数及び董事長、總經理は中國人をもつて充當せねばならぬと規定され鐵、石油、銅、石炭などを國營をもつて原則とすることになつてゐるのでこれが排外的讓歩の全面的修正を行はざれば北支鑛業の開發は大なる障礙に直面することとなり従つて鑛業權處分停止の解除には鑛業法の全面的修正を行はざる限り意義がなくなるわけである。

西して臨時政府としてはこの二條件の整備をもつて鑛業權移轉新設許可の目安としてゐるのであるが現在の實業部の組織では如何に急ぐともなほ時日を要すると見られる反面時局國防鑛業資源の開發は極めて緊急を要するわけで北支開發會社の統制事業たる鐵、石炭並にその他の非鐵金屬に對する要求に應ずるにはその間に適宜の處置が要望され政府としては取あへず鑛業權の整備、鑛業法の改正と並行して大體大さの如き辦法をとるものと見

工業

概況

北支における工業は天津、青島を中心に奥地各都市に波及したものであるが中南支に比較してはるかに低位に置かれ支那民族資本による大規模工業の發達を見ても世界大戰以後のことと屬する。元來北支には工業界に不可分の關係を有する石炭、鐵鑛資源に恵まれてゐるがその發展が中南支に遅れてジグザクな過程を辿つた主たる理由は近代的工業の勃興期に當り政治的中心が南方に遷つたので自然そのまゝ取残されたことに懸つてゐる。工業界開發をめざす外國資本も政治的中心地を中軸としてその周圍に進出擴大すべき性質のものであり加ふるに從來の中南支の對北支政策官僚資本と高利貸資本との工業金融への惡影響等が舊南京政權の對北支抑取政策と結びついて北支近代工業の勃興を抑制し會つての中心地である京津地方は稍ともすれば外國資本から見放されること久しきに及んだ。而も北支は土着資本に乏しく工業界へ

られてゐる。

- 一、鐵、石炭の各會社成立に對しては特殊會社法を制定し會社成立後なほ鑛業法改正以前なる場合にも鑛業法改正を既定方針とする見解の下に施行する。
- 二、非鐵金屬開發に對する内地増産計畫と並行する必要から、ある程度の暫行辦法を講じ、この鑛業權の新設移轉につき相當な特殊的處置をなす。

看板は……衣笠看板製作所へ

廣告は……衣笠廣告社へ

建築塗裝は……衣笠塗裝部へ

の投資も消極的であり農村地方も年來の疲弊から民衆の消費力が低下し交通も不便であつたことが北支工業界立遅れの原因ともいへよう。いづれにしろ北支工業界の全支における地位は決して高いものではなく而してこの状態がすくなくとも數年以前までの北支工業界の實情であつたことには疑いはない。近世資本主義との接觸以前において北支工業界はマニユファクチュアの段階を彷徨せること久しく歴代政權が派生せしめた古くからの商業資本の制肘下におかれたのであるが清朝末葉清朝發祥地たる滿洲の封鎖が解かれて以來相當地位を高むるに至つた。また一八六〇年天津港が開港されたのをきつかけに芝罘、龍口、秦皇島、營口、青島、威海衛等の諸海港が一九三〇年迄に開港される間にさらに發展の機運を興へられた。この間世界大戰以來頗る高揚した民族自決と國權恢復との風潮を背景とした支那關稅自主權の恢復は北支を含む全支の工業發展を著しく助長した反面主として歐洲戰地に供給せられた食料産業—落花生、油、製粉、鶏卵等食料工業乃至輸出絹糸布工業等は一齊に恐慌に襲はるゝに至つた。また一九三二年滿洲國の獨立によつて北支の洋灰、板硝子、土布製織各工業は頗る打撃を受け

たことが擧げられねばならぬ。一九三四年舊南京政府の高率の關稅改正に伴ひ日本紡績資本の青島、天津進出を來し一九三五年秋北支自治運動以來北支經濟開發が提唱されるに及び日本産業資本進出を誘致し今や北支工業界は全く舊套を脱して面目一新の觀を呈せんとしてゐる。今事變勃發以來の北支工業界は日本におけるあらゆる企業資本が當局の經濟開發の大綱に追隨しつゝ進出し或は日支工業タイアップの具體化を進捗せしめ各重要工業部門において舊來の支那側各工場は必然的に後退の傾向を辿りつゝあり特に紡績および電業部門における邦資工業は歴史的な地位を確立しつゝある狀況は一俣觀と稱すべきであらう。なほこゝに特記すべきことは一九三〇年反蔣戰爭に破れて大連に亡命中の閻錫山が一九三一年歸山以來いはゆる山西省建設十箇年計畫に従つて西北實業公司を創設し特産、工化、鑛業、紡績の四組の下に十一の新設工場と十の改編せる工場を統制し次で大規模の製鐵所および鍊鋼所を計畫した一事でこの各種工業の連鎖的經營は從來の北支工業界に特異の地位を形作つたもの外ならぬ。

工業立地 北支蒙疆における工業立地としては天津を

- 製鹽工業
 - 河北省(天津)
 - 山東省(青島、芝罘)
- 曹達工業
 - 河北省(天津、塘沽、其他)
 - 山東省(濟南、其他)
 - 山西省(太原)
- 硫酸工業
 - 河北省(天津)
- 染塗料工業
 - 河北省(天津)
 - 山東省(青島、濰縣、濟南)
- アルコール工業
 - 晉北(大同)
- ゴム工業
 - 河北省(天津)
 - 山東省(芝罘、威海衛、青島)
- 皮革工業
 - 河北省(天津、北京)
 - 山東省(青島、濟南、定縣、即墨、城陽)
 - 山西省(太原、榆次、汾陽)
- 石鹼工業
 - 河北省(北京、天津)
 - 山東省(青島)
- 油脂工業
 - 河北省(天津)
 - 山東省(青島)
- 電氣化學工業
 - 山東省(濟南)

中心に北京、太原、濟南、青島を結ぶ左の如き線が最も好適とされてゐる。

- 織維工業
 - 綿糸紡績工業
 - 河北省(天津、唐山、石家莊)
 - 山東省(青島、濟南、周村、膠州)
 - 前掲地の外河北省(高陽、寶坻)
 - 山東省(北京、太原)
 - 河北省(北京、天津)
 - 山西省(太原)
 - 蒙古聯盟(厚和)
 - 毛織工業
 - 山東省(芝罘、周村、膠東)
 - 山東省(芝罘)
 - 山西省(太原)
- 化學工業
 - 亞麻工業
 - 山西省(太原)
 - 燐寸工業
 - 河北省(北京、天津、交河、濰縣)
 - 山東省(濟南、青島、濟寧、芝罘、威海衛、即墨)
 - 山西省(汾陽、新絳、太原)
- 製紙工業
 - 河北省(北京、天津)
 - 山東省(濟南、濰縣)
 - 山西省(太原、晉城)

- 電氣化學工業
 - 山西省(太原)
- 窯業
 - 河北省(天津、唐山)
 - 山東省(濟南、博山)
 - 山西省(太原)
- 陶磁器工業
 - 河北省(天津、唐山)
 - 山東省(濟南)
 - 山西省(太原)
- セメント工業
 - 河北省(天津、秦皇島、北京)
 - 山東省(青島、博山、濟南、芝罘)
- ガラス工業
 - 河北省(天津、北京、保定、石家莊、滄州、唐山)
 - 山東省(濟南、青島、芝罘、周村、德州、濟寧)
 - 山西省(太原)
 - 蒙古聯盟(厚和、包頭)
 - 晉北(太原)
- 製粉工業
 - 河北省(桑園、保定、邯鄲、泊頭鎮)
 - 山東省(青島、濟寧、滋陽、德州)
 - 山西省(平陽、晉城、慶右)
- 製蛋粉工業
 - 山西省(平陽、晉城、慶右)

製糖工業 山東省(濟南)
 ビール工業 山東省(青島)
 醸造工業 河北省(天津、北京)
 山東省(青島、濟南)
 煙草工業 山東省(青島、濟南、濰縣、即墨)
 金屬機械工業 河北省(秦皇島、天津)
 製鐵製鋼業 山西省(太原)
 機械工業 河北省(天津、北京)
 山東省(濟南、高密、青州、濰縣)
 山西省(太原)
 鑄物工業 河北省(天津)
 山西省(太原)
 農業用機械工業 山西省(太原)
 汽車製造業 山西省(太原)
 電氣工業 河北省(天津、北京、灤縣)
 事業前北支工場分野 支那事變後現在における北支工業の綜括的計数を掲ぐることは困難であるが事變前における情勢は滿鐵の企業別調査に従へば左の如くである。

舊北支五省工業表 (外資工場を含む)

業 別	省 別	工場 数	資本金 備考
酸曹達工業	河北省	八	六、二五〇千元
燐寸工業	山東省	二	一〇、〇〇〇千元
護謄工業	山西省	三	二、五〇〇千元
染料工業	河北省	九	四、六〇〇千元
塗料工業	河北省	二	三、八〇〇千元
石油工業	河北省	九	三、三〇〇千元
皮革工業	河北省	二	一、三〇〇千元
製紙工業	河北省	二	一、〇〇〇千元
製粉工業	河北省	三	一、〇〇〇千元
製糖工業	河北省	三	一、〇〇〇千元
ビール工業	河北省	二	一、〇〇〇千元

業 別	省 別	工場 数	資本金 備考
清涼飲料工業	河北省	五	一、九〇〇千元
製氷及冷蔵業	河北省	二	一、九〇〇千元
日本酒醸造業	河北省	二	三、〇〇〇千元
洋酒醸造業	河北省	二	三、〇〇〇千元
醬油醸造業	河北省	二	三、〇〇〇千元
蠶絲工業	河北省	二	三、〇〇〇千元
鶏卵加工業	河北省	二	三、〇〇〇千元
捲煙草工業	河北省	二	三、〇〇〇千元
骨粉工業	河北省	二	三、〇〇〇千元
製材木製品工業	河北省	二	三、〇〇〇千元
精鹽業	河北省	二	三、〇〇〇千元
桐包業	河北省	二	三、〇〇〇千元

業 別	省 別	工場 数	資本金 備考
紡績工業	河北省	〇	三、〇〇〇千元
毛織工業	河北省	三	二、七五〇千元
絹絲布工業	河北省	一	一、〇〇〇千元
製鐵工業	河北省	一	二、八五〇千元
機械器具工業	河北省	一	二、八五〇千元
金屬器具工業	河北省	一	二、八五〇千元
窯業セメント	河北省	一	二、八五〇千元
硝子工業	河北省	一	二、八五〇千元
珠瑯鐵器工業	河北省	一	二、八五〇千元
陶磁器工業	河北省	一	二、八五〇千元

製材及木製品工業	骨粉工業	捲煙草工業	鷄卵加工業	醬油釀造業	洋酒釀造業	日本酒釀造業	製冰冷藏業	清涼飲料水業	麥酒釀造業	澱粉工業
山河	山河	山河	山	山	山	山河	山河	河	山河	山河
東北	東北	東北	東	東	東	東北	東北	北	東	東北
省	省	省	省	省	省	省	省	省	省	省
日	英	米	日	日	日	日	日	日	日	日
米	米	米	米	米	米	米	米	米	米	米
四	一	二	一	一	一	一	一	一	一	二
二,110,000元	1,000,000元	1,100,000元	1,000,000元	1,000,000元	1,000,000元	1,000,000元	1,000,000元	1,000,000元	1,000,000元	1,000,000元
			本店資本				不詳四	在大連本店資本	不詳一	在日本本店資本

皮革工業	石鹼工業	染料工業	護謨工業	燐寸工業	硝子工業	機械器具工業	紡織工業
山河	山河	山河	山河	山河	山河	山河	山河
東北	東北	東北	東北	東北	北	東	北
省	省	省	省	省	省	省	省
日	日	日	日	日	日	日	日
支	支	支	支	支	支	支	支
二	一	一	三	三	五	二	三
1,000,000元	1,000,000元	1,000,000元	1,000,000元	1,000,000元	1,000,000元	1,000,000元	1,000,000元
在日本本店資本						不詳七工場	在日本本店資本

舊北支五省外資工場數表

工場數

資本金

不詳一

考

業種別	支那		日本		支那
	工場数	資本總額	工場数	資本總額	
絹糸布工業	1	250	1	4	空
澱粉工業	1	35	1	1	空
日本酒醸造工業	2	100	1	1	空
醬油醸造工業	1	50	1	1	空
製氷及冷蔵工業	1	35	1	1	空
麥酒醸造工業	1	1000	1	1	空
染工工業	4	165	1	1	空
硝子工工業	2	80	1	1	空
骨粉工業	6	300	1	1	空
毛織工業	3	1000	1	1	空
麻織工業	8	880	1	1	空
捲煙工業	5	900	1	1	空
鶏卵加工工業	2	1000	1	1	空
製材木製器工業	3	1000	1	1	空
清涼飲料工業	2	300	1	1	空

※他に小規模のもの數多存するも詳細不明
 ※他に外國工場一、資本金 40000元
 ※他に日支合辦のもの二工場資本金三、五〇〇〇〇元

C 支那資本優勢を占むるもの

B 外國資本優勢を占むるもの

備

考

業種別	日本		支那		支那
	工場数	資本總額	工場数	資本總額	
絹糸布工業	1	250	1	4	空
澱粉工業	1	35	1	1	空
日本酒醸造工業	2	100	1	1	空
醬油醸造工業	1	50	1	1	空
製氷及冷蔵工業	1	35	1	1	空
麥酒醸造工業	1	1000	1	1	空
染工工業	4	165	1	1	空
硝子工工業	2	80	1	1	空
骨粉工業	6	300	1	1	空
毛織工業	3	1000	1	1	空
麻織工業	8	880	1	1	空
捲煙工業	5	900	1	1	空
鶏卵加工工業	2	1000	1	1	空
製材木製器工業	3	1000	1	1	空
清涼飲料工業	2	300	1	1	空

※他に小規模のもの數多存するも詳細不明
 ※他に外國工場一、資本金 40000元
 ※他に日支合辦のもの二工場資本金三、五〇〇〇〇元

A 日本資本優勢を占むるもの

第一表 總括表

(註) 本統計には資本制工場のみを計上家内工業を含みません。

第二表 業種別表

※他に日支合辦のもの一工場資本金三、八七〇〇〇元

備

考

(註) 滿鐵産業部「北支那經濟綜觀」による。
河北山東兩省主要製造工場資本系統別統計は次表の通りである。

河北山東兩省主要製造工場資本系統別統計 (昭和十二年六月現在操業中のもの單位千元)

項目	工場数	資本總額	工場数	資本總額
日本	3	275	4	1783
支那	6	1500	5	1713
支那合辦	1	230	1	663
日支合辦	1	180	1	300
支那合辦	1	120	1	467
支那支	1	16	1	16
日支支	1	3	1	242
日支合	1	3	1	100%
日支支	1	100%	1	100%
日支合	1	100%	1	100%
日支支	1	100%	1	100%
日支合	1	100%	1	100%

不詳一本店資本を含む

曹 達 業	洋 粉 業	製 革 業	皮 紙 業	石 鹼 業	燐 肥 業	織 造 業	洋 酒 業	製 糖 業	機 械 工 業	金 屬 製 品 工 業
九	二	三	三	五	六	九	二	一	八	〇
六六五	二〇〇〇	八三二	七九	三〇六	四九六	二〇〇	五〇〇	一〇〇〇	一三六	三〇〇
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

北支工業事變後一年

事變前滿鐵調査によれば北支工業の九三%は青島および天津に集中してゐた。天津の各工場は事變勃發と共に一部小工場を除き全部休業したが戦禍を蒙つたものは少く多少ともそれを受けたのは公大第七廠、東亞毛呢紡績、新成機器製紙質、山海關汽水公司等で極く部分的な損害に止まつた。一方青島地方の工場の蒙つた損害は紡績その他各工業部門で述べたやうに甚大なもので破壊または掠奪を受けたものに青島では同興紡、富士紡、公

曹 達 業	洋 粉 業	製 革 業	皮 紙 業	石 鹼 業	燐 肥 業	織 造 業	洋 酒 業	製 糖 業	機 械 工 業	金 屬 製 品 工 業
九	二	三	三	五	六	九	二	一	八	〇
六六五	二〇〇〇	八三二	七九	三〇六	四九六	二〇〇	五〇〇	一〇〇〇	一三六	三〇〇
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

※他に日支合辦のもの工場一 資本金二六〇〇〇元
他に外國工場一、資本金一七〇〇〇元

大紡、日清紡、内外紡、國光紡、上海紡、大日本紡、豊田紡、山東倉庫、大日本麥酒、金水商會醸造工場、益豐火柴工廠、山東火柴工廠、日華蠶絲工場があり、その他青島附近では濰縣煙草工場、張店、博山、周村、日華蠶絲工場、濟南、三菱棉花プレス工場、滿洲製粉工場等がある。
天津工業界の事變後の動向は別項の如くで戦線の南下とともに漸次恢復して活況に向ひつゝあり事變以來邦資の投下するもの一億數千圓を計上される状態にあり、青島は打撃が甚だしかつただけに再建恢復までにはなほ

張 家 口	北 京	天 津	其 他
鐘紡公大毛織廠	鐘紡北支出張所	鐘紡公大第六廠 鐘紡公大第七廠 鐘紡公大毛織廠 鐘紡公大毛氈廠 鐘紡公大皮革廠 鐘紡天津出張所	上海、青島、濟南、石家莊、太原 彰德、茶淀(啓明農場)

北支蒙疆における鐘紡事業分野

相當の日子が豫定されてゐる。以上の外山西省、山東省、河南省方面の工場で漸次日本資本の委託經營となるもの多く、また河北省内工場も邦人により買収されるもの續出し戦後經營への日本資本の流入は北支經濟開發の國策の線に沿うて鞏固な地盤を築きながら北支工業界の内容形状ともに面目を一新せんとしつゝある。

事變勃發後の天津各工場操業状態

支那問題研究所調査

北支工業の二〇%を占めてゐた天津各工場は今支那事變の勃發で極短時日とは云へ交戦地區と化したため甚大なる打撃を蒙り、殊に支那側經營工場は悲惨な境地に追込まれてしまつた。即ち七月二十九日天津襲撃事件の起るまでは操業状態は大して變化なかつたが事件發生により工場建物その他の直接損害はなかつたけれども職工の通勤極めて不便となりまた不安人氣による職工の逃避もあり、佛・英租界内に在る一部工場を除き全部休業するに至りその後大體二週間乃至一箇月を経過してぼつ／＼再開するに至つたが陸路河北の交通断絶おそひ海岸封鎖のため中、南支との取引全滅し、製品の賣捌停頓し一方また原料仕入れの困難となつて事變前の操業状態に立歸ることは紡績及び麥粉等一、二を除けば殆ど不可能なる状態に立至つた。この天津工業界に關し主要工業二十三

種を撰み支那側工場を主とし十二月初旬來同月末迄事件後における操業状態を調査したのであるが、大工場調査数六六(うち外資一二、合辦三)の内二十二工場は未だに休業中で、その中にはすでに完全に閉鎖せるもの二、再開見込なきもの四あり。再開乃至繼續中の四十四工場の製産額は事變前の産額より約四割六分方の減少と見込まれた。小工場調査数一四六工場のうち四十二工場も尙休業中、更に主要手工業も四業六百三十六工場のうち二百四工場は休業してをり、その大半は何時再開し得るか見込立たず現在操業中の四百餘工場の産額も事變前に比し五割三分の減と見られる。しかし事件後の製産品はストツクにされてゐるものが可成り多くそのため實際に市場に出されてゐる製品の數量は事變前に比較すれば六割乃至七割の減少と推定される。また職工の失業数については詳にし得ないが支那側工場は無給の見習工(少年工)をなるべく多數使用する方針をとつてゐることが顯著であり殊に手工業に至つては七、八割を少年工にて間に合せ經費を補填してをり操業状態の事變前への復歸までには尙相當長日月を要すること瞭かでありまた支那側工場は日本資本の滔々たる進出の前に、時機到來まで維持して

行くことが出来るか否かを危ぶむものも相當にあり頗る合辦乃至讓渡を希望するものが多くなつたことが注目される。今次調査の概要は次ぎの如きものである。

天津事件後の工場調査概要

工業別調査数	休業或は閉業	現産産額の事變前産額に對する比較(再開或は繼續中の工場のみ)
紡績 七(内日資四)	—	約二割五分減
毛織 四(内米資一)(小工場三)	—	約五割減
機械器具 五	—	約四割減
金屬製品 四	—	約五割減
洋灰 一	—	約四割減
硝子 二(内日支合辦一)	—	—
玻璃鐵器 六(内日資一)	—	約六割減
酸曹達 四	—	約三割減
燐寸 二	—	—
染料 二	—	—
塗料 四	—	約四割減
石鹼 二(内日支合辦一)(他に七工場)	—	約五割減

皮革 (小工場三)(小工場三)	約二割減
製紙 二	約六割減
製粉 四	約五割減
清涼飲料 (五(内英資二)(小工場九)(小工場九)(季節關係による)	約八割減
卷煙草 三(内希資二)	約六割減
製鹽 一	約六割減
植物油 七(内佛資一)(米支合辦一)	約六割五分減
計 六六	平均
メリヤス 二五〇	約四割六分減
織布 二一〇	約五割減
染織 一五〇	約五割減
帽子 二六	約六割減
計 六三六	平均
	約五割三分減

次に各工業、工場別操業状態の内容に觸れよう。

紡織工業

恒源紗廠 (精紡機三萬五千錠、織機五百臺、北洋紗廠とともに誠孚信託公司管理)七月二十九日から八月十二日まで十五日間休業。その間の經費損失六千元、現在職工

二千二百人で紡機三萬錠及び織機二百臺を晝夜運轉(約七割)してをり日産綿糸五十俵、粗布五百疋。奥地方面との取引はまだ活潑でないが北京、高陽、冀東方面の需要遂日増大し漸次好況に向ひつゝある。

北洋紗廠 (精紡機三萬七千錠)事件當時も兵火から離れてゐたため一日も休業せず、現在職工千五百人で二萬五千錠(一萬二千錠は事件後増設したもので未だ運轉せず)を晝夜運轉してをり日産綿糸五十俵(事件前は六十俵)實行は恒源同様良好である。

達生製織工廠 (精紡機四千錠、金城銀行管理)事件當時も一日も休業せず、現在職工六百人を晝夜二班に分ち四千錠を全運轉してをり日産綿糸十五俵(事件前は二十俵)棉花使用量は毎日約四十俵で原棉手當は前記二廠とも不足を感じてゐない。事變前は京綏、京漢兩鐵路沿線を大販路としてゐたが最近では冀東及び天津市内外ならびに北京地方に止つてゐる。

公大第六廠 (日資、精紡機六萬五千錠、織機九百九十臺)天津製事事件當日より八日休業して八月六日操業再開事變前の職工数は四千五百名を算したが操業再開當時は約半数の二千二百名に減じ現在は約三千名になつ

て居る。製品は九月中旬より冀東方面へ綿布が多少動き
その他支那人二三流問屋との間に少量の取引を見るほか
依然渺々しくなく従つて最近に至つても晝間のみ紡績部
は七割の操業であるが、織布部はすでに十割運轉してゐ
る。

公大第七廠 (日資、精紡機三萬四千錠) 事件當時支那
兵の直接襲撃を蒙つただけに、工場の再開は他の工場より
遅れ七月二十九日より二十日間休業して八月十八日操業
を開始したが支那街の真中に在る爲従業員は容易に落着
かず八月二十八日より再び操業を中止して九月十二日迄
十六日間休業、十三日より漸く操業を再開した。事變前
の織工数は千五百名であつたが事變直後の出勤者は六百
名内外に減じ、最近では約一千名に恢復して居る。製品
の賣行は軍關係の特殊綿品を除き他社同業極めて悪く大
部分ストックしてゐる、操業率は晝間のみ七割程度であ
る。

天津紡績及び裕大紡 (日資、精紡機六萬七千錠) 七月
二十九日より八日間休業し八月六日より操業再開。歴史
が古いだけに事變後に於ける従業員の動搖は他の邦人紡
績に比べて少なく製品の動きは七月八日の蘆溝橋事件勃
発前には絨毯類の需要多く服地も秋冬物の手當により一
時在荷拂底してゐたが事變後は市場の不況と真地向荷
動き不能のため製品は殆ど在庫になるので職工及び産額
を半減し支出を極度に緊縮してゐる。現在職工百五十人、
日産洋服地五十碼、毛布三百碼。

仁立毛呢紡績廠 (織機二十六臺) 未休業。同公司是毛
糸、毛毯の外軍隊用服地の製造をなし蒋介石軍の御用を
受けてゐたため今又南京軍の惨敗は同公司に大打撃を與
へまた南京軍への貸倒れ十萬元に上ると云はれてゐる。
現在職工約二百名(事件前と大して變らず) 操業は事件前
の八割程度であるが主たる取引先たる中、南への販路社
團には可成り困難してゐる。現在日産毛糸二千封度。羅
紗四百碼。原料は綫遠、甘肅産のものが多く、舶來染料
とともに大體市内在荷で間に合つてゐる。

美古紳洋行天津分行 (米資、織機三十臺) 未休業。主
としてカーベットの製造で、事變勃發以來市内及び北京
方面の需要減と輸出方面が運賃高のため不振を呈してゐ
るので職工を百人に減じ(事變前約三百) 給料も事變前よ
り二%を減じ現在毎日絨毯約三十枚程度を製造してゐる
に過ぎない。

發と同時に止まりその後他の邦人紡よりも幾分賣行多い
が、最近の操業率は晝夜とも約五割。
裕豐紡績 (日資、精紡機五萬錠、織機一千臺) 七月二
十九日より八日間休業し八月六日操業再開。同社は昨年
五月に操業を始めたばかりで創業後いくらかも経つて居な
いため製品の消化状態は他社に比較して不良であつたが
最近好轉し職工も事變前通り千五百名、操業率も晝夜業
十割となつてゐる。

毛 織 工 業

東亞毛呢紡績有限公司 (織機三十四臺) 事件當時も休
業せずただ地場の不況と中、南支への販路が交通杜絶に
より殆んど全滅してゐるので夜業を停止し晝間のみ操業
(全運轉)してをり現在男女工を合し三百人。日産量は抵
羊牌毛糸千五、六百封度(事件前より半減) 原料羊毛は從
來澳洲物を主とし甘肅、綏遠方面産毛を混じてをり一時
後者の出廻り杜絶したため前者の輸入を急いだが運賃高
により間もなくこれを止め、國內産毛の吸収に努めてゐ
るが最近漸く出廻り増加ししかもそれは外國向輸出少なき
ため相場下落してをり採算上有利となつてゐる。
海京毛呢紡績廠 (織機三十臺) 事件當時も休業せず。

其他の小工場 絨毯製造は天津に於ける小工業中の主
要なるもので事變前は工廠十三軒(資本金千一五千元)
作坊八十五軒(資本金五百元前後)に達してゐたが事變後
輸出不振のため、すでに工廠三、作坊十餘軒閉鎖し殘餘
の約八十五軒も操業を半減してをり、従業員も從來の半
數約千人(内七百人は見習工で無給、職工の賃金は最高月
約二十元)となつてゐる。現有織機約五百臺、日産量未
詳。原料は從來省内及び山東から出廻る手紡ぎ毛糸を多
く使用してゐたが、最近これが激減せるため當地の前記
毛織各工場産品を使用するものが多い。尙作坊は資本少
なきため原料を仕入ることが出来ず取扱問屋からこれの
供給を受け工賃を受くるのみである。

機 械 器 具 工 業

德利興機噐廠 事件當時本工場一帯(河北三條石)が交
戰地區となつたため七月二十九日百三十名の職工に對し
十元乃至二十元を與へ市場の回復とともに再備を約して
解散せしめた。その間接損害約六百元爾來三箇月半休業、
十一月十五日から見習工のうち約三十名を再備、操業再
開し部分品の製造(毎日價格百一二百元程度のもの)をな
しつゝ維持してゐる。

三合機機燈廠 事件発生とともに休業、職工三十人に約四百元を支給解散せしめ三箇月後即ち十一月初旬から二十餘人の職工を復帰せしめ操業を再開した。現在日産カンテラ大小型とも三十打(事變前は七十餘打)市價打當り大型七元五角、小型三元五角。現在市内小賣のみで奥地向に殆んど杜絶しをり營業極度に不振。
恒大機工廠 事件直後四十人の職工に約五百元を給して解散せしめ爾來休業四箇月、十二月初旬職工六名復帰し部分品の製造を以つて維持してゐるが工場主は工場財産全部の讓渡意向を有してゐる。

北洋造機工廠 七月二十九日全職工百餘名に十元前後宛の臨時給付をなして解散し工場を閉鎖した。十一月初旬職工六名が戻つたが、時計修理を請負仕事としてゐるのみ事變前の日産(時計)約一打。現在在庫品が市内及び冀東方面に少量賣れてをりその収入のみによつて維持してゐる。

明機製機工廠 事件発生とともに八十人の職工に約九百元を給付して解散。休業三ヶ月、十一月一日十四人を復帰せしめ再開したがその後製造は行はず(事變前は毎日臺秤二臺製造)修理のみで維持してゐる。

も本社工場とも休業しなかつたが、爾後運輸不便にて中南支向け荷動き少なきため操短し現在日産二千機前後、職工約七百人。事變勃發以來北支に於ける一般土木建築用のセメントは殆ど本工場製品である。尙公司當事者は日本側との合辦とすることが將來の發展策であるとし十一月下旬來興中公司と合辦の折衝を續けてゐる。

硝子工業

豐源機玻璃製造股份有限公司 (日支合辦、本社英租界、工場秦皇島) 事變により荷動き減退してはゐるが、操業状態は事變前と殆ど變らず。現土職工八百人。日産五百箱。

長發原料器工廠 從來ランプホヤ及び化粧瓶を製造してゐたが、事變前から釜修理のため休業中で職工も解散してゐた。九日初め修理成つたが販路杜絶しをるため現在尙休業中。

玻璃鏡器工業

華北玻璃廠 支那事變勃發前は職工八十人を使用してゐたが事變以來實行不振となつたため七月下旬半数を解雇、職工二十五人、見習工二十五人としたが天津事件によ

金屬製品工業

天興製機工廠 七月二十九日一時閉鎖を發表したが職工の一部は廠内居住を希望したためそれらには食費のみ給することとして希望を容れ、他の職工には一時金を給して解雇し休業一ヶ月、九月初旬から再開した。その間右給與による損失約五百元。現在職工三十八人。日産鐵板、鐵線約百屯(事變前は日産百七十屯)。原料の仕入れには稍困難を感じてゐるがストックで漸く維持してをり、製品は市内需要のみに捌けてゐる。

和濟製釘廠 同工場(特三區大馬路)は事件當時職地區となり職工全部離散し工場建物の損害約四百元。爾來休業二ヶ月半、十月中旬再開し現在職工二十五人。日産洋釘百斤入二十機(事變前は約百機)。

裕隆製針工廠 事件後休業し未だ復活せず。
天津製機工廠 事變前から六里臺に工場建設中で事變により中絶中のところ十一月末完成するに至り、十二月十五日火入れを行つた。現在の設備では日産六屯餘であるが設備全く整へば二十七、八屯の生産可能となる筈。

洋灰工業

啓新洋灰公司 (本社佛租界大道、工場唐山) 事件中

り操業を中止し十二月一日再開。現在職工(見習工とも)五十二人。製品は磁器皿のみで販路は今のところ市内に限られてゐる。

三興製機公司 事件當初火線下に置かれたため職工四十名の市内内に在るものには一箇月分、市外のものには二箇月分の給料(合計約四百元)を與へて解散し十一月二十五日五名を復帰せしめて操業再開したが、現在僅に鐵盤その他を製造しをるのみ。

大新製機廠 七月三十一日わが軍の特一區掃蕩に當り休業職工十五人を解雇、五人を残してゐたが、十一月二十日職工を十人とし再開。現在各種玻璃機器日産四十打。

興源製機廠 事件以來休業中。

德記製機廠 事變前より閉鎖。

東豐製機公司 (日資) 事件後休業状態にあつたが十一月初旬より正式に操業再開、現在職工約八十人(事件前は二百五十人)、製産率は事變前の三分の一。材料(鐵板、藥品)は事變以來輸入杜絶し相場暴騰しをるためストックによつて今春の解氷期まで持續すべく目下石鹼箱、コック等的小型物のみを製造してゐる。

鹽 運 工 業

合記化學工業製造公司 (本社伊租界、工場海河縣
上莊)天津事件發生後十餘日休業し、八月中旬再開した。
當時職工中に辭職するものが多かつたが現在職工約百名
で、日産硫化曹達、乾曹達及び硫化染料等合計約百樽(事
業前の七割)。製品は全部大株主たる萬泰恒顏料莊一手扱
ひであるが事業以來奥地はもとより市内の賣行も殆どな
く營業上の影響甚大である。

劑中製酸廠 從來利中牌三十六席梅步氏硫酸毎月約百
箱を製造、これを義成號一手扱ひにて市内各染廠に販賣
してゐたが事件突發により休業、職工約三十名を解雇し、
その後九月中旬再開したものの、需要極めて少なきたため一
週間足らずで再び閉鎖し、その後は在庫品を販賣しをる
に過ぎない。

永利化學工業公司 (本社佛租界、工場塘沽)わが軍の
塘沽掃蕩により同工場が支那軍用の毒瓦斯を製造してゐ
たことが曝露されたことあり、操業は天津事件發生直後
停止され、職工及び事務員全部解散し正式停工を發表、
爾來今日まで閉鎖のまゝであるが、興中公司是合辦事業
として再興の希望を有してゐると傳へられる。

過しをるも尙七十萬元に達する在荷を擁してゐるため、
經營當事者は短期間に操業再開の意志無く職工は悲慘な
生活に沈淪してゐる。

北洋火藥公司 事件前の日産約三十箱。事件當時の在
荷三十萬元に上り、しかも荷動き皆無となつたため八月
中旬より操業中止、現在尙再開するに至らない。職工は
休業發表とともに殆ど解雇し現在約八十人を残してゐる
が、一人毎月六元を支給してゐるのみである。尙株主中
に公司の更生策として日支合辦を希望するもの最近頗る
増加しつつあり、さらに日本側に工場の一部を譲渡した
き希望を有するものもあり注目されてゐる。

染 料 工 業

中國有機顏料化學廠 天津事件發生とともに休業、そ
の後再開の時機を待つてゐるが奥地よりの引合全くなき
ため操業再開するに至らず、現在佛租界の營業部に於い
て在庫品の販賣を行つてゐるのみであるが、二月初めか
ら工場を再開するとの説がある。

久興顏料化學廠 從來硫化黒日産約二千斤であつたが
營業成績頗る悪かつたため、天津事件を機として完全に
閉鎖し機械その他の設備は全部取外し搬出したつてゐ

渤海化學工業股份有限公司 (工場漢沽) 一九三七年

二月金融困難となり操業停止後六月の債權者會議に於い
て無擔保債權額百十九萬九千六百餘元に對し機械類擔保
の債權者中國銀行より十二萬元を提出して一割宛償還
し、同銀行にて引受經營することに多數の同意を得たが
英商怡和洋行(債權五萬五千餘元)及び鹽業銀行(製品
抵當四千元、信用貸一萬八千元、利息千元)は異議を稱へ
て調印せず、その後市商會の斡旋も甲斐なく七月二十六
日株主會は同公司の解散を決議し、次いで九月新華信託
儲蓄銀行が四十萬元を以つて同公司一切の財産及び權利
を大債權者中國銀行より買収の形式をとり、事業を再開
することに決定したが、現在未だ操業再開に至つてゐな
い。

燐 寸 工 業

丹華火藥公司 事件前日産二十七、八箱(一九三五年頃
までは日産七十箱)。その後職員の擴大によつて奥地への
販路杜絶せるため八月初めから操業中止の已むなきに至
つた。職工七百五十人は未だ正式に解雇を申渡さず廠内
に於いて雜工に従事する約百五十人には食費として一日
十二仙宛を給しつつあるが、休業以來すでに五箇月を經

塗 料 工 業

中國油漆顏料公司 事件突發當日より休業、職工六十
餘名は一時解雇したが、一箇月後九月初旬から市内に在
る職工二十名を再僱してベイント製造を再開、當時日産
約二百桶であつたが十月に入るや市内及び北京方面の需
要漸増し來つたので更に八名の職工を僱し現在生産約三
百桶に達してゐる。最近季候の關係上賣行少々しくない
が春季に備へて操業を繼續してゐる。

東方油漆公司 盧溝橋事件勃發後空氣險惡を慮り七月
十五日休業を發表、職工二十五人は即日解雇した。事件
後工場附近の交通不便のため現在尙再開するに至らず、
唯在庫品のみを賣捌いてゐるが、舊正明けには操業再開
の見込である。

保華油漆廠天津分廠 天津事件當時も休業せず、引續
き操業中である。日産額未詳。

永明油漆公司 天津事件以來休業中。

石 鹼 工 業

天津鹽鹼公司 東馬路に在つた營業部が事件當時砲彈

のため稍損害を蒙つたが製糖廠(河北都家園子)は異状なかつた。しかし爾後の營業困難と見て七月二十九日職工約五十人に對し各十元乃至十五元を與へて解散し十月末まで休業、十一月初から職工十餘人を集めて再開したが販路は天津、北京のみであり且つ大量のストックを擁してゐるので品切れの種類を撰んで毎日約五十打を製造してゐるが、原料仕入れに困難を感じてゐる。

光瀾機造公司(露支合辦) 事件發生當日より九月中旬まで約五十日休業、手持原料處分のため九月二十日再開し約一ヶ月間操業、原料皆無となるや再び休業したまゝ現在に至つてゐる、現在製品在庫七百餘箱(一箱四十個)約四千元見當で、これを販賣しをるに過ぎない。

其他工場、興業造膜公司、陸華製膜廠、中昌香皂廠、大業、生記、恒達、信記各造膜工廠等は事件後約二週間乃至一ヶ月休業、その後原料手當困難のためそれ〴〵操短しつゝも繼續してゐるが生産高未詳。また資本金千元以下の小工場が約五十軒あり、いづれも職工を半減して繼續してゐる尙本業職工の賃金は月十四、五元である。

皮革工業

華北製革股份有限公司 靴底革及びベルト製造を主と

を蒙つたため隣接せる本廠も流彈の飛來多く建物の損害約一千元に上つてゐる。従つて事件當日より休業し九月初旬漸く操業再開したが職工が集まらず、現在も十人に過ぎず。日産五百斤(事件前は二千斤)程度。製品は未だ奥地向けは動いてゐないが市内販賣のみで大體消化されてゐる。原料襪襪及棉屑の手當は不足してゐないが、パルプ及び桑皮の仕入に困難を感じてゐる。

餘記紙廠(營業所伊租界、工場鹹水沽) 天津事件によつては營業所、工場とも何等損害なかつたが製品(馬糞紙及び牛皮紙)販路は主として山西、陝西兩省で該方面との交通杜絶のため在荷の賣捌困難であり、且つ原料たる葛沽、靜海、文安地方の稻葉が同地方大洪水のため殆ど入手出來ず、事件直後から休業したまゝである。

製粉工業

壽豐麵粉股份有限公司 事件前から原料小麥の不足により第一、二、三工場とも休業状態に陥つてゐたが、事件突發とともに全休するに至つた。同公司では春の收穫季に河南に於いて約二十萬元の小麥買付をなし、正に輸送せんとしてゐるところに蘆溝橋事件突發し鐵路の交通杜絶せるため、急ぎこれが入荷方法を講じてゐたが鄭州

し市内靴店及び紡績その他大工場に賣捌き三六年の營業状態頗る良く、昨年六月の株主會議に於いて資本金三十萬元を四十萬元に増資方決議し新株募集に着手したが、天津事件突發により工場(河北三條石)一帶戦火の下に置かれたため休業の已むなきに至り九月末まで約二ヶ月休業十月初旬紡績方面及び市内靴店の需要抬頭したので職工四十人を集めて再開し、爾後月産約二千五百枚程度である。最近の業態は維持には格別困難を感じてゐないが、新株募集頓座しをるため同公司の前途は大打撃を蒙つたかたちである。

其他工場 この外に三十二工場あり、事件後尙休業中もの二十工場に達するが詳細未詳。

尙事變前の製品販路は市内約四割、北京、山東、陝西、河南等各地向け約六割。原料牛、馬皮は河北省興集鎮、邢台及び唐縣等にて大量買付けしてゐたのであるが事變以來買付困難に陥つてゐる。職工の待遇は月十七元乃至二十五元前後見習工は二年間は無給、その後六、七元を給する。

製紙工業

新成機器造紙廠 事件當時公大第七廠が支那軍の攻撃

その他に置いてあつた買付小麥はその後全部支那軍の徵發するところとなり大打撃を受け、残された原料入手の途は天津附近産の小麥のみで、これが買付を焦つたが長雨と水害で濕氣を帯びてゐるものが多く若干の在庫原料も亦濕氣を帯びてをり、八月十五日舊職工百餘人を伊太利租界の第一工場に集め、機械の一部運轉によつて操業再開し、製品は右の如き原料小麥の濕潤により品質著しく低下したものであつたが、それでも需要旺盛で日産七百餘袋(晝夜製産能力六千五百袋)は四元九十五仙と云ふ高値で消化し盡された。斯くて三週間操業後原料皆無となるや九月五日操業を中止したがその後玉蜀黍の出廻も多く、その粉の需要の多いのを見て十一月十日再び職工百人を集めて玉蜀黍粉製造を開始、日産二千袋(相場黄粉二元九十仙、白粉二元八十五仙)で繼續してゐたが、十月上旬から津浦沿線及び大名、道口鎮等より小麥出廻り、一萬餘袋を入手し得たので玉蜀黍製粉を中止し、また第二工場(河北趙家場)も再開、十二月下旬から二工場を運轉、現在日産約六千袋に達してをり、小麥は引續き仕入れを急いでゐる。現場兩工場を合し職工約二百人。今次事變による間接損害は前記小麥徵發によるものと休

業による損失を合せ二十五萬元に達する見込。
福星麵粉股份有限公司 天津事件後休業約一箇月、九月一日から職工百五十人を集めて操業再開したがこれまた原料小麦の手持少なかつたため日産五、六百袋、約三週間操業したのみで再び休業、その後銀行倉庫に擔保となつてゐる小麦及び天津市附近の交通可能なる地區で買漁り十月下旬から一部分を再開したが原料缺乏を慮つて日産四百袋程度に制限してゐるところ、小麦の入荷案外順調且の大量買付けに成功し十二月十四日より全操業を開始、現在一晝夜製産七千袋に達し製品は一袋も残さず消化し盡されてゐる、尙同公司も事變前省内、河南及び燕湖一帯で小麦約三十萬元の大量買付けをしてゐたが、その後同方面との交通杜絶のため運搬出来ずそのままとなつてゐるが、恐らくすでに全部支那軍に徵發し去られたものと見られ大打撃である。また事件前同公司の各銀行、銀號との貸借は借越五萬元に上つてゐたが、その後の操業が前記の如く極めて思はしくなかつたため一萬五千元の拂込をなしたのみであり今次事變による間接損害も約三十萬元に上つてゐるが、最近愈々恢復途上に向つてゐるので經營業者は將來を樂觀してゐる。

嘉慶麵粉有限公司 (嘉瑞改名) 前經營者より譲受け改組後操業再開せんとしてゐるところへ事件突發し頓座するに至り、爾後放棄されてゐたが、市社會局では民衆食糧と關係深き本工場を閉鎖しおくことの不利に鑑み經營主關者に適當の處置を促した結果、日本側に讓渡することに決定し、最近三井がこれを買収したが、近く愈々復興のスタートを切る筈である。
慶豐麵粉公司 事件前から閉鎖してをり今尙は再開の機運なし。

清涼飲料工業

明星汽水公司 シーズン最中に事件發生し、しかも伊太利租界に在つて萬國橋の往來困難なるため七月二十九日來休業の已むなきに至り大打撃を蒙つた。九月一日再開したが主なる販路たる各租界の販賣店がすでに租界内に在る同業者に奪はれてゐるため消化思はしからず、それに北京及び芝罘等の販路も交通不便のため該方面への出荷激減したので、九月下旬再び休業、シーズンを無爲に終り、可成りの缺損を見てゐる。來る五月のシーズン來を待つて再開する模様である。
光明汽水公司 事件によつて佛租界の居住者激増し需

要多く、同租界内に在ることが極めて有利なる條件となり、一日も休業しなかつたのみか却つて職工を増し毎日サイダー五百打を製造したが英佛租界に消化し盡され非常な好況を呈した。九月に入り明星汽水公司の操業により賣行減少し、その後シーズンを超したため現在では職工三十人を臨時工とし、品切れの時のみ日産二百打程度の臨時操業をなしてゐる。

山海關汽水有限公司 (英資) 東站に近きため事件當夜より火線下に曝され流彈を蒙つて建物の一部に被害あり、その後附近一帯が戒嚴下に在つて職工の出動不便のため約二週間休業、八月十二日再開し、當時支那人經營の工場が交通上の束縛を受け販賣歩々しからぬ機會に乘じ全能力を擧げてサイダー日産千打に達し、各租界の需要を殆ど獨占するに至り昨年同シーズンに比し三割以上の賣上増加を見た云はれてゐる。最近は冬季のこととて需要も減じ料理店、旅館、果物店及び娛樂場等に賣捌かるのみで、職工約十人で日産約百打前後。

屈臣氏製氷工廠 (英資) 事件當時も休業せず、現在日産サイダー約五十打。
鴻興汽水公司 北馬路に在つて事件以來休業約一箇

月、九月上旬再開したが、華街の賣行は殆どなく、租界内の販賣店はすでに同業者に奪はれてゐるため全く不振で、約二週間操業後休業したまゝ現在に至つてゐる。

其他工場 約九軒あるも目下シーズン外であるため全部休業中。
 尙華人同業者の事件休業による缺損約八萬元の見込。

卷煙草工業

永泰和烟草公司 (英米資本の順中運銷烟草公司委託製造) 天津事件後一週間休業、八月五日再開後奥地向不振のため職工を整理して約五百人とし、現在日産約六百萬本(十時間能力約千五百萬本)内外の低能率で續けてゐるが、原料仕入及び販路縮減に弱り、近く一時休業すると傳へられてゐる。

正星洋行 (希臘資本) 「吉金」「僧帽」二種を天津及び北支各省に賣出してゐるが、英米煙草製品に比し品質劣るため從來賣上げ少なかつた。天津事件發生とともに約二週間休業、八月十五日再開したがその後間もなく海岸線封鎖實施により支那人工場たる南洋兄弟煙草公司、華成公司、華非公司製品が上海からの入荷杜絶せるに乗じて職工を四十人に増員し毎月約三十萬本を生産、小賣値を

吊上げ實行き極めて良好であつたが十月中旬から競争品の進出著しくなつたため価格を舊に復し、次いで原料漸減し速急に手當困難となつたため職工を二十人に減じ日産約十萬本程度に操短してゐる。

協和煙草公司(希羅資本) 事件後休業一箇月、九月初旬から再開した。製品は高級品のみであるため事變の影響を受けず、事變前の操業と殆ど同じ状態である。現在職工三十人、日産十萬本程度。

製 業

久大製鹽公司(本社佛租界、工場塘沽) 天津事件發生の當日から休業、三箇月後の十一月一日から再開したが密輸鹽多くまた奥地との交通不便にて販路激減しをるため全操業に至らず、現在職工二百人、日産精鹽約一千擔(事變前は約二千五百擔)で、公司當事者は十二月までに缺損二十萬元を超えてゐると稱してゐる。

植物油工業

大慶油業公司(佛支合辦) 事件當日より休業一箇月半九月二十日再開し職工二十名を使用して胡麻油、棉實油等日産約二十噸に上り従來の製産量と大差無かつたが、

きにより十一月初旬より職工を十五人に減じ、日産五、六百斤に操短し現在これを繼續中で春以後の輸出に期待してゐる。

利通油廠(米資) 事變前職工五人、胡麻油、落花生油を半人工、半機械により毎日約千七百斤を製産してゐたが、天津事件當日より休業、その後輸出不振のため未だに再開せず。

利中油廠 七月以來休業中で現在機械修理を進めてをり舊正明後操業再開の見込。

恩勤油廠 事變前より工場建築中で事件突發により工事停頓してゐるが今夏までに竣工せしめ輸出恢復を待つて操業開始の筈。

再他の小工業

メリヤス工業 事件前の同業者約二百五十軒で資本金は最高一萬元(十三軒)最少二百元(七十七軒)千元程度のものが最多数を占めてゐる。これは殆ど機械への投資で、機械は總計二千二百五十臺に達するが殆ど手動工程でモーターを使用するものは僅か十軒である。製品は靴下、シャツ、手袋、襟巻等で月産靴下約七萬五千打、冬物シャツの製造は秋季三箇月間で月産約四萬打、また夏シヤ

その後消化極めて少なく原料も缺乏せるため生産制限の已むなきに至り、十一月十五日から職工を六人に減じ現在日産五萬程度。

永豐植物油廠 事件前は職工四十人、日産棉實油五千斤に達してゐたが、事件によつて伊太利租界にある工場への職工の通勤不便となつたので休業一箇月(この間の缺損約一萬尤と云ふ)。九月初めから再開したが輸出不振のため職工は十五人に減じ日産約二千三百斤であつたが原料缺乏のためさらに十一月初旬から十人に減じ現在日産千斤餘に過ぎない。

厚達油廠 事件前は職工二十人で落花生油、芥子油、棉實油等製造毎日約五百斤(機械を用ゐず人工による)。事件突發とともに休業し九月二十日仲秋開け後職工八人を使用して日産約二百五十斤。製品は主として市内油廠に賣捌き輸出は皆無。

光華油廠(佛資) 事件後半箇月餘休業、八月十六日再開した。當時は職工四十二人で日産千五百斤に達してゐたが各洋行筋の輸出殆どなきため製品は少しも捌けず、十一月初旬棉實油、胡麻油等約五千餘斤が輸出されたのみ、残り約八萬斤は在荷となつてゐる。この不振續

つは春季三箇月間毎月約三萬二千打を製造してゐたのであるから年産額は大體靴下約八十萬打、冬シャツ(棉、毛)約十二萬打、夏・合シャツ約九萬打に達すると見てよいであらう。職工の七割までは見習工を使用してゐるが小資本の關係上十人以上の職工を使用するのは僅か三十五軒他は二人乃至六人と云ふ小人数である。製品販路は市内及び省内、綏遠、山西、陝西各省に亘つてをり事件前は同業者全部好況を呈してゐた。今次天津事件惹起さるゝや仲秋まで殆ど休業、九月下旬約百六十軒が操業再開、十一月末迄にさらに三十軒復活し、現在では約二百軒が操業してゐるが従業員は本職工約五百人、見習工約二千二百人、製品は奥地向け殆ど杜絶してゐるため業態極めて不振である。現在の製産額は靴下及び冬シャツを合せ月約四萬打程度(事變前の約五割)。

織布工業 事件前の同業者約二百十軒、そのうち一萬元程度の資本を有するものは僅か四軒、千元乃至それ以下の資本によるものが九十%を占めてゐる。機械は約三千臺を有し職工は一臺一人當りであるが、實際は二千人足らず、それも半数は見習工である。生産高は一日一臺一疋半平均と云はれてゐるから三千疋は優に生産してゐる

たものと思はれる。製品の七割までは西北各省に向けられてゐた。今次天津事件による直接損害は殆どなかつたが全部約二箇月に亘り休業、九月下旬から約百軒が漸く再開し、職工約七百人で操業を繼續してゐる。後半數即ち約百軒は閉鎖したまゝである。

染織工業 事件前の同業者約百五十軒で殆ど市の郊外に在り。その資本額は十萬元のもの一軒(大新提花公司)一萬元前後十二、五千元前後二十七、千元前後五十二、殘餘の五十八軒は五百元前後である、織機は合計約二千四百臺職工約三千四百人(このうち見習工約二千三百)製品は主として麻織物で明華葛、華絲葛、雙絲葛、國華梯、竹簾葛、明星葛及びセル等あり、製産量毎月約十萬疋に上つてゐた。販路は京津一帶及び西北各省に亘り従來の營業狀態は一九二六、七年が最も良好、二八年に至り原料の騰貴と製品市價の低落により缺損甚しく閉鎖するもの相次ぎ、當時三百軒の業者が一時百軒に減少したことあり、次いで三一年頃から漸く持直したが、三六年冀東貿易品の入荷多く、海關では本工業の製品もそれと同一視し奥地向けを禁止したため同業者の殆ど全部が一時操業中止に陥り、その後代表者が南京に赴き、財政部に請

願して漸く解禁され、爾後西北各省の需要多く今春までに大體原狀に復してゐたが事件突發により全部休業、職工を解雇するに至つた。九月下旬よりボツ／＼操業を再開するもの現れたが奥地向け荷動きが杜絶してゐる一方原料も缺乏してゐるので現在までに再開後引續き操業しをるものは約七十軒、臨時に時々操業するもの約三十軒、休業中約五十軒で、職工は約千五百人(内見習工千人)月産額は従來の約四割即ち約四萬疋程度。販路は今のところ市内及び冀東一帶に限られてゐる。

天津日本人工業者同業組合

- 怡豐 橡皮工廠 ゴムタイヤ製造
- 三友洋行(三友機寸) 機寸製造其他
- 中華機寸株式會社 同
- 合資會社大清染料工廠 硫化黑其他染料製造

- 合資會社大和化學染料工廠 硫化黑其他染料製造
- 福美津染料工廠 同
- 泰山膠皮工廠 ゴム靴製造
- 瀨口膠皮工廠 ゴム靴ゴムチューブ製造
- 中村公司 ゴムタイヤ製造
- 西長橡皮工廠 同
- 株式會社武齊洋行 骨粉製造其他
- 株式會社内外化學肥料公司 骨粉膠粉石鹼製造
- 合資會社瀧川公司 寫眞臺紙製造其他
- 華隆製釘工廠 製釘
- 清水洋行 釀造其他
- 合資會社正華洋行 製油
- 永信料器廠 硝子器具製造
- 義公司 同
- 東華機磁公司 玻璃機器製造
- 永源號 坭壚製造
- 大豐化學工廠 化學藥品製造
- 乾卯商店 化學藥品
- 振業織染工廠 染色
- 井澤洋行絨絨廠 絨絨製造

- 華北東亞煙草株式會社 煙草製造
- 天津製氷冷藏株式會社 製氷冷藏
- 三陽洋行 羽毛加工羽根蒲團製造
- 中東公司 印刷
- 大田家畜市場 屠獸
- 豐田汽車工廠 自動車組立修理
- 吉田號 酒造
- 合資會社第一工業公司 建築工事請負
- 出張所 酒造
- 輝芳化學工廠 酒造
- 維新化學工藝社 硫化黑其他染料製造
- 天津油廠 製油

(註) 其他とあるは前掲業種が主要ならざるもの。

纖維工業

紡績工業

北支における紡績工業は北支土着工業中最尤なるもの一つである。而も支那工業において最大の資本を投下しつゝ誇るべきだつた紡績業も日本の在華紡のめざましい進出に壓倒されてゐたのが日支事前の情勢であつたが

これはわが國産業の伸展を語る反面支那紡績によつて代表さるゝ支那工業の發展段階を物語るものに外ならぬ。元來北支は支那最大の棉花産地であり然も支那側の増産計畫や日本側の改良増産指導は近年頗りに好轉し實績を示しつつあつた。すなはち從來その多くが舊式手工業の域を脱せず極めて幼稚であつたがいはゆる日本の北支經濟開發の機運成熟以來日本資本の北支紡績業への進出はまことに驚異に價するものがあつた。そもそも日本紡績工業の對支投資は上海から始まり次いで北支における進出の據點を青島に求めてほば發展の軌道に乗じさらに昭和十一年夏以來内地有力業者の殆んど大部分が請つて天津進出を計畫しつるある際今事變の勃發を見たものである。事變の勃發は前記の如く邦資紡績業の天津進出競争に一頓挫を來したばかりでなくその北支據點である青島日本紡績に「壊滅」を以て形容されうる打撃を與へ、さらに輕工業であるゆゑを以て事變後においてもその再建乃至進出には相當の制限が加へらるゝに至つた。すなはち現地機關としてはこれ以上日本紡績資本の進出を許可することは内地紡績との相剋を招來し且つ大局的に見て資本の二重投資を誘致する結果に陥ることになるので北

支における紡績の新設を絶対に許可せず既設工場の擴張も天津における邦資紡で許可済のものゝ奥地の華人紡で接收委託經營中のある程度の擴張以外は許容しない方針を決定したものである。元來全支における紡績は事變前において約五百萬錠を算し全支人口に比し約八十人に對する一錠の割合であつた。而してこれを全世界の約十三人當り一錠に比較すると今日迄の支那紡績業の位置が如何に貧弱なものであるか知られる。それに今次事變によつて支那紡績は全滅せるもの凡そ百萬錠、半破壊によつて運轉不能となつたものが百十三萬一千錠、損害額一億二千萬圓と推定され現在北支における紡績は僅かに六十萬錠しかなくこれを北支棉花の増産計畫と併行せしめるには北支紡績を三百錠以上に擴張することを必要とされてゐる。たゞし政情、農民購買力の實情に鑑み北支紡績は先づ差當百五十萬錠程度の設備にまで再建乃至復舊の度を進めることが適宜の措置であると云はれてゐる。とは云へ北支紡績は事變の慘害に拘はらずその復興工作は見るべきものがあり今日までに事變前の約五十二%に當る五十九萬錠近くが運轉を見つゝある。また紡績建設地としては從來の天津集中主義から濟南、石家莊など

を軸とする奥地主義に變化しつゝある傾向にある。右はこれらの地が棉花の集散地であること以外に奥地購買力の恢復と増進とが基本課題であることを示すもので別項の如く青島紡績再建の際も濟南移轉設が現地の意向として傳へられたほどある。なほ事變後支那紡績は濟南、石家莊、太原、山西などの各工場が經營をわが方に接收されたがこれは過去の日本紡績資本の排漢が事變後その技術、經營の行使による支那紡績死蔵資本の更生策に取つて代りつゝあることを示すものに外ならぬ。復興状況に關しては青島紡績工場中日清紡、同興紡の如く九月末までに工場建物の工事を終り機械据付中で十月末には一部

年	華紡	%
一九三二年	二,五三三,三九	五二.三
一九三三年	二,六四三,七八	五九.五
一九三四年	二,七九三,三三	五九.二
一九三五年	二,八四三,二八	五七.〇
一九三六年	二,九〇三,一八	五五.〇

北支三省邦資紡績現有勢力 既設施設は精紡機百五萬餘錠で新増設計畫中のものを合し百九十萬錠に達し需給關係から見れば當然計畫の完成からさらにこの計畫の擴張を必要とされてゐる。すなはち北支紡績工業は日本の

機械の運轉を開始する豫定であつたが機械部分品の到着が一般的な復興材料難で困難な折柄遅延し全般的操業の見通しはつかぬ模様である。復興材料の免稅期間は十一月末日限りであるが九月末までに輸入されたものは定量の二割にすぎない。因に六月以降九月末までに免稅復興材料として輸入されたものは機械器具類電氣用機具、建築用材料、セメント、硝子等で八百九十九萬圓に達してゐる。

最近日英支紡績勢力 華商紗商聯合會調査に依る最近五箇年間の日、英、支三箇國の支那紡績界に占むる勢力の消長は次表の如くである。

日紡	%	英紡	%	合計
一,七七六,八	三九.七	一,八三二,六	四〇.八	四,六一〇,四
一,八二二,六〇	三九.〇	一,八四九,八	三九.九	四,六一二,四
一,八七三,三二	三九.三	一,八四九,八	三九.七	四,七二三,一
一,九〇〇,四〇	三九.九	一,八二二,八	三九.七	四,七二三,二
二,一五五,八	四三.八	一,三三三,六	二八.六	五,〇八九,四

輸出統制による紡績製品の對支輸入難のため今後好轉し地場消費製品の生産に一段と活況を呈するの建前から天津在華紡績同業會の如きも當局の新増産施設の制限の撤廢、擴張不許可方針の再檢討を要望中である。

北支三省紡績工場既設並新增設計畫現況

種別	河北省		山東省		山西省	
	既設	新增設計	既設	新增設計	既設	新增設計
工機	三三、三四、〇〇	五〇、〇〇、〇〇	三三、〇〇、〇〇	三三、〇〇、〇〇	七、〇〇、〇〇	一、〇〇、〇〇
精機	一、二〇、〇〇	—	四、〇〇、〇〇	—	三、〇〇、〇〇	—
總機	三三、〇〇、〇〇	—	三三、〇〇、〇〇	—	三、〇〇、〇〇	—
織機	三三、〇〇、〇〇	—	三三、〇〇、〇〇	—	三、〇〇、〇〇	—
機數合計	三三、〇〇、〇〇	—	三三、〇〇、〇〇	—	三、〇〇、〇〇	—

北支三省紡績綿糸布需給關係現況 (十三年七月現在)

種別	北支	山東	山西
北支紡績生產額	四六七、〇〇〇 俵	—	—
北支紡績輸入額	八六、〇〇〇 俵	—	—
北支紡績輸出額	五五三、〇〇〇 俵	—	—
北支需要額	—	五二六、〇〇〇 俵	—
北支紡績生產額	七、九三〇、〇〇〇 反	—	—
北支紡績輸入額	五、七五〇、〇〇〇 反	—	—
北支紡績輸出額	一、三六〇、〇〇〇 反	—	—
北支需要額	—	一、七五〇、〇〇〇 反	—

青島紡績の復興はそれが山東農民から年百三十萬ビクル八千五百萬圓の巨額にのぼる原料を購入してをり省内農民の購買力培養に不可分の關係を持つことにおいて、頗る重大な意義を有しました。青島紡績工業に依存した支那人工人二萬人およびこれら家族六萬人計八萬人の大衆の失業問題が深刻な問題として取上げられ、さらに濰縣を中心とする支那側の加工綿布工場も青島からの綿布供給が阻止された結果致命的打撃を蒙るものである。とはいへこれが平時であつたならば青島紡績の復活はさしたる問題や波瀾をはらむことなく急速にその實現をみたであらうが日本の戦時經濟體制のさなかにあつたので政府との折衝、被害會社との相剋等も複雑をきはめ据付紡績機の各社割當、すなはち最後の具體的方法が樹立されるまでにはじつに迂餘曲折を重ねて再建問題が惹起されたことは周知の通りである。

青島紡績の復興はそれが山東農民から年百三十萬ビクル八千五百萬圓の巨額にのぼる原料を購入してをり省内農民の購買力培養に不可分の關係を持つことにおいて、頗る重大な意義を有しました。青島紡績工業に依存した支那人工人二萬人およびこれら家族六萬人計八萬人の大衆の失業問題が深刻な問題として取上げられ、さらに濰縣を中心とする支那側の加工綿布工場も青島からの綿布供給が阻止された結果致命的打撃を蒙るものである。とはいへこれが平時であつたならば青島紡績の復活はさしたる問題や波瀾をはらむことなく急速にその實現をみたであらうが日本の戦時經濟體制のさなかにあつたので政府との折衝、被害會社との相剋等も複雑をきはめ据付紡績機の各社割當、すなはち最後の具體的方法が樹立されるまでにはじつに迂餘曲折を重ねて再建問題が惹起されたことは周知の通りである。

第一次復興案 全壊後二月十九日在華紡績同業會は左の如き第一次復興計畫案を作成した。

一、据付充當紡績機は内地休眠機の一部を移轉せしめる。

二、一社紡績五萬錘、織機一千臺。

三、復興資金として政府に對し五千萬圓の低資融通を仰ぐ。

然るに目標の一とする据付紡績機の割一主義は公平を缺ぐものとされて修正され直ちに第二次復興案が作られた。

第二次復興案 第二次案は紡績機設備の基準を各社壊滅前の据付設備および増設確定計畫を顧慮し紡績四十五萬錘、織機九千臺を九社に按分割當——最高は鐘紡の六萬四千錘、二千一百臺、最低は國光紡の三萬二千錘、六百六十臺——とするものであつたが第一次計畫において内地紡と在支紡との相剋が見られた如くに第二次計畫においてはこれに加へて紡績各社間の利害對立乃至は資本規模上の相剋が露骨となつた。すなはち大會社側は三分の一または四分の一の復興程度におかれるに反し内地紡小規模會社は有利であり在支紡専門會社は在支紡全體としての有利條件を益々強固ならしめた。だがこの案も商工省側の意向——青島紡復興の漸進方針、つまり一社當り三萬錘基準とし合計三十萬錘とすること、復舊充當機は内地休眠機を以てすべし——といふむしろ反對的要求によつて次の第三次案に変更された。

第三次復興案 第三次案の内容は精紡機三十五萬五千
 鍾、捻糸機三萬二千鍾、織機七百臺で右は据付鍾數に關
 しては賣買による各社間の機械融通は認めるが計畫量
 超過するが如き端數は認めぬ、との條件付で一〇%増の
 三十九萬五百鍾に最後の諒解が成立しかくしてデグザツク
 な過程を経て青島紡績再建のための原則が確立された。
 かくて青島紡績の第一期全部的完成は明年上期末か下期
 はじめの模様であり右完成後青島はこの三十九萬五百鍾
 と國光紡が買収した華新紡の殘存二萬八千鍾を合し四十
 一萬八千鍾となるが當事者は事變前の増設計畫と實數の
 合計八十五萬八千鍾を追息しさらに第二期計畫によつて
 九十萬鍾の實現を期してはゐるものゝこれは結果四十五
 萬鍾精々の程度に止まるものと見られる。

青島紡績復興狀況 爆破跡の整理に次ぎ工場建物の再
 建修理を急ぎつゝあつた在青島四方、滄口の邦資紡績工
 場中日清紡の如きは既に九〇%の復興成り上海紡、内外
 棉、日清紡、同興紡、豐田等も殆んど工場建物の建築を
 終り機械据付の進行次第年内には一部操業が開始される
 ものと見られてゐたが十月十五日先づ上海紡が他工場に
 魁け編入式を行つた。上海紡は十二年夏引揚前工事中で

あつた増設工場が未完成のため災厄を免れてゐたのでそ
 の完成を急いだため比較的早く出來たものである。その
 他建築完成期並運轉期は第一表の如くであるが事變前就
 業してゐた三萬近頃の男女工人は八月中旬現在で四千五
 百餘名である。軍宣撫班調査による各紡績工場的事變前
 後における工人就職の狀況は次の通り(八月十五日現在)

工場名	事變前		事變後	
	男	女	男	女
▲富	九〇三	九三	一八五	一
▲公	六〇八	三二	四八〇	二〇
▲日	一、〇〇六	九五二	三七八	一五
▲内	一、二〇九	二、〇〇三	四六六	一
▲國	一、二〇七	二、〇九	一、〇八七	四六
▲上	八六四	一、〇〇二	三三〇	一
▲日	三、五二六	一、八六六	一、六三三	一七
▲豐	四七七	二、九	一八〇	一
▲同	六三三	一、四七	二四〇	一

なほ各社工場建物の工事進捗率と操業開始豫定期日は次
 の通り

▲富	四五%(來年三月末)
▲公	年内見込なし(富士に同じ)
▲日	九〇%(一部十一月初旬)
▲内	八〇%(一部十二月頃)

▲國 光 操業中 八五%(一部十月中旬)
▲上 海 四〇%(年内見込なし)
▲日 本 五〇%(十二月頃の見込)
▲豐 田 興 九月完了豫定
▲同 興 九月完了豫定

因に全復興後の各工場使用工人の豫定數は

▲富	士	一、五〇〇	▲公	大	三、五〇〇
▲日	清	一、四〇〇	▲内	外	一、五〇〇
▲國	光	二、〇〇〇	▲上	海	一、七〇〇
▲日	本	二、五〇〇	▲豐	田	一、五〇〇
▲同	興	一、五〇〇			

合計一萬五千三百人で事變前に比較し約半減の有様であ
 る。

山東在魯紡の趨勢 青島における支那資本の華新紡は
 事變後新式機械を南方に運び残る舊式機械をアメリカ系
 の保險會社平安公司に譲渡の形式を取つてゐたのを國光
 紡が百九十六萬圓で買収し去る五月から既に操業を開始
 し現在では青島唯一の操業工場となつてゐるが華新紡四
 萬八千鍾の中二萬鍾は支那側が持逃げ舊式機械のみが残
 存してをり省内魯豐紡、成通紡、仁豐紡はそれぞれわが
 方の委任經營に移され寶記紗廠一萬三千四百鍾は數年休
 業のまゝである。

青島紡績濟南移轉論 紡績工業を非戰時的性質と認じ再
 建を不急とする説と共に青島紡績の濟南移轉説が現地か
 ら唱へられ相當根據ある主張であつた。すなはち青島紡
 績はその背景市場として山東、河南、河西を持つてゐる
 がこの意味においては青島よりもむしろ濟南を紡績地帯
 とした方が有利であり且つ山東棉産地帯と連結し濟南を
 中心とする工業力發展の促進に役立つといふのである。
 しかしわが在支紡績工業二十年來辛苦の結晶であり山東
 における權益の代表でありすべての點で自由且つ發展性
 を擔ふ青島を據點とする北支紡績ルートたる意味でもは
 や同地紡績が濟南に移轉するの絶對的の理由はないとの
 意向が依然支配的であつて前記の如く青島紡績自身の再
 建工作も着々進捗を見せつゝあるものに外ならぬ。

天津における邦資紡績狀況 日本紡績の天津進出の經
 過を見るに、一九三五年までは天津地方に紡績工場とし
 て裕元、恒源、北洋、華新、寶成、裕大の六工場があり
 裕大が負債によつて日本人の手に歸したのを除けば他は
 すべて支那人經營であつた。然るに一九三六年夏裕元お
 よび革新が鐘紡に買収されて公大第六、第七となつたの
 を初めとし寶成が東拓および伊藤忠商事の手に歸して天
 津紡績公司の經營に移り三十七年五月には裕豐紡が操業を

開始しこれと前後して上海紡、雙喜紡、吳羽紡、倉敷紡、岸和田紡、大日本紡、内外棉、和歌山紡、日清紡、日出紡、錦華紡、富士紡が争つて天津出願を企畫し事變勃發のため一時停頓するに至つた。事變後も上海紡、吳羽紡の如きは本年早々工事を開始した。三七年六月末における各社新設計畫並に増設計畫は次の通りである。

社名	新設計畫	増設計畫
上海紡	50,000	1,000
雙喜紡	50,000	1,000
吳羽紡	100,000	5,000
倉敷紡(中興紡)	50,000	1,000
岸和田紡	50,000	1,000
大日本紡(大康紡)	100,000	2,000
内外棉	50,000	1,000
裕大(天津紡)	10,000	1
實成(天津紡)	70,000	2,500
公大第六(鐘紡)	30,000	2,000
公大第七(同)	60,000	2,000
裕大	50,000	1,000
唐山華新	36,000	1

右計畫が完成すれば天津の日本人紡績は鍾數約百萬鍾、織機二萬二千五百臺を擁することとなり事變直前の北支紡績總鍾數にほぼ匹敵する筈であつたが右は當局が資金の固定化を防ぐの見地から北支における紡績工場の新設は當分認めぬ方針を決し天津の限度は大體四十萬鍾止りとなつた。而して最近許可指令(八月末企畫院第三委員會通過、九月初旬閣議決定)に接したのは上海紡、雙喜紡(滿洲福島紡)、岸和田紡三社で三萬鍾、七百臺、計九萬鍾で大略九萬鍾となるわけで同時に却下された吳羽紡以下は當分全く天津工場計畫は望みなきものとなつた。これによつて天津における邦資紡績工場は百十萬鍾への企畫を果す能はず従來の公大第六、第七、裕豐紡、天津紡第一、第二の外に新たに右三社が追加されて六社八工場となるわけで従前天津における紡績は凡そ三十萬鍾、消費棉花八十五萬擔と稱せられてゐたが今回三社の許可により四十萬鍾となりこれに要する本年度棉花は地場のみで百萬擔の豫定である。

在華日本紡績同業會天津支部
公大紗廠第六廠(上海製造絹絲株式會社—鐘紡—)
公大紗廠第七廠(同)

天津紡績株式會社第一廠(伊藤忠、東拓系)
天津紡績株式會社第二廠(同)
裕豐紡績株式會社(東洋紡系)
雙喜紡績廠(福島紡績—野村系)
上海紡績株式會社(東棉—三井系)
岸和田紡績株式會社(寺田系)
吳羽紡績株式會社(伊藤忠系)
大康紗廠(大日本紡績株式會社)
倉敷紡績株式會社(中興紗廠—大原系)
内外棉株式會社(中野合資—川郵系)
濟南紡績の現状 青島紡績業近年の異常な發展は省内の中部地帯に位置し購棉および製品販賣有利な濟南紡績業勃興の氣運を著しく阻害し僅かに魯豐紗廠の孤立的操業を見たのみで單に濟南は青島の背後地消費市場乃至中繼地を形成培養するに過ぎなかつたが民國二十二年(一九三三)成通紗廠、同二十三年(一九三四)仁豐紗廠が土着資本を以て設立され濟南は山東内陸紡績業地として青島と對立關係に立つに至つた。事變後これらの紡績は東洋紡、鐘紡、豐田紡に夫々經營を委託され富士紡もまた進出を計畫してゐる模様である。魯豐紡は東洋紡で經

營に當り二萬八千鍾、三月一日から操業を開始し華人職工二千五十名、日本人職員十五名、一日製産高綿糸四十捆、六〇%の能率をあげ鐘紡經營の仁豐紡は一萬六千鍾、同様三月一日操業開始、華人職工六百名、日本人職員三十八名、一日綿糸十七捆、綿布二百四十反を生産し能率六〇%である。成通紡は一萬九千六百鍾、三月一日から操業を開始し華人職工一千名、日本人職員三十二名、一日綿糸四十捆の生産能力を有し操業率は七〇%である。原料生産地と製品消費市場とを地理的に短縮することから生ずる各種の利益を考慮すれば濟南における紡績業の將來は相當多望なりと言ひ得よう。三工場の製品は青島紡績の太糸、中糸、細糸といふ上昇動向にあるに反し省内土布原糸用として十六番手が壓倒的であり二十番手以上の細糸は寥々たるもので僅かに魯通によつて河内向支那細布緯換用として生産されてゐたに過ぎない。濟南市場を中心としての背後地綿糸消化線は西は荏平柳城から河内大名に至り南は章邱、齊東から渤海に至るものでその需要量は年約十萬俵で内四萬俵は當地産、六萬俵は青島輸入品で品種は一〇、一二、一六、二〇各番手に亘つてゐるが十六番手は最も多く全體の六割を占めてゐる。

青島邦資紡績工場 (十三年十月現在)

工場名	所在地	設立年月	資本金	機械	事變前	事變後	建築完成	運轉期	備考
公大第五廠 (鐘紡)	青島四方	一九三三	公一五,〇〇〇,〇〇〇圓	精紡機 二八二六	二八二六	二八二六	明年一月	同三月	年内業見込なし
大康紗廠 (大日本紡)	同	一九三三	公三,〇〇〇,〇〇〇圓	精紡機 二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	本年九月	同十一月	
內外紗廠 (內外綿)	同	一九三六	公三,〇〇〇,〇〇〇圓	精紡機 二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	本年九月	同十二月	
上海紗廠 (上海紡)	同四滄路	一九三三	公三,〇〇〇,〇〇〇圓	精紡機 二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	本年九月	同十月	
隆興紗廠 (日清紡)	同四方	一九三三	公二七,〇〇〇,〇〇〇圓	精紡機 四三六〇	四三六〇	四三六〇	本年八月	同十一月	
豐田紗廠 (豐田紡)	同四滄路	一九三三	公一〇,〇〇〇,〇〇〇圓	精紡機 三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	本年九月	同十二月	
同興紗廠 (同興紡)	同滄口	一九三三	公一五,〇〇〇,〇〇〇圓	精紡機 三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	本年九月	同十二月	
富士紗廠 (富士紡)	同滄口	一九三二	公五〇,〇〇〇,〇〇〇圓	精紡機 四八〇〇	四八〇〇	四八〇〇	明年一月	同二月	

資來 (國光紡) 廠 (舊長崎紡)

青島滄口 一九三三 公三〇,〇〇〇,〇〇〇圓

天津及唐山邦資紡績工場 (十三年十月現在)

工場名	所在地	設立年月	資本金	機械	事變前	事變後	建築完成	運轉期	備考
公大第六廠 (鐘紡)	特一區	一九三三	一,〇〇〇,〇〇〇	精紡機 三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	本年七月	明年三月	工人三,〇〇〇人
公大第七廠 (鐘紡)	小子莊	一九三三	一,〇〇〇,〇〇〇	精紡機 三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	本年七月	明年三月	工人三,〇〇〇人 擴張工事九月完了
裕豐紗廠 (裕豐紡)	特四區	一九三三	一,〇〇〇,〇〇〇	精紡機 三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	本年七月	明年三月	工人二,五〇〇人
天津紗廠第一及第二 (天津紡)	特四區	一九三三	一,〇〇〇,〇〇〇	精紡機 三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	本年七月	明年三月	工人二,〇〇〇人
上海紗廠 (上海紡)	特一區	一九三三	一,〇〇〇,〇〇〇	精紡機 三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	本年七月	明年三月	許可
雙喜紗廠 (福島紡)	特四區	一九三三	一,〇〇〇,〇〇〇	精紡機 三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	本年七月	明年三月	許可
岸和田紗廠 (岸和田紡)	南開區	一九三三	一,〇〇〇,〇〇〇	精紡機 三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	本年七月	明年三月	許可
吳羽紗廠 (吳羽紡)	特四區	一九三三	一,〇〇〇,〇〇〇	精紡機 三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	本年七月	明年三月	許可
倉敷紗廠 (倉敷紡)	特四區	一九三三	一,〇〇〇,〇〇〇	精紡機 三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	本年七月	明年三月	許可
大康紗廠 (大日本紡)	六里臺	一九三三	一,〇〇〇,〇〇〇	精紡機 三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	本年七月	明年三月	許可
內外紗廠 (內外綿)	特一區	一九三三	一,〇〇〇,〇〇〇	精紡機 三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	本年七月	明年三月	許可
富士紗廠 (富士紡)	特三區	一九三三	一,〇〇〇,〇〇〇	精紡機 三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	本年七月	明年三月	土地買取のみ
唐山華新紡	河北省唐山	一九三三	一,〇〇〇,〇〇〇	精紡機 三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	本年七月	明年三月	日支合辦三〇,〇〇〇股設中

北支邦資以外の紡績工業

工場名	所在地	設立年月	資本額	設備	備考
恒源紡織股份有限公司	天津河北北西	一九三五	三,〇〇〇,〇〇〇元	精紡機 三〇〇〇 織布機 五〇〇	誠孚信託公司管理
北洋紗廠公記	天津特別第一區	一九三〇	三,〇〇〇,〇〇〇元	精紡機 三〇〇〇	同
達生製線廠	天津英租界十九號路	一九三〇	一,〇〇〇,〇〇〇元	精紡機 六〇〇〇	金城銀行管理
大興紡織股份有限公司	河北省石家莊	一九三三	二,一〇〇,〇〇〇元	精紡機 三〇一四 織布機 五〇〇	鐘紡委任經營
寶記紗廠	河北寶坻縣	一九三三	一,五〇〇,〇〇〇元	精紡機 一三〇〇 織布機 二六〇〇	休業中
青島華新紡織股份有限公司	青島滄口	一九一九	二,七〇〇,〇〇〇元	精紡機 二六〇〇 織布機 三二二	國光紡に買収さる
魯豐紡織股份有限公司	濟南城北林家橋	一九一九	二,〇〇〇,〇〇〇元	精紡機 二八〇〇 織布機 二〇〇六	東洋紡委任經營
成通紡織股份有限公司	濟南北商埠新河畔	一九三三	一,五〇〇,〇〇〇元	精紡機 一九六〇 織布機 一六〇〇	豐田紡委任經營
仁豐紡績股份有限公司	濟南商埠北	一九三三	一,五〇〇,〇〇〇元	精紡機 一六〇〇 織布機 一四〇〇	鐘紡委任經營
晉華紡織股份有限公司	山西省榆次	一九三三	四,〇〇〇,〇〇〇元	精紡機 三三三四 織布機 七五三	東洋紡委任經營
大益紡織股份有限公司	山西省新絳	一九二七	二,四〇〇,〇〇〇元	精紡機 一六〇〇 織布機 四〇〇	上海紡委任經營
雍裕紡織股份有限公司	同	一九三一	七〇〇,〇〇〇元	精紡機 八四〇〇 織布機 一三〇〇	上海紡委任經營
晉生紡織染工廠	山西省太原	一九三〇	一,〇〇〇,〇〇〇元	精紡機 六〇〇〇 織布機 三〇〇〇	鐘紡委任經營
益晉織染工廠	山西省祁縣	一九三〇	三,〇〇〇,〇〇〇元	精紡機 一〇〇〇 織布機 二〇〇〇	上海紡委任經營

(註) (A) 仁豐(イ)精紡機一臺、一〇、〇九七種、据付數に對する運轉割合は六五・六%、夜業は一〇、二八六種、据付數に對する割合六六% (ロ) 織機臺一八五臺、据付數に對する運轉割合七七%、夜業一八九種運轉割合七八・七%、工人日支九四三人。
(B) 魯豐精紡機一臺、二五、八二三種、運轉割合八九%、工人日支一六三六人。
(C) 成通精紡機一臺、一九、六〇〇種運轉割合九四%、工人日支一六七六人。

毛織工業

全支における羊毛産額の約六割は蒙疆および山西方面から産出されるため勢ひ毛織工業は他工業に比して比較的發達してゐる。併しそれは羊毛の品質から云つて高級衣料としての毛織物製造には適しないので羊毛の産地近くでは概して舊式工業として紡毛及びカーペットの生産が相當行はれてゐる。邦資による毛織工業は昭和三年天津における井澤洋行絨毛の開始を以て嚆矢とするが見るべきものはなかつた。昭和十二年滿蒙毛織株式會社が約二百萬圓の資本(百五十萬圓は工場建設費、五十萬圓は運

北支・蒙疆毛織工場

工場名	所在地	設立	資本額	設備	備考
東亞毛呢紡織有限公司	天津英租界二號路	一九三三	六〇〇,〇〇〇元	織機三臺、汽罐二基	株式
海京毛織廠	同 十一號路	一九三三	三〇〇,〇〇〇元	同 三〇臺、モーター四臺	株式
倪克紡毛廠	同 海大道	一九三五	一〇〇,〇〇〇元	同 一七臺	株式
仁立毛呢紡織廠	同 英國兵營後	一九三二	五〇〇,〇〇〇元	同 二六臺汽罐二基	株式
祥和紡毛廠	同 佛租界三號路	同	三〇〇,〇〇〇元	同 一四臺同 一基	株式
美古紳洋行天津分行(米)	同 八號路(本社米)	一九三〇	一,〇〇〇,〇〇〇元	同 三〇臺	株式
井澤洋行絨氈廠(日)	同 日本租界伏見街	一九二八	五〇〇,〇〇〇元	同 一五臺	株式

轉資金)を以て天津進出を企畫し特一區上海紡隣接地に二萬五千坪を買収し工場建設に移らんとしたが事變のため一時中絶し事變後建築方の許可を急いでゐるが未だその域に至つてゐない。なほ十月下旬同社は北京第一軍政製呢廠の工場機械器具、職工約三百名をその借入して直ちに操業を開始した。又鐘紡も事變後毛織物品の現地調辦主義に基き張家口に公大毛織廠を天津には英租界大沽路同華紡毛廠を本年五月九萬五千圓で各買収し公大毛織廠と改稱し北支産羊毛のみを以て製糸、製絨に當ることになつてゐるが原料高のため當分損失を覺悟の上で操業される。最近また包頭に日産一萬五千磅の洗毛工場建築を進めてゐる。

清河鎮陸軍織呢廠 北京清河鎮 一九二九
 西北實業公司毛織廠 山西太原北門外 一九二四
 綏遠毛織廠 蒙古聯盟 一九二五

絹織工業

絹織工業は山東省—特に芝罘、周村地方に偏在してゐる。芝罘は背後地に柞蠶糸および絹織製織を有し臨邱地方の養蠶および座繰糸、張店青島の機械糸、周村の絹織が知られてゐる。就中主なる工場は青島糸廠である。

青島糸廠 在青島唯一の邦人加工綿布並絹糸工場である。片倉系の青島絲廠であるが、事變で事務所、製糸工場、繭糸工場、煮繭工場、加工綿布工場、捺染工場、乾燥場汽織室、アルコール工場、講堂などは完全に爆破され宿舎の一部が僅かに残つた。残骸整理だけで二月中旬から約二ヶ月を要し四月に入つて沿線に買付た葉煙草の倉庫一棟が漸く竣工し、第二倉庫も完成に近い。次は加工綿布、捺染工場の再建である。本工場の方は機械を日本に注文してゐるのでそれが出来あがり秋までに取付を終れば十一月頃から操業開始出来る。豫定でアルコール工場の運

織機天臺原動機1,000HP 舊官營、滿蒙毛織經營
 同 九臺同動機P 官民合計 一九二七、一〇
 三〇〇,〇〇〇元

轉開始も秋頃までにはと豫定されてゐる。同廠は沿線の青州、坊子、張店に分工場をもつてゐたがこれも等しく破壊され本年春以來復舊を急いでゐる。

その他人絹織物は山東省では周村、河北省では高陽が中心地であり、就中周村は最盛地域で北京、天津方面に出貨し、人絹織物の方は蒙疆、河南、陝西、上海、南洋方面に輸移出を見てゐる。次表の外にも多數人絹工場が存在してゐる。

絹糸布工場

工場名	所在地	設立	資本金	種目能力
長盛絲織廠	芝罘	一九二四	三〇〇,〇〇〇元	絹綉 10,000疋
榮昌泰絲織廠	芝罘	一九二二	七〇〇〇	絹綉 二,〇〇〇疋
益興恒絲織廠	周村	—	三〇,〇〇〇	絹綉
青島糸廠	青島	一九二五	二,五〇〇,〇〇〇	絹糸
安昌織維廠	周村	—	100,000	絹布
同豐織維廠	周村	—	100,000	絹布
新記織維廠	周村	—	六〇,〇〇〇	絹布
元豐織維廠	周村	—	一五,〇〇〇	絹布

(註) かつて公大糸廠もあつたがさきに絹紡織に轉じた。

土布工業

山東省の濰縣および河北省寶坻、高陽地方には土布工業が盛んである。現在ではこの地方のものは殆んど機業としての形態を具備し手工業よりも機械力によつてゐるものが多いが特に無地物の土布は全く機織經營に移つて仕舞つた。河北省だけでも毎年約二十萬反以上の土布が生産され北支紡績製品の顧客としても土布工業は侮り難いものがある。

製紙工業

眞に徴々たるもので機械製紙業が支那に興つたのは光緒十七年上海に李鴻章の倫章造紙廠設立に始まり北支においては光緒三十一年山東省の樂元紙廠を以て嚆矢とする。従來の斯業はすべて支那人業者のボロ、藁、屑紙、桑皮、綿ボロ、麻袋、麥稈、油綿、草莖、葦ボロなどを原料とする小規模な操作でわづかに存在を認められてゐたにすぎない。したがつて年額三、四百萬元の輸入紙に

より市場は占められ近代製紙工業の發達は停滞し在來の連史紙、毛邊紙、畫心紙、自用紙、表心紙は極めて地方的需要を充してゐたにすぎぬ。然るに製紙の主要原料たる木材パルプの製造が世界的に行詰つて來たにかゝはらず臺灣製紙が鬼董を使用してゐる外は依然木材パルプに依存し來つた折柄南滿洲および北支に産する葦がパルプ原料として着目されるに至つた。昭和十一年秋六月事件後冀察政務委員會が成立しわが産業資本が續々北支に進出しはじめこれに伴つて葦パルプに着目したのが鐘紡と東洋製紙工業である。しかし鐘紡のは葦パルプ工場計畫であるから製紙原料としての葦パルプ使用は東洋製紙が嚆矢である。(農業—葦の項参照)

東洋製紙工業天津工場 當社は元來北支葦パルプによる製紙を目的に昭和十一年九月資本金一千萬圓を以て成立したもので本店は神戸であるが支店を天津佛租界八號路に置き(註現在支店工場と同所に移す)工場は天津から二哩下流白河左岸(天津縣灰堆鎮)に設け十月中操業開始に至つた。最近當社は野村系資本の積極的參加を受けることになり一面國策的特權會社として成立した(當時鐘紡も北支葦パルプ製造願出をなし當社と競願の結果當社

のみ許可)だけに北支における獨占經營の諒解を當時の北支政權および軍當局から得てゐるところ強味があり事變勃發によつても工場建設工事は中止しなかつた程で原料ならびに消費地の自然的な好條件もありまた滿洲特産による重亜硫酸マグネシア法は従來の曹達法よりはるかに節約出来るし同工場の將來は樂觀されてゐる。原料葦は白河上流勝芳附近の茂生地葦を買収したほか天津附近一帯の主要葦産地の採伐權並に租借權を獲得してゐるの一年二萬五千噸、向ふ五年間は手當濟となつてをり併用原料たる福州材年十五萬石は三菱商事と五箇年間契約済であるが事變のため暫く滿洲材を代用することになつてゐる。施設は天津—塘沽道路に沿へる約十四萬坪の敷地に工場設備總坪七千坪二萬坪の自然池を補工し機械は丸網式ヤンキーマシン一基、長網式ヤンキーマシン一基、フオードリニヤー一基、原動力は自家發電により十五噸釜のダイゼスター二基(二千五百キロワット)で第一期計畫は葦から日産二十五噸、年産五千噸の葦パルプを、福州材からはクラフトパルプを重亜硫酸マグネシア法で製造し葦伐採より製紙に至る一貫作業により年産額ハ毛邊紙三千噸、有光紙年産四千噸、兩更クラフト紙及筋入ハ

トロン約二千噸、印刷紙二千噸、フルス紙二千噸、模造紙二千噸合計二萬噸の製紙が豫定されパルプ國策の立場からまた農民救済の立場から多大の意義を以て將來を注目されてゐる。なほ八月中旬北京に創立された新民印書館の教科書用紙その他北支における洋紙の大半は同工場の製紙能力で賄はれることになる模様である。最近愈々操業開始に至つた。

なほ次表の如く太原の二工場は王子製紙の委任經營となり濟南の華興製紙は東洋製紙工業が企業に参加しさらに同地成業造紙公司さきに北越製紙が買収交渉を進めかけたが失敗し最近東洋製紙工業が委任經營することに諒解が成つた模様である。

西北實業公司製紙廠 資本金四十五萬元を以て設立された省營工場で印刷紙、包裝紙その他年産百三萬封度で王子製紙が委任經營となつたことは東洋製紙の北支市場獨占計畫に相當の影響を及ぼすものとされてゐる。

晉恒製紙廠 資本四十萬元で設立、各種紙日産約二十連を計上してゐたが水害のため停業中のものであつた。同じく王子製紙の委託經營である。

化學工業

燐寸工業

燐寸工業は山東省において最も盛んである。従前山東方面は青島並に濟南の工場によつて供給され山西は太原冀東方面は冀東貿易による滿洲その他の製品が入り、天津工場の地盤はわづかに京津地方のみに残されてゐた。元來各工場の經營内容は製品に對する十割近くの高率税と生産過剩による販賣競争が原因して經營難に陥つて

工場	所在地	設立	資本金	原料	生産能力	備考
餘記紙版廠	天津鹹水沽	一九三〇	一〇〇,〇〇〇元	稻、藁	板紙日産三五噸	
新成機器造紙廠	同 小干莊	同	一〇〇,〇〇〇元	ボロ、パルプ、桑皮	日産二,〇〇〇斤	
燕京製紙廠	北京西武王侯府	一九三三	一〇〇,〇〇〇元	屑紙、藁、綿ボロ	年産 七千疋	
華興造紙股份有限公司	濟南銅元局前街	一九二九	三三,七〇〇元	ボロ、麻袋、屑	同 一〇,三千封度	東洋製紙委任
成業造紙公司	同 西關東流水	一九二七	五〇〇,〇〇〇元	靴破片	日産四,〇〇〇斤	同 交渉中
西北實業公司製紙廠	山西太原蘭村	一九三二	四〇〇,〇〇〇元	ボロ、綿屑、麥稈藁	年産三,〇〇〇千封度	王子製紙委任
晉恒製紙廠	山西太原大南關	一九三二	四〇〇,〇〇〇元	屑紙、油綿、屑紙、草莖、草ボロ	日産 二〇連	同
東洋製紙工業株式會社	天津市外灰堆鎮	一九三二	公一,〇〇〇,〇〇〇圓	葦、木材	年産八,〇〇〇噸	同

みた。事變前は日本側には青島及び天津の兩地に合同の華北燐寸聯合會があり中國側に山東火柴同業公會があつて相互に利益を確保するに努め中國側公會は會員相授け會員相互保障を以つて統稅局納税の後拂特權を享受する等の積極的活動を見たが同業者の簇出過剩に惱んだ結果國民政府では右の實情に對して昨年一月聯營社なるものを組織し全支の燐寸業者を聯營社員となし生産を統制せんとしたが技術的部分的の反對により北支においては中華全國火柴產銷聯營社天津分社創立後僅か河北省内の業者七社(丹華、中華、大生、三友、北洋)以上天津、丹華—北京、永華—泊頭鎮)が加入せるのみで山東省方面業者

からは殆んど顧られなかつた。
聯營社従来の割當比率は天津分社において左の如くであつた。しかしこの割當は今後若干變化を見せるものと思はれる。

	日産	比率
丹華	七〇箱	二六・四
中華	一〇〇箱	二三・〇
大生	一〇箱	一・五
三友	二五箱	七・九
北洋	三〇箱	一一・二
北京丹華	—	一七・一
永華	—	一一・七

(註) 北京丹華は生産不足、永華は操業準備中

さらに今事變の發生は遂にその擴大と共に聯營社の存在を自然消滅的たらしむるに至つたが事變後統制要望の主潮は依然たるものあり關係當局また統制政策をとれる結果右統制問題に關聯してこれが復活問題が提唱され従来の冀察綏區火柴産銷聯營社は華北火柴産銷聯營社に改組され聯營社各工場では聯營社の制度を従前通りに復し華北における市場は全部聯營社加入工場で供給し未

支那側業者が密かに脱税品を産出してゐるのでこれが徹底的取締と引揚以前の全能力運轉への復舊までには非常な苦悶が横つてゐる。しかし復興も漸次ながら進展を示し八月一箇月中の山東區統稅局管内の出荷數のみにても日本側青島工場五七、四四四(小箱)中國側青島工場三九、一三八(小箱)管内外縣工場一四・二(小箱)合計二一、〇八四箱の多きに達してゐる。

(註) 山東側寸は第一工場は全備、事變前休止中の第二工場は無事。

天津燐寸工場は一九二八年の全盛期には五社で年産八萬箱に達したものが近年著しい不振をつゞけ中華と北洋の二社は停業し他の三社も丹華三〇箱、大生一〇箱、三友二〇箱といふ貧弱な生産状況であつた。然るに昨年三月前記聯營社天津分社の創立により右二社も操業を開始し、事變後大青島濟南燐寸界の打撃に加へ太原工場の停業、冀東貿易の解消に伴ひ天津における燐寸工業はいづも事變により直接間接を受けなかつたため事變後の品不足による需要激増期に際會して北支一帶の市場は天津工場の供給下におかれ一躍好況状態を示して往年の黄金時代を現出し前線各地における需要

加入社の單獨營業者並に新規會社の出現せざるやう關係當局に請願し最近北京において北支燐寸業界の代表業者を網羅し統制の徹底に關する協議が行はれた。これに對し當局では臨時政府の行政區域と舊聯營社の區域とは現在同一でなく山東、青島兩地の八工場恢復の曉は全然これを包括するも蒙疆地方の販路は厚和政府の管轄に屬するため速かに要求を容れ難きものありとの意向を有してゐるが燐寸事業の中心たる山東省斯界が近く一大統制經營の機運に立ち至つたことは注目されてをり一方新設會社の許可は原料統制の問題もあり考慮されてゐる。なほ最近支那向燐寸製造のため日本燐寸工業組合では資本金五十萬圓の燐寸工場を臺灣に設立した。

青島燐寸邦資工場の復興 工場並に事務所の半ば以上を焼失した青島の四燐寸會社は歸還後直ちに復舊工事を急いだ結果三月八日から華祥燐寸(華祥、扇面各牌子)は一日約二十五噸(現在三四十噸)、東華は二十噸、山東燐寸(三星、福星各牌子)は三十噸(最近六、七十噸)青島燐寸(雙喜、大吉、三陽各牌子)は四十噸(最近六、七十噸)見當の製品を市販化するに至つたが膠濟線地方における

はほど天津中心の河北省内工場で賄つてゐる状態であるがこの中最も大きな市場だつたのは比較的早く治安を回復した京漢沿線と山西方面で製品の大半はこの方面に向けられた。最近青島燐寸工業も漸次回復に向ひ一方内地から輸入する軸木入手難、化學原料の騰貴による原料高等は右の如き活況にもかゝはらずこれが積極的發展の多分の障礙となつてゐる。この間天津燐寸を中心とする販賣系統にも大變化を來し従前の如き華人問屋の中繼を経ずに奥地日本商人や軍隊が直接に貨車を以て輸送しその後最近では従前の販路は山西方面に代つて蒙疆地方が主要市場となりつゝあるがこれは太原の燐寸工場が運轉を開始したことによるものと云はれてゐる。

北洋燐寸の紛擾 天津北洋燐寸(北洋火柴公司)はかねて營業不振に苦しみ邦商一那組と折衝の結果十七萬元を以て本年三月一那組に接收されたが直後株主總會で反對意見沸騰し結局聯營社規約に基き加入日支同業者および日支兩當局に讓渡取消を請願することを決議し一那組でも紛擾を避けるために買収金全部の返却を受け當日から操業を停止した。

工場名	所在地	設立年	資本額	生産能力	備考
丹華火柴公司	本工場天津西沽	一九一〇	一,000,000元	年産七〇〇噸	株式
北洋火柴公司	本工場天津西沽	一九〇九	三〇〇,〇〇〇元	三〇〇噸	同
大生火柴廠	分工場天津南開	一九一四	三〇〇,〇〇〇元	六〇〇噸	合資
三友洋行燐寸工場	天津日本租界	一九一三	四〇〇,〇〇〇元	二〇〇噸	日本資本
中華燐寸株式會社	同	一九一〇	一,〇〇〇,〇〇〇元	一〇〇噸	同
華北火柴公司	天津海光寺	一九一六	三〇〇,〇〇〇元	一〇〇噸	同、個人
丹華火柴公司北平廠	北京崇門外	一九一五	二〇〇,〇〇〇元	六〇〇噸	同
厚生火柴兩合公司	北京西直門內	一九一七	三〇〇,〇〇〇元	一〇〇噸	同
永華火柴有限公司	河北省泊頭	一九一七	八〇〇,〇〇〇元	四〇〇噸	合資
華北火柴工廠(註)	青島利津路	一九一八	五〇〇,〇〇〇元	六〇〇噸	株式、日支合辦
振業火柴公司分廠	同青縣航	一九一八	三〇〇,〇〇〇元	一七〇噸	同
魯東火柴公司	青島濰東八路	一九一九	二〇〇,〇〇〇元	一七〇噸	同
明華火柴公司	同市外滄口	一九二〇	二〇〇,〇〇〇元	八〇〇噸	合資
興業火柴公司	同臺東鎮	一九二〇	三〇〇,〇〇〇元	一五〇噸	同
信昌火柴公司	同順興路	一九一九	三〇〇,〇〇〇元	三〇〇噸	株式
華盛火柴廠	同長春路	一九二二	三〇〇,〇〇〇元	三〇〇噸	株式
青島燐寸株式會社	同曹縣路	一九二七	五〇〇,〇〇〇元	三〇〇噸	日本資本
山東燐寸工廠	同華陽路	一九三〇	八〇〇,〇〇〇元	三〇〇噸	日本個人
華祥燐寸株式會社	同諸城路	一九三〇	一〇〇,〇〇〇元	七〇〇噸	日本資本

工場名	所在地	設立年	資本額	生産能力	備考
東華燐寸工廠	同曹縣路	一九三〇	一〇〇,〇〇〇元	六〇〇噸	合資
魯興火柴公司	濟南北大槐樹萬盛街	一九三二	五〇〇,〇〇〇元	一〇〇噸	同、日本資本
洪泰火柴公司	濟南六大馬路	一九三〇	一〇〇,〇〇〇元	一〇〇噸	株式
東源火柴公司	同七馬路	一九三一	三〇〇,〇〇〇元	一〇〇噸	株式
益華火柴公司	濟南四馬路	一九三二	三〇〇,〇〇〇元	一〇〇噸	合資
魯安火柴公司	濟寧西關草橋大街	一九三三	五〇〇,〇〇〇元	一〇〇噸	同
振業火柴公司總廠	濟南濰祥門內	一九三三	四〇〇,〇〇〇元	一〇〇噸	株式
中亞火柴公司	山東省即墨縣	一九三三	一〇〇,〇〇〇元	一〇〇噸	合資、休業中
福來火柴公司	同	同	三〇〇,〇〇〇元	六五〇噸	同
海濱火柴公司	同	同	一〇〇,〇〇〇元	二〇〇噸	同
大明火柴公司	同	一九三三	一〇〇,〇〇〇元	一〇〇噸	同
豐源火柴公司	同	一九三三	一〇〇,〇〇〇元	一〇〇噸	同
振興火柴公司	芝罘北馬路	一九三六	一〇〇,〇〇〇元	一〇〇噸	同
德盛火柴公司	山東省威海衛北門外	一九三六	五〇〇,〇〇〇元	一七〇噸	同
惠豐火柴公司	山東省濰縣	一九三〇	四〇〇,〇〇〇元	三〇〇噸	同
洪泰火柴公司	同	一九三三	四〇〇,〇〇〇元	三〇〇噸	合資、休業中
東益火柴公司	同	一九三三	一〇〇,〇〇〇元	一〇〇噸	個人資本
魯西火柴公司	同	一九三三	一〇〇,〇〇〇元	一〇〇噸	株式、休業中
振業火柴公司分工場	同	一九三〇	三〇〇,〇〇〇元	一〇〇噸	合資
熾昌厚民生火柴廠	同	一九三〇	三〇〇,〇〇〇元	一〇〇噸	株式
敬業火柴工廠	同	一九三三	二〇〇,〇〇〇元	一〇〇噸	同
西北實業公司火柴廠	同	一九三三	一〇〇,〇〇〇元	一〇〇噸	同
汾陽燐寸株式會社	同	一九三三	一〇〇,〇〇〇元	一〇〇噸	同

(註) 休業中は七月中旬現在。
 (註) 舊華北火柴公司是九月中旬日本側五割五分、支那側四割五分の日支合辦資本金五十萬圓全額拂込済の會社となし華北火柴工廠と改稱、理事長に宇田川實次郎氏が就任した。

セルロイド工業

従来北支にはセルロイド工業の見るべきものがなかつたが豊富な北支棉花のリンターに着目して進出を企てたのが大日本セルロイド会社である。

大日本セルロイド天津リンター工場 昨年五月資本金五百萬圓を以て天津白河下流第五警區旺道莊に四萬八千坪の敷地を買入れ事變勃發と共に中止したが本年三月工費六十萬圓清水組の手で工場建設に着手し大半を完成して目下機械据付中で十一月操業を開始する豫定である。當社は資金關係においても關係當局の諒解済であり所要機械類に就ても既に無爲替輸入の許可を貰つてをり天津における諸工場の多くが敷地の撰定のみで工場建設資金や据付機械の輸入統制による入手難を啣つてゐるのとは趣を異にしてゐる。開業の上は北支棉花のリンターを原料にセロファン的大量生産をなす外棉實油、顔料、ペイント、肥田粉その他副業的生産をも逐次開始する筈で華名は興元公司と決定した。

技術および若干の出資を加へて設備改造を行ひ今夏來一部操業して今日至つた。年産能力は曹達灰六萬五千噸で昨年日産平均(七月まで)は百六十噸であつたが今後フル運轉の時は二百噸前後に達する豫定である。工場敷地二萬四千坪、建坪三千七百坪、炭酸機三臺、冷風三臺、真空機二臺、通風機二臺、發電機三臺、スターン式ボイラー二基、ウィック式ボイラー三基の設備を有し同工廠の消長は直ちに支那新業の消長を標示するものに外ならぬ。

渤海化學工業公司 永利化學工廠と並び稱せられた曹達工場に渤海化學工業公司がある。資本金六〇萬元は永利、久大系二、北京藥種商達仁堂系三の比率にて投ぜられ久大精鹽公司の技師がその經營に参加して精鹽、曹達工業コンツェルンの一翼をなし一方國家的支援を受け特に原料鹽その他の課税は極めて低廉で製品は免税であつたが幾多の經營上の缺陷とプランナモンド社および小規模經營の簇生とに對する競争激烈のため昨年遂に停業され事變前經營者の手を離れ百四十萬元の借入金支拂不能のため擔保物件として中國銀行に接收され新華信託儲蓄銀行に移管されてゐる。鑛紡がその買収交渉に出でたが中國銀行側では軍需的に利用價値多きために日本人側に讓

曹達並酸素及硫硝酸工業

曹達灰の全支需要高は年十二萬噸乃至十三萬噸であるが北支における曹達工業は永利化學工業公司(註、別項)によつて代表されてゐる。又近年における染料用又は染色媒劑用硫化曹達および硫酸曹達の小規模經營の新設も顯著であり蒙疆地方の天然曹達は今日なほ市場に獨自の存在を保つてゐる。永利製曹達灰および苛性曹達は上海の市場において英商プランナモンド品と競争的立場にある。而も日本における需要の急増と價格の高騰とは原料關係で絶對的な優越性をもつ現地生産の將來性を極めて樂觀的に暗示するものに外ならぬ。

永利化學工業公司 全支最大の化學工廠で、民國十三年資本金五百五十萬元を以て創立され支那業界では特異の存在となつたが技術その他先進諸國のそれに比し甚だしく見劣りのするものであつた。併し原料方面で豊富な長蘆鹽田を附近に擁しこれによつて技術の拙劣を補ひ年々相當の成績を擧げて來た。昨年十二月以降軍管理、興中公同經營となり技術者は逃亡してゐたので三菱系旭硝子の渡するを好まず交渉は中絶し一方工場建物土地は別として内部諸機械は約一年間以上放置されたため、腐蝕してゐる。

酸類工業は支那においては元來兵工廠に附帶する小規模經營を除いてはいづれも重工業乃至化學工業と緊密の聯關を缺き輸入外國品特に日本品により壓迫され常に動搖を繰り返して來たが地方軍閥の軍需的要求に基く官僚的掩護により地方的に特異の發展を遂げ民國二十年代關稅自主權の確立以來地方的に工場の簇生を見た。しかし硫酸原料—硫化鐵礦の手當が極めて困難なのと硫酸および硝酸の大部分が山東省および河北省における硫化染料類の原料に使用されことなどが新業の趨勢を決定的ならしめてゐる。

利中製酸廠 民國二十二年(一九三三)一月資本金二十萬圓を以て設立された株式會社で、大株主は軍閥宋哲元、萬福麟、商震等で天津唯一の硫酸製造工廠で近年製品が北支各省に賣捌かれ二十五年度の如きは年産額五千箱に達したが今事變以來需要減少し市内需要のみに止め日産十箱を製産し今日に及んでゐるが最近興中公司ではこれが買収を計畫し折衝を進めてゐる。

天津白河沿岸十五萬坪の敷地に一大ロール工場計畫を進めつゝある東京ロール系の株式會社天津工業公司(資本金五百萬圓本社天津日本租界榮街)では副業として特別三區飛行場側に敷地一千五百坪建坪百六十坪の酸素工場を新設し最近操業を開始した

日産四百封度の製造豫定。
天津酸素工業所設立 神戸市鶴谷酸素工業所は本年夏
資本金二十萬圓の天津酸素工業公司を特別二區に設立し
最近操業の運びとなつた。

工場名	所在地	設立年月	資本額	生産高	其他	備考
永利化學工業公司	天津佛租界三十三號路 河北省塘沽、浦口	一九一六	五,五〇〇,〇〇〇元	年産能力曹達 六五,〇〇〇噸		製法ソルヴェイ法 全支、日本、朝鮮等 へ輸出、株式、軍 管理與中經營
渤海化學工業股份有限公司	本社 天津英租界十七號 工場 河北省寧河縣塘沽	一九二四	公六〇〇,〇〇〇元 拂天七七〇元	年産能力曹達、硫化曹達、硫酸ナ リウム、炭酸石灰、炭酸マグ ネシウム、鹽酸を製造す		中、北支へ販賣 株式、休業中 原料の一部を三井 を経て日本より仕 入る、與中にて買 収交渉中
利中製酸廠	天津特別三區八經路	一九三一	二〇〇,〇〇〇元	年産能力約硫酸 五,〇〇〇箱		販路、北支
合記化學工業製 造公司	本社 天津伊租界八號路 工場 河北省齊河縣	一九三一	二〇〇,〇〇〇元	硫化曹達、元明粉、乾曹達 を製造す		株式
興華廠	天津特別三區	一九二〇	四五,〇〇〇元	年産約 三,五〇〇箱		販路天津、株式 販路北平、天津、 個人資本、總廠在 北京景泰製鐵工 廠
老天利天津分廠	天津特別三區	一九二五	一五,〇〇〇元	苛性曹達 各々 五,〇〇〇箱		販路北平、天津、 個人資本、總廠在 北京景泰製鐵工 廠
得利三製酸廠	河北省唐山	一九二九	五,〇〇〇元	月産硫酸 九,〇〇〇封度		販路河北省、合資、 販業中

魯豐化工製碱廠	山東省即墨縣女姑口	一九二一	一〇〇,〇〇〇元	苛性曹達、漂白粉、紅粉鹽 酸、硫酸、齒磨粉を製造す		株式
道義製碱股份有 限公司	濟南東流水	一九三九	一九,〇〇〇元	年産硫化ナトリウム 四五,〇〇〇封度		個人
西北實業公司電 化廠	山西省太原北門外	一九三五	四〇〇,〇〇〇元	年産硫酸 五〇,〇〇〇封度		舊省營、鐵紡經營
西北實業公司化 學工廠	同	同	五〇,〇〇〇元	年産苛性曹達漂白粉各々 六〇噸、鹽酸		舊省營、日本火藥 經營
通盛化學工廠	山西省太原市外	一九三四	三〇,〇〇〇元	年産硫酸曹達 六〇〇擔		販路、山西、陝西 河南、個人資本
東方修鐸有限公 司天津工場	天津佛租界三十七號路	一九三〇	法貨 一〇〇,〇〇〇元	日産、酸素 二酸化炭素 一,〇〇〇—五〇〇リットル アンモニヤ 一,〇〇〇—五〇〇リットル		近年營業不振なり 邦人買収
天津養氣製造廠	天津	一九三六	三〇,〇〇〇元	酸 二八〇桶		邦人買収
中國瓦斯公司	青島	一九三三	五〇,〇〇〇元	酸 一七〇〇桶		
中原養氣製造廠	青島	一九三五	四〇,〇〇〇元	酸 一九〇〇桶		
京津工業公司酸 素工場	天津特別三區	一九二八	五,〇〇〇,〇〇〇元	日産酸素 四〇〇封度		株式、日本資本

新中火藥製造株式會社 日本火藥製造株式會社は濟南の舊省政府兵工廠の貸下げを得て同工廠に資本金百五十萬圓の新中火藥製造會社を設立することになり最近正式許可を得た。十月下旬着工の豫定であるが日本火藥は山西省太原の舊省政府西北新火藥廠の委託經營を受け多大

の犠牲を拂つた擧句右の擧に出たもので從來青島における火藥の輸入は日本火藥並に同社傍系の帝國火藥が當りその金額は約五十萬圓見當であつたもので將來硫安、カリリット、火工品各日産五噸を得る設備を行ひ北支の地下資源開發に要する火藥の供給に當る筈である。

曹達工業生産額

工場別	曹達灰	苛性達曹	重炭酸曹達	硫酸曹達	硫酸曹達	無水芒硝	鹽酸	炭酸マグネシウム	乾曹達	漂白粉	硫安	天然曹達
永利化學工業公司	5,000	5,000	6,000	1	1	1	1	1	1	1	1	1
渤海化學工業公司	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
興華鹼廠	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
老天利天津分廠	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合記化學工業公司	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
西化實業公司	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
通成化學工廠	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
通義製鹼工廠	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

(備考) 製品の用途
 灰 硝子、石鹼、藥品、清涼劑、紙、水の軟化、織物。
 苛性 硝子、石鹼、紙、シルケット、木綿麻の精練、染料製造。
 硫酸 硝子、石鹼、紙、シルケット、木綿麻の精練、染料製造。
 硫酸曹達 硝子、石鹼、紙、シルケット、木綿麻の精練、染料製造。
 無水芒硝 硝子、パルプ、染料、定製用。
 炭酸マグネシウム ゴム原料、化粧品、齒磨粉用。
 炭酸カルシウム ゴム原料、化粧品用。

精鹽工業

支那における精鹽工業は民國四年國民政府の「製鹽特

工場名	所在地	設立年月	資本額	設備	能力及生産量	備考
久大製鹽公司	本社 天津佛租界 工場 河北省塘沽	一九一五	公三,五〇〇,〇〇〇元 佛三,一〇〇,〇〇〇元	敷地五一、八二五坪、製鹽鍋 七〇餘個、發電機、電動打水 機、變電機、冷風機、蒸汽打 水機、製鹽機、職工二五〇名	月産 精鹽 七〇,〇〇〇擔 齒磨粉 九〇,〇〇〇袋 煉齒磨粉 一六,〇〇〇筒 漱水 二〇〇瓶	興中經 營
通達精鹽公司	本社 天津東馬路 工場 河北省豐潤	一九二二	五〇〇,〇〇〇元	洗鹽機二臺、抽水機八臺、 打鹽機三臺、裝鹽機一〇臺、 職工一七名	精鹽 年産 一,五〇〇,〇〇〇擔	東洋化 學經營
永裕鹽業公司	本社 青島冠縣路 工場 青島小港路	一九二四	公三,二〇〇,〇〇〇元 拂八〇〇,〇〇〇元	洗鹽機一臺、抽水機一臺、 打鹽機一臺、裝鹽機一臺、 職工一七名	精鹽 年産 一,〇〇〇,〇〇〇擔	
通益精鹽公司	山東省芝罘	一九二九	四〇〇,〇〇〇元	洗鹽機一臺、抽水機一臺、 打鹽機一臺、裝鹽機一臺、 職工一七名	精鹽 年産 三〇〇,〇〇〇擔	

久大精鹽公司 民國四年「製鹽特許條例」に基く鹽務署の認可に因り「工廠周圍一百里以内に同一性質の工場を設立せざるの特権を與へられ」當初資本金五萬元を以て設立されたもので世界大戰當時同一系統の資本を以

許條例」以後企業化されたものでそれ以前は土法による精鹽が行はれてゐた。北支精鹽業は全支第一の精鹽業者久大精鹽公司を中心に近代化を示し支那最大の鹽產地長蘆鹽、山東鹽とを背景に今日の盛大を示したものである。

て支那唯一の曹達工業永利化學工業公司を興したのは別項の如くであるが永利の設立またはその子會社渤海化學工業公司の技術部門には久大公司の技術的援助も加へられてゐる。事變後通達精鹽と共に軍の保護管理となり興

中公司の委任下に置かれてゐる。本年三月以降二、三箇月機械の都合で休業中であつたが六月上旬復舊し操業を開始した。

東洋紡の化學工業進出 裕豊紡、唐山華新紡の親會社たる東洋紡では事變後化學工業への進出を企圖し直營として東洋化學工業株式會社(資本金百萬圓)を設立したが同社は華人所有通達精鹽工廠を軍から委託され長蘆鹽田の精鹽ならびに長蘆鹽から生ずる數十萬噸の苦汁が從來何ら利用されなかつたのを分離處置により飛行機素材として有用な金屬マグネシウムの採取並びに硝土、皮硝より硝石の分解採取を行ふ豫定になつてゐる。また北支蒙疆地區到るところに存在する土鹽、自然岩鹽に着目し、これより硝石を抽出する分離操作が計畫され北京に工場を置く豫定である。なほ漢沽工場は敷地三十六萬坪の尠大なものである。

護謨工業

次表に示す通り殆んど邦人活潑の獨り舞臺とも稱すべきて今後愈々發展の一途を辿るであらう。しかし事變後

内地の生ゴム輸入制限再強化によりゴム工業の梗塞甚だしくこれが北支向輸出が困難となつた結果北支におけるゴム業者に多大の影響をおよぼしたばかりでなく北支地盤確保の意味合から進出の機運にあつた内地ゴム業者も出身を挫かれた形であつた。元來天津地方邦人ゴム工場設立の動機は一九二四年の蔣介石による邦品阻止を目的とする關稅吊上げによるもので右による輸入難が現地生産の可能性を生じたものに外ならぬ。天津六工場の中三工場(中村、西長、天津化學)、青島の日本足袋および昌和洋行工場も同年以後に設立を見たものである。從來北支における自轉車用タイヤ、チューブ並びに洋車用タイヤは殆んどダンロップの獨占市場に等しく需要の約九割までを占め殘餘の割を上海品によつて占めてゐたが邦人工場設立後は次第に生産額を増加し事變前一箇年の生産額は凡そ三百萬圓に近いものがあつた。事變勃發後青島の日本足袋工場も徹底的に破壊されたが天津工場も事變後約八ヶ月間は休業を餘儀なくされた。その打撃が相當のものであつた上に前記のやうな原料生ゴムの入手難に見舞はれたことは本年度ゴム業界をして可成り悲觀的なものたらしめてゐる。

工場名	所在地	設立年月	資本金	生産能力其他	備考
怡豊橡皮工廠	天津伊租界一五號路	一九二七	五〇〇,〇〇〇元	日産能力 自轉車タイヤ 同 チューブ 五,〇〇〇對	日本資本個人經營
中村公司	天津日租界伏見街二七	一九二四	二〇〇,〇〇〇元	日産能力 自轉車力車タイヤ 同 チューブ 三,〇〇〇對	日本資本株式
西長橡皮工廠	天津日租界淡路街	一九二五	六〇,〇〇〇元	日産能力 自轉車力車 同 力車 四,〇〇〇對	日本資本個人經營
泰山橡皮工廠	天津日租界福島街	一九二二	五〇,〇〇〇元	日産 ゴム靴底 四,〇〇〇對	同
瀨口橡皮工廠	同 住吉街	同	五〇,〇〇〇元	ヒール日産 チューブ月産 二,〇〇〇對	同
北洋樹膠物品製造廠	天津市特別三區	一九二二	一五,〇〇〇元	ヒール年産 年製造量 五,〇〇〇對	同
日本足袋株式會社青島工場	青島市外滄口	一九二四	一〇,〇〇〇,〇〇〇圓	靴 自轉車タイヤ 同 自轉車 一,五〇〇,〇〇〇對	本年中更に工場擴大計畫
青島膠皮工場	青島臺東鎮	一九二六	八〇,〇〇〇圓	日産 ゴム靴底 四,〇〇〇對	邦資組合經營
大裕膠皮工廠	青島遼寧路	一九三〇	五〇,〇〇〇圓	日産 運動靴 二,〇〇〇對	合資
同泰橡皮工廠	山東省芝罘	一九二九	二〇,〇〇〇元	年産能力 ゴム靴底 五〇,〇〇〇對	個人經營
中成膠皮工廠	山東省威海衛	同	四〇,〇〇〇元	年産能力 ゴム靴底 二〇,〇〇〇對	同
華和護謨株式會社	青島	一九二六	一五,〇〇〇元 (五〇,〇〇〇元)	タイヤ年産 二〇,〇〇〇對	同

天津膠工組合組織 生ゴム入手難時代に慮し兼て
總領事館當局に認可申請中であつたが九月二十八日附正
式に組合を認可された。

組合員は左の六工場である。

- 怡豐橡皮工廠
- 中村公司
- 西長橡皮工廠
- 泰山橡皮工廠
- 瀨口膠皮工廠
- 天津化學工廠

怡豐橡皮工廠 昨年増資の上伊租界に敷地二千坪、建
物一千三百坪、電力四〇〇馬力の天津第一のゴム工場を
完成し主要生産は自轉車タイヤ、チューブであるが従
來休止中のゴム靴製造にも着手し最近洋車(力車)タイヤ
ー、チューブをも開始しダンロップ年一萬五千ペヤ一の
供給と阪神ゴムの進出に委ねられてゐた洋車タイヤ界
に一日生産能力五十ペヤ一製造開始を以て臨むことにな
つた。

中村公司 從來個人經營であつたが近時生産擴充を期
し五萬元の資本を二〇萬元に増資して株式會社となし怡

在來の綿布染色は悉く植物性染料を使用してゐたがその
後合成染料の進出著しく植物性染料は地方的にわづかに
餘剰を保ちつゝあるに過ぎぬ。需要最大の硫化ブラック
(硫化黒)をはじめ高級染料は以前獨逸品および日本品を
以て占められてゐたが國民政府の關稅改正以後極めて高
率の關稅壁に守られて中小染料工場が發生したがこれは
外品禁止的高關稅に依存したものであつたから本年六月
の第二次關稅改正による關稅引下げは地場工場を全くの
窮地に陥れるものに外ならぬ。硫化黒も以前は獨逸品
が壓倒的多數を占めてゐたが近年は三井が積極的に乗出
して以來日本品が殆んどこれを驅逐しつゝある。但し事
變後殊に本年度は戰時體制下における日本品の輸入は殆
んど見られない。この間前記の事情で北支においては天
津六、濟南三、濰縣二、合計十五の染料工場を簇生せし
めたがその大部分は硫化黒を製造し二、三の工場におい
て輸入藥品を配合する高級染料の配合が行はれてゐるに
過ぎぬ。硫化黒も原料たる硝酸および硫酸の一部を地場
生産に仰ぐ外その他諸藥品はいづれも輸入品により工場
における工程としてはたゞこれらの藥品調合を行ふにすぎ
ぬ状態である。北支全體における硫化黒の總需要高は約

豐橡皮に次ぐ有力工場となつた。

補助足袋天津工場 補助足袋天津工場は特三區六緯路
三十一號に第一期計畫として敷地三千餘坪、工場建坪五
百坪に本年夏以來工事を開始し十月完成し十一月から機
械運轉の豫定で日産能力はゴム靴一萬足とされてゐるが
地下足袋製造に従ふとすれば前記生産能力より幾分低下
する模様である。なほ原料の入手難は外商を通じ直輸入
することになつてゐる。

日本足袋會社青島工場 昭和九年着工、十年春完成し
たもので僅か二年足らずで事變のために完臂なきまでに
爆破されたものであるが本年夏大略復舊を了へ事變前の
生産能力一千五百萬足のゴム靴生産をめざしてゐる。な
ほ同社は天津でも工場設立の認可を了へてゐる模様であ
るが未だ工事には着手してゐない。天津工場は主として
自動車タイヤを製造する計畫のものである。

染料工業

北支における染料工業は小規模且つ高級の技術を要し
ないものが多くその需要は綿絹布染色のためでもない。

五萬樽(五萬キログラム)でその中天津で取引されるもの
は大略三萬樽で、一萬樽餘は日本および獨逸から輸入さ
れるが染料工業の最も發達してゐるのは天津であるが別
項維新化學の完成は天津斯業界の水準をさらに一步引上
げるものに外ならぬ。

天津邦資染料工場 邦人資本のもの四、華人資本のもの
二、合計六工場で最近操業開始の維新化學工藝社天津
工場が硫化黒および硫化曹達製造に當るのを除いて他の
五工場は全部硫化黒の製造を専門としてゐる。年産高硫
化黒は天津のみで約二萬樽であるが在來工場の生産技術
は一般に低く中國有機顏料公司の如きは一時日本の帝國
染料から硫化黒を購入しこれを配合して市販したほどで
ある。生産費は一般に内地より有利であるが原料の全部
を日本品に依存しなければならぬ。因みに天津港におけ
る硫化黒最近三年間の輸入高は次の如くである。

國別	一九三六年	一九三七年	一九三八年 第一四半期
日本	八六八	二二、三三三	六三、四四四
獨逸	三、四二八	七、一四一	四、五八八
英國	二五	八、九七	四、一〇四
計	一、二四七	四、八五三	一〇、九四四

工場名	所在地	設立年月	資本金	生産能力	備考
工美染料工場	天津日租界伏見街	一九三〇	一〇〇,〇〇〇元	能力年硫化黒 八〇,〇〇〇斤	日本資本個人經營
大和化學染料廠	天津特別三區六緯路	一九三八	四〇〇,〇〇〇元	能力月硫化黒七〇〇箱(百斤)	日本資本個人經營
維新化學天津工場	天津特別一區	一九三八	五〇〇,〇〇〇圓	能力年硫化黒二〇〇,〇〇〇斤	日本資本、帝染系
三池染料天津工場	天津特別四區	一九四〇	一五〇,〇〇〇元	數地決定せるも其他未發表	日本資本
久興染料化學廠	天津河北北營門	一九四〇	一五〇,〇〇〇元	日産能力硫化黒 二,〇〇〇斤	販路北支、株式休業再起不能
中國有機染料化學廠	天津北營總站外	一九三三	一〇〇,〇〇〇元	力直接染料	成立浅きため販路少く經營難なり
德昌染料工廠	天津	一九三六	一〇〇,〇〇〇圓	能力月硫化黒 三〇〇箱	個人經營
維新化學工藝社	青島四方	一九三五	五〇〇,〇〇〇圓	能力年硫化黒 一六,〇〇〇箱	日本資本株式組織
中國染料股份有限公司	同	一九三九	二〇〇,〇〇〇元	メチル年硫化黒 八,五〇〇箱	帝染系
中國正業化學染料公司	青島市外滄口	一九三八	一〇〇,〇〇〇元	メチル年硫化黒 二五,〇〇〇元	維新化學的發展に因り經營難
裕興染料股份有限公司	山東省濰縣南開爐坊街	一九四〇	一〇〇,〇〇〇元	昨年度生産額 三,〇〇〇箱	合 資
華德染料廠	山東省濰縣車站大馬路	一九三〇	二〇〇,〇〇〇元	泥狀硫化黒 一〇〇,〇〇〇斤	營業狀態良好株式
裕興染料股份有限公司	濟南城北五柳開	一九三〇	二〇〇,〇〇〇元	粉狀硫化黒 一,二〇〇,〇〇〇斤	合 資
天豐染料廠	濟南劉家橋	一九三一	五〇〇,〇〇〇元	同 年産能力 一八,〇〇〇箱	營業狀態近年萎縮
振華染料廠	濟南	一九三一	五〇〇,〇〇〇元	同 年産能力 七,〇〇〇箱	合 資
華豐染料廠	濟南五柳開	一九三二	三〇〇,〇〇〇元	同 硫化黒 四〇〇,〇〇〇斤	同

(註) 一箱=一樽=一〇〇斤

維新化學工藝社天津工場 帝國染料(三菱系)維新化學工藝社は昭和十年青島四方に成立し次で一昨年來天津進出を企畫し工場建築中事變に遭遇、一方三井系三池染料も天津進出を決定して特別四區に昨年中數地買収は終へたがその後工場建築を開始する模様はなかつた。この間維新化學は一年有餘の準備工作を終へて本年夏建築を完成し七月中に機械据付も終つてゐたが戦時體制下における原料(ベンゾール、ジニトロロール、ベンゾール)手當難で操業開始を遅延せしめたが十月一日漸く開工し三日火入式を行ひ同月中旬から正式に製造を開始した。規模は敷地一萬坪、工費二十四萬圓、資本金百萬圓(七十萬圓拂込)年産能力硫化黒二百四十萬斤、硫化曹達二千八百噸で販賣區域は河北、山西兩省、天津の三菱商事を通じて一手販賣をなすもので商標は三菱牌、丹鳳牌である。なほ復興中の青島の維新化學工場も天津工場に先立つて操業を開始した。

塗料工業

ペイント工業は支那産の胡麻油、桐油を使用して來た

ものであるが未だ發展を見せず、北支市場に相當の地盤を有する滿洲ペイント、その他大日本ペイント、東亞ペイント、關西ペイント各社が轉を並べて製品市販戦に當りつゝあり兼て大がりの現地工場計畫をめぐらしてゐたが先づ古河系東亞ペイントが支那人の中國ペイント工場買収に成功した模様で三菱系大日本ペイントは北支のみならず中南支に及ぶ尅大な數工場買収計畫を進捗せしめ桐油をはじめ亞麻仁油、花油、大豆油、油脂資源の開發に着手して將來支那塗料界に覇を唱へんと目論みつゝあるが塗料工業への進出は日本工業界においても最も有望なものゝ一つとして將來を期待されてゐる。

工場名	所在地	設立年月	資本金	生産能力
中國油漆	天津	一九三〇	二〇〇,〇〇〇元	—
東方油漆	天津	一九三九	五〇,〇〇〇元	—
永明油漆廠	天津	一九三六	二〇〇,〇〇〇元	—
保華油漆廠	天津	一九三三	六〇〇,〇〇〇元	—
青島化學廠	青島	—	八〇,〇〇〇元	年産 對度 五〇〇,〇〇〇
青島製皂廠	青島	一九三六	一五〇,〇〇〇元	一,二〇〇,〇〇〇

皮革工業

北支の氣候風土は甚だ牧畜に適し牛、馬、羊等は殊に多數飼育され年々我國でも食用としての肉、工業原料として皮、骨及び羊毛等が輸出されてゐる。従つて皮革工業は早くから發達し古い歴史を有するが舊式手工業の範圍を出でず光緒二十四年吳懋鼎が天津に北洋硝皮廠を創設したのを以つて支那に於ける機械皮革工業の嚆矢とする。その後全國各地に皮革工場の設定をみたが上海を除けば京津地方一帯が最も盛んである。併し滿洲國獨立後同市場の喪失と生皮原産地における製革業との摩擦とによつて苦境に陥り、裕津製革股份有限公司の如きは日支合辦(大倉及日本皮革にて資本の三分の一を出資)として一九一〇年設立され年々牛、馬、羊皮約三萬枚を消費し技術資本等あらゆる點において京津地方に覇を唱へ創立以來相當の利益を上げてゐたが近年工場の大亂せる結果

漸く營業不振に陥り一九三五年四月以降休業中のところ昨年三月遂に解散した。また天津のみでも斯業工場六十有餘中休業解散せるもの三分の一に及んでゐる。なほ日本皮革投資會社は資本金三十萬圓を以て裕津製革公司を設立することに決定、近く工場を天津郊外に設置して北支特産皮革の精製により業界に飛躍せんとしてゐるが先般の皮革類の輸出禁止施行に當つて精製皮革のみ除外されたため此種工場の出現は一般に豫想されてゐたところながら現在大規模なこの種工場皆無の折柄ではあり期待されてゐる。また森コンツェルンの一翼として北支進出を行ひつゝある櫻組商會社は最近北京の萬福麟の經營になつてゐた舊皮革工廠を委任經營することになつた模様である。

工場名	所在地	設立年月	資本額	生産能力	其他
華北製革股份有限公司	天津河北三條石東口	一九一七	三〇〇〇〇元	年消費量、牛馬羊皮一〇〇〇枚	商標、象、株式

乾大製革廠	天津廣開雙烟筒	一九三〇	四〇〇〇元	同	個人
輔輪製革皮帶公司	天津望海樓後	一九三三	五〇〇〇元	本市屠宰場にて生牛皮を購入	營業順調株式
五洲製革廠	天津南開大街	一九三一	五〇〇〇元	牛皮は山東武城地方より購入	營業順調個人
祥茂製革廠	天津南開塘子胡同	一九二九	一〇〇〇元	花旗底皮、二色底皮、硬軟皮帶	合資
利生製革廠	天津東八經路	一九三一	一〇〇〇元	鹿皮、軟皮、花皮、芝麻皮	合資
華華製革廠	天津廣開南華家場	一九三三	五〇〇元	芝麻皮、法蘭皮、花旗皮	合資
華洋製革工廠	天津掛甲寺	一九三三	五〇〇元	法蘭皮、花旗皮	合資
長記製革工廠	天津西門北清眞寺後	一九二七	五〇〇元	原皮年消費量 約三〇〇枚	同
德發源製皮工廠	天津西門外	一九二六	五〇〇元	花旗皮、芝麻皮、箱皮、馬皮	個人
膠東製革廠	濟南小北門	一九二九	一〇〇〇元	紅皮、法蘭皮、帶皮	營業不振合資
科學製革廠	濟南東流水	一九三〇	二〇〇〇元	紅底皮、法蘭皮、球皮、帶皮	營業良合資
大倉洋行	青島	一九二六	一〇〇〇〇圓	牛皮年消費量 三〇〇〇枚	邦資本
大興製革廠	同	一九二八	四〇〇〇元	赤シボ、エナメル皮 一〇〇〇〇封度	合資
青華製革廠	同	一九二九	一〇〇〇元	牛皮、牛油を製す	一九三五年以後停業個人
興祥製革廠	同	一九二六	一〇〇〇元		合資
鴻記製革廠	同	一九二八	一〇〇〇元		個人
膠東製革廠	同	一九二七	二〇〇〇元		合資

振華製革廠	山東省即墨縣	一九〇〇	三〇〇〇元	紅皮、蘭皮、黑皮	年産三〇〇〇枚	營業顧問合資
五三工廠	同 臨清	一九二〇	一〇〇〇〇元	種々	年産種々	洗濯石鹼製造を兼業
西北實業公司皮革製作工廠	山西省太原小北門外	一九三一年	二〇〇〇〇元	帶靴底皮、紅底皮、線底皮	年産種々	營業顧問合資

製藥工業

北支における製藥工業は從來華人間における漢藥工業を中心に發展したもので未だ近代化學工業の一翼としての製藥業は發展を見ずに今日に及んでゐる。曾て東京大木合名、山川製藥等の合資になる阿片原料のアルカロイド製品工場建設が計畫されたが認可とならずわづかに補強劑わかもとの天津工場建設の外邦製藥工場の進出を見てゐない。元來北支製藥事業は獸類の臟器から抽出する臟器藥、藥草を主體とする製藥等が擧げられてゐるがこの外砒素、アンチモン等原礦よりする製藥は資源豊富なる北支で最も有望視され各社ともこれが具體的研究を進め同時に製藥工場の建設に關しても武田、三共、田邊、鹽野義、萬有等各社共畫策を傳へられてゐたが資金統制

北支製藥株式會社	本年四月逸早く領事館の正式認可	取得した萬有製藥を主體とする資本金百萬圓の北支製藥株式會社は既に株金四分一の拂込徵收も了り北京西南方郊外に約一萬坪の敷地を買収してゐる。資金並に機械の關係から事業計畫を前後期の二期に分け前期は主として山東、河南及中南支の小兒に多い風土病、カラザール病の特效藥たるの製造、黃麻からエフエドリン、動物肝臟からエキスの製造を始め砒素原礦より梅毒、花柳病藥たるサルバル酸ナトリウムの製造を行ふこととなつてゐる。カラザール病の主藥はアンチモンであり砒素に類似せる性質のもので原礦は山東、山西に富源を有すると謂はれてゐるが續く後期の計畫は全く嚴秘に附せられてゐる。
----------	-----------------	--

若壽天津工場 天津特別三區西錦路の舊ロシア病院跡

を買収して「わかもと」本舖は同所に工場設備を急ぎつゝあり日本からの機械到着が俟たれてゐるが大體十一月頃から運轉開始の見込み。之と共に同社は原料藥材の北支に於ける自給化を目ざして天津近郊に農場を經營する計畫を樹て敷地を物色中。

鹿榮 北京の華人藥材老舖達仁堂は同店取扱ひ主要品たる藥材としての鹿榮(鹿角)は滿洲國吉林産のものが佳良とされ主として同地で買付けを行つてゐたところ滿洲國の輸出禁止によつて入手不可能に陥つたため打開策に腐心した結果直接天津で飼育することになり既に河北大經路に三十餘畝(支那畝)を購入し藥植廠なるものを設け吉林産鹿三十餘頭を以て九月中蕃殖を開始した。

石鹼工場

工場名	所在地	設立年月
天津造膜公司	本社天津東南城工場河北邵家園子	一九三三
光潤俄華造膜公司	天津特別三區十路略	一九三三
興業造膜公司	天津西門大街	一九三〇
隆華製膜廠	天津南關下頭	一九三六

石鹼工業

北支における石鹼工業は諸材料の豊富な點と小資本の投下とによつて工場經營も容易であると云ふ原因から他工業に比し比較的發達してゐる。從來内地からも輸入されてゐるが、化粧用として邦人居留民が使用する程度の少量であつたところ事變後この情勢は漸次好轉しつゝある。本年に入つて日産系日本油脂が天津工場計畫を進めてゐるが未だその緒に就かず一旦これを中止したとの説もあり大阪合同も天津に石鹼工場設立を計畫してゐる模様である。在來工場として比較的大規模なものは天津造膜工廠で北京にも分廠を置いてゐる。

資本額	生産能力其他	備考
二〇〇〇〇元	洗濯用、化粧用	株式
二六〇〇〇元	洗濯用、化粧用	露合支資
一四〇〇〇元	洗濯用、化粧用	合資
一〇〇〇〇元	洗濯用、化粧用	個人

大業造膜工廠	天津北門西馬路	一九三三	五〇〇〇元	月産	洗濯用 二、三打 藥用 五、〇打 四〇箱	個人
生記造膜工廠	天津特別二區	一九二七	三〇〇〇元	月産	一六八打	同
中昌香皂工廠	天津北開新街	一九二八	一〇〇〇元	日産	一五打	合資
恒達造膜工廠	天津河北大街	一九二五	二〇〇〇元	日産	三〇〇打	個人
信記香皂工廠	天津侯家後立盛胡同	一九二四	二〇〇〇元	月産	三〇〇打	合資
天津造膜工廠北平分廠	北京西安門内	一九二六	一〇〇〇元	年産	三〇〇〇元	株式
興業造膜工廠北平分廠	北京南五老胡同	一九二二	一〇〇〇元	石鹼製造機	四臺	個人
信昌洋行造膜廠	青島廣州路	一九二五	一〇〇〇〇圓	日産	一五噸	同
白陽商會石鹼工場	青島吉林路	一九二五	五〇〇〇圓	年産	六、〇〇噸	同
華祥洋行	青島廣東路	一九三〇	五〇〇元	職工	三名	同
華昌造膜工廠	青島順樂路	一九二二	五〇〇元	職工	六名	同
合祥造膜廠	濟南路空線後門	一九二四	一〇〇〇元	年産	各種	同
興華造膜廠	濟南西關東流水	一九二四	二〇〇〇元	同	同	同
益華燭膜廠	同	一九二七	五〇〇〇元	同	同	同
泰華燭膜廠	濟南南門外後帝館外	一九二七	五〇〇〇元	同	同	同
大興肥膜廠	濟南製錦布	一九二五	五〇〇〇元	同	同	同

油脂工業

北支における油脂工業は原料たる大豆、棉實、落花生に恵まれて特に山東省に盛んであつて土法、新式の兩工

場が多數あるが特に東和、峯村、興昌の三工場は比較的近代條件を備へてゐる。その中で特に落花生工業は青島に五十餘の稍大なる工場あり合計數千臺の壓搾機を有し搾油能力一日落花生二十萬斤に達し山東特産品一方の雄をなしてゐる。東和公司の搾油工場は事變のため全然

復舊不能の程度に爆破され第二工場は本年夏一部操業を開始した。天津では天津油廠と正華洋行油工場とが近時

勃興した。

工場名	所在地	設立	資本額	生産能力其他	備考
大陸油業公司	六三、六八號路角	一九二四	四〇〇〇〇弗	棉實油、胡麻油、落花生油	佛支合辦
永豐植物油廠	伊租界河沿	一九二五	一〇〇〇〇元	棉實油、一日棉實四〇〇袋	支那
利端公司	英租界達文波路一六五	一九三三	六、〇〇〇弗	胡麻油、棉實油、落花生油、一日棉實三〇〇袋	米
利中油廠	特三區大王莊六經路	一九二四	五〇〇〇弗	胡麻油、菜種油、棉實油、落花生油、一日棉實一五〇袋	支那
光華榨油廠	伊租界河沿一六號	一九二四	四〇〇〇弗	胡麻油、棉實油、豆油、落花生油、一日棉實五〇〇袋	佛
厚達油廠	佛租界老西開福蔭里	一九二六	五〇〇〇弗	落花生油、芥子油、棉實油、一日棉實一〇〇袋	支那
東和公司油房	青島	一九二七	一、〇〇〇〇〇元	落花生油	
第一工場				年産	五、七〇〇噸
第二工場				同	四、〇〇〇噸

正華油廠 各國資本工場の眞只中に割込んだ邦資工場の一で特四區海河工程局の上に工場を有し建造物は華人のものを買収、機械は内地から輸入し二月から操業を開始し日に六萬斤の原料を漬し約二十噸の製油をなしてゐる。

有し大阪平野製油の經營に係り日産棉實五百袋の能力を有する。
大阪合興工場 大阪合同株式会社油脂部では資本金二十萬圓を投じ天津華街六里臺に化學工場を設け染色纖維工業用油脂製造に着手本年六月八日附關係當局の許可を得てゐる。

天津油廠 本年進出した棉實油工廠で特三區に工場を

石油業

支那における石油の産出は極めて大量で最も重要な油田は陝西省の北部にあるがいはゆる北支、蒙疆には石油鑛業として見るべきものなく察南の油母頁岩、山西の油母頁岩が地下資源として蔵せられる程度でわづかに石家荘に在る井陘炭礦のコークス工場で年額約二千バレルの石油を出しつゝある現状にすぎぬ。さればこそ北支にはスタンダード、テキサス、アジアの三大外國石油が永年君臨したのであるが事變以來時流に押され日本人の手を離すには取引の圓滑を期することが不可能の状態となりスタンダードは三井物産に、テキサスは東和公司に、アジアは福昌公司にそれぞれ全製品の販賣を委託するに至り北中支における外國石油商は總退却した。

食料品工業

製粉工業

從來北支の大衆は中南支方面が米を常食とするのに反

全製産能力のうち約八〇%餘が前記三社により委任經營され中には既に新會社設立の機運を迎へたものもある。右進出はこれを要約すれば次の如き意圖を含むものである。

- 一、北支への工場進出は從來平津地方が世界有数の麥粉消費區域である關係上遠き將來の販路擴張を考慮に入れば殆ど絶對的に必要と目されること
 - 一、また内地製粉輸出界は爲替管理のますゝ強化されることにより原料とすべき外麥の手當はいよゝ困難の度を増す傾向あるに對し北支地方は從來も一ヶ年七千萬石からの小麥生産を見てをりなほ今後の對策宜しきを得れば毫も原料入手困難のおそれがないこと
- 事變前における北支の製粉需給狀況は需要總額一ヶ年約三千八百萬袋に對し輸入高は輸入約五十萬袋、移入一千八百萬袋合計一千八百五十萬袋に上り地元製産額は需要高の半ばに達せざる狀態で北支食料問題の一大懸案とされてゐたが今後は臨時政府の北支小麥増産計畫による原料小麥の供給増加と相俟つて北支地元製粉の増産擴張が期待され延いては日滿支を通ずる食料政策上北支製粉事業の將來には多大の注目が拂はれてゐる。しかし

し麥粉を常食としてゐる。これは北支が全支小麥生産高の三〇%を生産してゐることに起因するものであるが勿論北支の麥粉は北支の全人口を養ふを得ずまた小麥粉の一大消費市場である割合には製粉工業それ自體は發展を示してゐない。これは一面滿洲國の獨立が同方面への販路杜絶を招來させたことにもよるものであつてその發達も近代化も遅々たるものであつた。右獨立以來は操業短縮或は工場閉鎖等が頻りに傳へられ却つて月々約二百萬の麥粉が上海方面から輸送される情勢をもたらしした。事變前における北支の製粉需給狀況は需要總額一箇年三千八百萬袋に對し輸入高は輸入約五十萬袋、移入一千八百萬袋、合計一千八百五十萬袋で地元生産高は需要高の半ばに達しなかつた。一、事變後日本製粉工業の北支進出が傳へられ日東、日清、日本の三代表業者が繼を並べて日東製粉は山西、河南二省、日本、日清は濟南、青島、天津方面を根據とし北支製粉界の分野に爭覇を演じて今日に及び北支製粉界の八十餘パーセントを委任經營下に治めたがこれは觀方によつてはむしろ外粉の跳梁に對する共同戦線として成行は注目されてゐる。現在すでに北支機械製粉界の現状はその有力工場殆んど一四省小麥粉

づれにしても在支製粉工場が濠洲粉や上海粉に禍ひされずに健全な活動をなすためには原料問題の確立が何を措いても緊急の問題であらう。而して右三社の現有勢力は北支のみならず全般的に見て左の如くである。

邦資各社各別生産能力並に委任經營生産能力は左の如くである。(單位日産袋)

省 別	地名	工場數	年生産可能量	年小麥消費量	比 率
河 北 省		40	3,700,000	2,400,000	91%
山 東 省		43	2,900,000	2,300,000	79%
山 西 省		33	3,200,000	2,300,000	72%
河 南 省		9	5,000,000	2,300,000	46%
合 計		125	15,600,000	11,300,000	73%
山 東 省	濟 南	8	8,000,000	6,000,000	75%
同	青 島	1	1,000,000	600,000	60%
同	濰 縣	5	3,000,000	1,100,000	37%
同	煙 臺	1	3,000,000	1,500,000	50%
同	濟 寧	1	5,000,000	2,900,000	58%
同	泰 安	1	2,000,000	1,500,000	75%
同	小 計	27	26,000,000	17,700,000	68%

河北省	天津	八,000,000	四,000,000	河北省	小計	二	10,000,000	五,500,000
同	滄縣	九,000,000	四,500,000	同	大原	一	6,000,000	3,000,000
同	保定	1,000,000	500,000	同	榆次	一	1,000,000	700,000
同	邯鄲	3,000,000	1,500,000	同	臨汾	一	1,500,000	800,000
同	唐山	8,000,000	4,000,000	同	大同	一	2,000,000	1,000,000
同	北京	1,000,000	500,000	同	小計	三	13,500,000	7,000,000
同	石家莊	1,000,000	500,000	合同		三	3,500,000	1,500,000

北支蒙疆製粉工場

工場名	所在地	設立年月	資本額	能力或生産高	其他
壽豐麵粉股份有限公司	本社、天津伊租界河沿路 第一工場天津北趙家場 第二工場天津河北梁家嘴 第三工場天津河北梁家嘴	一九三、七	一、七〇〇,〇〇〇元	一晝夜能力 六五〇〇袋	營業成績香しからず 株式(日本製粉)
福星麵粉股份有限公司	天津特別三區河沿二大街	一九三〇	六六〇,〇〇〇元	一晝夜能力 六五〇〇袋	營業成績近年良好株式
三吉天津工場	天津河北堤頭	一九三、四	七〇〇,〇〇〇元	年産約 二〇〇,〇〇〇袋	株式
天民麵粉廠	北京	一九一八	二〇〇,〇〇〇元	一晝夜能力 五〇〇〇袋	同
德成麵粉公司	河北省唐山	一九四、五	一〇〇,〇〇〇元	同	株式
乾義機器麵粉公司	河北省保定	一九三〇	二〇〇,〇〇〇元	一晝夜能力 三、五〇〇袋	營業成績一九二三年以後好轉
聚豐麵粉公司	河北省石家莊	一九三五	五〇〇,〇〇〇元	同	合資(日本製粉)
利富麵粉公司	河北省滄州	一九四	一〇〇,〇〇〇元	同	營業成績良好ならず 株式
雙快麵粉廠	青島大港一路	一九二八	三〇〇,〇〇〇元	一晝夜能力 四〇〇,〇〇〇袋	(日本製粉)

工場名	所在地	設立年月	資本額	能力或生産高	其他
中興麵粉廠	青島遼寧路	一九三、九	六〇〇,〇〇〇元	一晝夜能力 六〇〇〇袋	恒興麵粉廠を中央銀行にて買収せるもの (日本製粉買収)
三吉麵粉廠	青島邱縣路	一九三、三	七〇〇,〇〇〇元	一晝夜能力 八〇〇,〇〇〇袋	改組せるもの、邦資、株式(日本製粉子會社)
成豐麵粉廠	濟南商埠官札營東頭	一九三、〇	六三〇,〇〇〇元	同	營業成績良好、株式(日本製粉)
惠豐麵粉廠	濟南商埠三里莊	一九二、八	五〇〇,〇〇〇元	同	營業成績近年益々良株式(日本製粉)
寶豐麵粉公司	濟南商埠官札營西頭	一九二、〇	三〇〇,〇〇〇元	一晝夜能力 三〇〇,〇〇〇袋	營業成績良好、株式(日本製粉)
華慶麵粉廠	同	一九三、四	三八七、〇〇〇元	一晝夜能力 三、八〇〇袋	同 稍良好、株式(日本製粉)
豐年麵粉公司	濟南城裡東流水北頭	一九二、〇	七三二、〇〇〇元	同	同 良好、株式(日本製粉)
成記麵粉公司	濟南子家橋	一九三、二	一、五〇〇,〇〇〇元	同	同 良好、株式(日清製粉合辦)
茂新麵粉第四廠	濟南商埠陳家溝	一九二、一	二五〇,〇〇〇元	年産能力 三、六〇〇袋	營業成績稍不良株式
瑞豐麵粉廠	芝罘西大街	一九三、五	二九七、〇〇〇元	年産	同 良好、株式
華東麵粉廠	山東省濰縣	一九三〇	五〇〇,〇〇〇元	同	合資
民豐麵粉廠	山東省長山	一九三三	二〇〇,〇〇〇元	同	合資
泰豐麵粉廠	山東省濰縣	一九三三	六〇〇,〇〇〇元	同	營業成績良好
仁德麵粉公司	山東省泰山	一九三、三	五〇〇,〇〇〇元	同	營業成績良好
濟豐麵粉廠	山東省濟寧	一九三、六	二〇〇,〇〇〇元	一晝夜能力	合資(日東製粉)
晉豐麵粉公司	山西省太原	一九二二	一、〇〇〇,〇〇〇元	同	合資(日東製粉)

晉省電燈公司麵粉 山西省太原 一九四
大同麵粉公司 晉北大同 一九三
綏遠電燈公司麵粉 蒙疆厚和 一九三、五
包頭電燈麵粉股份 蒙疆包頭 一九三、五
有限公司 同 三三八七
晉源西油糧麵粉公 同 一九七
司 銜姓機器製粉部 同 張家口
(註) 括弧中は事變後の委託經營社名

事變後邦資各社現有勢力 (單位日産)

社名	資本	日産	備註
日清	明 四〇三	一晝夜能力 二〇〇〇袋	(日東製粉)
日本	明 二九三	四〇袋	休業中
三井	三〇〇〇〇元	一〇〇袋	同
龍工場(三吉直屬)	一八〇〇	八〇袋	株式
天津三吉(同、舊稱嘉瑞)	二〇〇	一五袋	同
壽豐(天津)	年産一五〇〇〇〇袋	四〇袋	
日東製粉股份松本社長	昭 二二		
三菱系	三〇〇〇〇〇		
〇八(特〇一)	五〇〇		
泰豐(石家莊)	三三		
電燈公司(順德)	一〇		
怡豐(邯鄲車站)	三〇		

北支パーレル計
 向北支最大の製粉工場として資本一千七百萬円三工場を有する天津壽豐麵粉股份有限公司の前身は一九一五年日支合辦に依つて創設されたものであるが一九一九年排日の餘波を被つて竟に休業し結局支那人の經營するところとなつたものである。事變後日本製粉會社の經營となつた。

日清製粉 滿洲において康徳製粉外三工場を有する同社は従來北支輸出に全力をあげて來たが北支において北支の惟一製粉(三百パーレル)を買収し成記製粉(濟南)二

社名	資本	日産	備註
濟南工場(同)	九〇〇		
中興(青島)	一、五〇〇		晉 潤(彰德)
寶豐(濟南)	一、〇〇〇		大和恒(同)
成豐(同)	一、八〇〇		通 豐(新鄉)
豐年(同)	九〇〇		電燈廠(太原)
華慶(同)	七〇〇		晉 豐(太原)
惠豐(同)	七〇〇		魏 檢(榆次)
濟豐(濟寧)	一、〇〇〇		晉 生(平遙)
雙妹(青島)	五〇〇		晉 益(臨汾)
寶興(徐州)	一、五〇〇		忻 縣(忻縣)
			天 豐(開封)
			益 封(同)
			德 豐(同)
			乾 義(保定)

千パーレルの委任經營を開始し外にも二三工場を物色中であるが日本、日東ほどの積極性は示してゐない。濟南の成記麵粉公司是事變前は能力五千パーレルの中五割程度の操業短縮を行つてゐたが日清による合辦經營の改組により資本金百五十萬元、工場設備評價六十萬元、日清出資九十萬元である。

日本製粉 北支において青島、濟南、天津、濟寧、徐州といった主要都會地に多數工場を獲得し子會社三吉麵粉廠直屬工場三、買収工場二(中興、壽豐)委任經營八工場

となつた。この中操業中のものは青島三吉、天津三吉、中興、實豊、成豊、豊年の六工場である。子會社たる株式會社三吉麵粉廠は三井、當社、高橋の合辦で資本金七十萬圓、當社の出資は三十萬圓であるが十倍以上の増資計畫が企圖され目下申請中である。日本製粉としては青島の三吉麵粉をして北支一帯の一元的经营を行はしめ最近また徐州の實興麵粉廠を接收したのであるが將來は三吉麵粉廠をして改稱(假稱華北製粉)とする計畫であるが日支合辦とするや否やは未定である。

天津三吉麵粉廠 三井系日本製粉株式會社に三十七萬元を以て買収された天津堤頭村嘉瑞麵粉公司は二月以來三井の手で機械及び設備の修理を急ぎ本年四月完成し京綏沿線にて買付けた原麥を使用、十五日ポイラーに火入式を舉行二十一日から「三吉麵粉廠」として工人二百餘名

澱粉工業

工場名	所在地	設立年月	資本額	能力	備考
天津工業株式會社	天津特三區十三徑路	一九三三	三〇〇〇〇圓	味の素月産三〇〇貫	株式、日本
味眞美公司	青島陽信路	一九三三	五〇〇〇圓	同	個人、日本
味の美工廠	青島曹縣路	一九三六	三〇〇〇圓	同	合資、日本

を以て操業開始日産一萬袋の豫定である。
日東製粉 北支における委任經營工場は石家莊の聚豐麵粉公司以下京漢線沿線と山西省内における十一工場となつたが本年八月に至つて河南省開封の天豊、益豊、德豊の三工場運管を委託され次で保定乾義工場および彰德大和恒を委託されたので十六工場となつた。今年新小麥出廻り以來銳意これらの製造に當り三菱商事と連絡して製品は地場および北京方面に販賣し現に新郷工場をはじめ從來輸送不能視されてゐた山西太原製品も最近北京市場向發送が出来るやうになつた。全部奥地にある小工場ばかりで北京、天津、山東省方面の工場を割當てられた日清、日粉に比し見劣りがするが工場が小麥産地にあり外國粉の影響から遮断されてゐる點に見逃し難い強味が存するものと云へよう。(商業山西省の部参照)

天津工業會社 味の素本舖株式會社鈴木商店の經營で敷地三千七百坪、建坪一千坪、真空蒸發機一基、ポイラー一基、モーター(計80HP)二〇臺の設備を有し味の素月産能力は最大一萬貫であるが普通三千貫を製出してゐる。

製糖及酒精工業

北支における製糖工業は眞に微々たるものと云ふの外なく僅かに次表に示す一社によつて代表してゐる。北支は甜菜の栽培が可能であり小清河流域にその産出を見ら

工場名	所在地	設立年月	資本額	能力及生産額	其他
博益實業股份有限公司	本社北京西斜外 工場濟南黃臺橋	一九二五	公積三〇〇〇〇〇元 拂三〇〇〇〇〇元	日産能力 酒精 一萬年生産高 砂糖 七〇〇封度 器酒 七〇〇〇圓	販路 山東省 河北省 河南省 山西省

工場名	所在地	設立年月	資本額	年生産能力	其他
晋北興農酒精廠	大同	一九三二	一五〇〇〇元	三二〇〇圓	西北實業
華北酒精股份有限公司	青島	一九三二	三〇〇〇〇元	九六〇〇圓	株式合資
瑞豐酒精廠	青島	一九三二	一〇〇〇〇元	二〇〇〇圓	株式、日華蠶絲

註 興農酒精廠は奉天の項参照。

れるが同社は年々同流域の甜菜を八五〇、〇〇〇擔消費して砂糖及酒精を製し漸く營業を續けてゐる状態である。濟南にも製糖工場はあるが最近業績は舉らず東亞興業が先年三百五十萬貨附けてゐたが自來元利共同收出來ず手を焼いてゐたものだが戦後直ちに東亞興業が營業を繼承し去る一月より營業を開始してゐる。その他濟南には手脂、棉實油、落花生油、カストール油などの原料が豊富である關係上各種石鹼、整理用藥劑などの製造工業が非常に有望視されてゐる。しかし製糖および酒精工業將來の發展の餘地は多分に存するのである。

資本額	年生産能力	其他
一五〇〇〇元	三二〇〇圓	西北實業
三〇〇〇〇元	九六〇〇圓	株式合資
一〇〇〇〇元	二〇〇〇圓	株式、日華蠶絲

醸造工業

北支の土質は麥、大豆、葡萄、其他雜穀の栽培に適してゐるため新業の前途は大いに發展すべき可能性に富んでゐると云へる。たゞ現在迄は比較的大規模な新式醸造工場は極く少数に止り北京の雙合盛啤酒(五星)フアイブ、スター・ビール)工廠、青島の大日本麥酒會社天津のU・S・ビール等が名譽を博してゐた状態である。現在北支における各種醸造工場を分類してみると次の通りである。尙事變以來京津地方の邦人急増に伴つて日本酒醸造計畫も二三傳へられてゐる。支那酒(高粱酒)醸造は最も土着的な工業で所謂饅鍋で生産されその生産高は天津において毎年四百萬斤と稱せられるが煙酒公賣稅(酒、煙草

麥酒醸造工場

工場名	所在地	設立年月	資本金額	生産能力及能力	其他
雙合盛啤酒工廠	北京廣安門車站	一九二四	1,000,000元	年産能力 麥酒(五星) 1,200,000 サイダー 2,000,000打	年々五〇萬元の純益ありと稱す商標米國々旗
天津啤酒公司	天津特別三區十經路	一九三二	400,000元	年産量(U・S) 7,100,000	米國資本合資(最近邦資本買収)

麥酒醸造工業

麥、大豆、葡萄、其他雜穀が豊富で栽培に適する北支も麥酒醸造工業は未發達で、從來殆んど日本のおよび外國ものに頼つてゐるが事變後殊に麥酒景氣を謀はるゝ至つたのに鑑み北支の新業の將來性は極めて有望視されてゐる。しかし現在殊に事變後は大日本麥酒の太陽牌(アサヒ)麥酒が内地から進出に拍車を加へて北支麥酒販賣界を席卷し地盤を確保しつゝあるので同社青島工場の外他の麥酒會社が現地工場進出を企てることは容易なことではないだらう。

專賣稅)が高率なため密造が依然幅をきかしてゐる模様である。

醴泉啤酒工廠	山東芝罘南山老虎殿	一九〇三	100,000元	年産能力 麥酒 400,000 サイダー 500,000打	營業不振多額の負債あり株式
大日本麥酒株式會社青島工場	青島登山路	一九二八	公債 1,000,000 拂戻 800,000	年産量 1,000,000	一九〇四年設立の獨人工場を買収せるもの

大日本麥酒青島工場 有名な青島ビールの製造元に大日本麥酒青島工場がある。事變による引揚前に仕込んだ許りの麥酒が約六十萬圓あつた。工場爆破は數回に亘つて行はれ最後の爆破は十二月二十九日沈市長逃亡の直前に行はれた。復舊後發見した未使用ダイナマイトが五十餘個あつたがそのため醸造釜は四個のうち二個無事に残り地下室に仕込んであつた前記六十萬圓の麥酒は無事で無被害の瓶詰器を利用して紀元節以來日々七百箱宛供給することが出来た。五月中には一部復舊を見たが機械全部の本格的修理は十四年度のこととされてゐる。

U・S・ビール買収 天津における外人ビール製造會社として北支に大きな地位を占めるU・S・ビール會社は八月中東洋醸造會社に買収契約を締結したが買収價格は十五萬圓、U・S・ビール工場敷地の一切が東洋醸造に譲渡されることになつた。従つて東洋醸造ではこれを機會に百

萬圓を投じて同工場を擴大、麥酒製造は勿論人造酒、無水アルコールを醸造すべく計畫中で麥酒の生産能力も本年度の日産五萬算を一躍倍加の十萬箱に引上げるべく意氣込んでをり明年からは日本人向の麥酒を製造して北支に進出中の大日本ビール、キリンビールとの間に割込むことになつた。

日本酒醸造工業

在留日本人對手の工業であつて良水に乏しいが内地の如く造酒税がかゝらぬために成立したもので將來の大發展は望まれ難いが廣島の千福三宅清兵衛商店は本年産五萬石(二萬五千石は化學酒)を目標とする青島工場計畫を進めてゐる。

日本酒醸造工場

工場名	所在地	設立年月	資本額	生産量及能力	其他
清水洋行酒造場	天津日租界住吉街	一九二一	二〇〇〇元	年産高 三〇〇石	邦資本個人
川勝洋行	同 蓬萊街	一九三三	一〇〇〇元	同 生産高 二〇〇石	同
吉田號酒造場	同 住吉街			同 生産高 一八〇石	同
池崎商店	青島			同 生産高 二〇〇石	同
田中商店	同			同 生産高 三〇石	同
德田洋行	同 招遠路			同 生産高 三〇石	同
氏家酒造店	同 市場二路			同 生産高 三〇石	同
中井商店	同 蘭山路			同 生産高 七〇石	同
金水商會	同 臨瀆路			同 生産高 一〇〇石	同

昭和商會理研酒加工工場 理研酒の北支一手販賣元である當地日界花園街の昭和商會天津出張所は既報の如く本年九月華街東馬路に千餘坪の酒精生産工場を完成し操開の段取りとなつたが運轉資金入手困難となり操業の見透しもつかず行儀みとなつてゐるがこの爲め同商會では酒精醸造を一時延期して之に代つて同工場を理研酒の加工工場に充當することとなつた。即ち濃度な理研酒の生

洋酒醸造工業

酒を輸入して同工場ではこれを輕度加工量せんとするものである。洋酒工業としては外國品の輸入に壓倒され徴々たるものでわづかに左の數工場を見るにすぎない。

洋酒醸造工場

工場名	所在地	設立年月	資本金	生産能力
友田商店	青島桓臺路	一九一九	五〇〇〇元	葡萄酒、ウキスキ、ブランデー、合瓶入、年産五〇〇〇本
張裕釀造股份有限公司	芝罘張裕路	一九〇〇	二〇〇〇〇元	赤葡萄酒、白葡萄酒、年産一〇〇〇〇打
光華葡萄酒實業社	芝罘三馬路	一九二五	二〇〇〇元	葡萄酒、年産一〇〇〇〇打

清涼飲料水工業

地方一般の需要を充つ程度で製品は殆んどサイダーに限られてゐるが品質的に優秀のものは依然輸入品に俟つてゐる。

工場名	所在地	設立年月	資本額	生産量及能力	其他
山海關汽水有限公司	天津特別三區	一九三三	八二五〇元	月産サイダー二〇〇〇打	英資本株式
鴻興汽水公司	天津北馬路	一九二二	八〇〇〇元	月産同	合資
光明汽水公司	同 佛租界二十六號路	一九三三	四〇〇〇元	同	株式
明星汽水公司	同 伊租界南西馬路	一九一九	五〇〇〇元	同	個人
良濟藥房汽水工廠	同 佛租界中街	一九三〇	五〇〇〇元	同	英資本個人
嶗山汽水公司	青島塔山路	一九三〇	二〇〇〇元	同	同
義興汽水工廠	同 冠縣路	一九二六	一〇〇〇元	同	同
魯興汽水工廠	同 濟南路	一九一九	二〇〇〇元	同	同
洪興汽水工廠	同 壽張路	一九三〇	二〇〇〇元	同	同
普賢汽水工廠	同 恩縣路	一九三〇	二〇〇〇元	同	同
聯合汽水工廠	芝罘大馬路	一九三〇	三〇〇〇元	同	同
順記汽水工廠	山東省威海衛中山路	一九三三	三〇〇〇元	同	同

醬油釀造工場

次表の外比較的大規模なものに安齋醬油工廠(天津)大

工場名	所在地	設立年月	資本額	年産量及能力	其他
丙宜食料品工廠	北京德勝門内	一九三六	一〇〇,〇〇〇元	年産 七〇〇,〇〇〇斤 年産 四〇〇,〇〇〇斤	個人
岩木商店	青島湖北路	一九三二	一五,〇〇〇圓	同 諸味 一五〇〇石 同 醬油 八五〇石 同 味噌 八〇〇貫 同 ソース 六〇石	同 營業良好 同 營業順調
富士食品加工廠	同 無棣二路		三〇,〇〇〇圓	同	同

同醬油工廠(北京)大星南醬油股份有限公司(北京)等あるも他は殆んど家内工業の範を出てゐない。

罐詰工場

罐詰工業は未だ邦人の手に成るもの皆無と稱する状態である。由來支那大衆は粗食に甘んじてをり且つ一部の美食階級に於ても肉類を主とした舊來からの料理を最上

工場名	所在地	設立年月	資本額	生産量及能力	其他
三星罐頭公司	天津特別二區大昌興胡同	一九三一	三〇,〇〇〇元	年産 各種 三〇〇,〇〇〇個	營業近年良好株式
廣大工廠	天津宮北大街	一九三三	同 一〇,〇〇〇元	同 各種 三〇〇,〇〇〇個	營業成績利益多し

としてゐることが單に北支に止まらず全支的にも同工業の振はざる主因であらう。製品は殆んど肉類で、果實、魚類が僅かながら之に續く。近年日本罐詰の北支進出著しくともすれば現地製品はこれらに押されがちである。その他大古罐頭行(天津)益華釀酒股份有限公司(山西省清德)等あるも小規模である。

鶏卵加工々業

鶏卵加工工業は支那名製蛋業と稱し鶏卵を乾燥して粉末となし主として菓子材料となすものである。青島及天津は上海、漢口と共に同製品輸出の四大港と稱せられ輸出額は年々二千萬元内外に達すると云ふから北支輸出品中棉花に次ぐ大宗品たるの重要な地位を占めてゐる譯だ。輸出品の大部分は乾燥或は液状並冷凍せる加工卵で

工場名	所在地	設立年月	資本額	能力及生産量	其他
廣興蛋廠第一廠	河北省保定	一九一九	一〇〇,〇〇〇元	年産額 一五〇,〇〇〇元	兩廠合計
廣興蛋廠第二廠	同 桑園	一九二四	二五〇,〇〇〇元	日産能力 蛋黃粉 三〇〇〇斤 蛋白質 六〇〇斤	合資
上海福盛蛋粉廠	同 泊頭鎮	一九一九	二五〇,〇〇〇元		

鶏卵加工々場

新中罐頭食品股份有限公司	河北省昌黎	一九二〇	一〇〇,〇〇〇元	同	同
德豐罐頭廠	青島大成路	一九三三	一〇〇,〇〇〇元	同	外に菓子及貝ボタンを製す
泰康罐頭食品有限公司	濟南南商埠四緯路	一九四一	一五〇,〇〇〇元	年産 各種 二〇〇,〇〇〇個	外に菓子を製し相當の利益擧ぐ
上海食品公司製造部	同	一九〇八	一〇〇,〇〇〇元	同	
東亞罐頭股份有限公司	山東省芝罘廣仁路	一九二九	一〇〇,〇〇〇元	同	
德豐罐頭廠	山東省芝罘南鴻街	一九三一	一〇〇,〇〇〇元	同	
福興公罐頭廠	同	一九三二	一〇〇,〇〇〇元	同	
振東罐頭工廠	同 北大街	一九三六	一五〇,〇〇〇元	同	

あるが鶏卵乾燥工業には土法による舊式の方法と機械力による新式の方法とに大別されるが各産地には夫々新舊の加工設備を有し天津で加工されるものは殆んどない。製品は全卵、卵白、卵黄の三種に區別される。今後奥地において日本人が企業化するに有望とされてゐる。由來養鶏及鶏卵加工工業は全國農家に遍く發達せる副業で小資本に依る工場は百以上に達すると云ふが正確なる數字は不明である。主なる工場は左の十三廠を數へる。

業名	所在地	設立年月	資本額	生産能力	其他
茂昌股份有限公司	青島商河路	一九三三	二,000,000元	凍蛋、年産 五,000噸	英佛へ輸出す、株式
青島蛋廠	同 遼寧路	一九三三	一,500,000元	同 八〇〇噸	山東倉庫を借入
美豐洋行蛋廠	同 邱縣路	一九二八	九〇〇,000元	凍蛋、年産 一,五〇〇噸	米國資本
富興蛋廠	同 青島青島路	一九二五	一,000,000元	凍蛋日産能力 五〇〇噸	大連製氷會社青島支店を借入英國資本
華北蛋廠	同 邱縣路	一九二七	二,000,000元	凍蛋日産能力 二〇〇噸	邦資本個人
培林洋行	同 青島路	一九二九	一,000,000元	凍蛋日産能力 一〇〇,000斤	營業、欠、合資
石橋洋行	同 青島路	一九二九	一,000,000元	同 一〇〇,000斤	
同興祥蛋廠	同 青島路	一九三三	一,000,000元	同 一〇〇,000斤	
魯麟工廠	同	一九三三	一,000,000元	同 一〇〇,000斤	
天成蛋廠	同	一九二六	一,000,000元	同 一〇〇,000斤	
裕民工廠	同	一九二五	一,000,000元	同 一〇〇,000斤	
益興存蛋廠	同	一九二六	一,000,000元	同 一〇〇,000斤	

製氷工業

製氷および冷蔵工業は夏季における人造氷の販賣並に獸

工場名	所在地	設立年月	資本額	生産能力	其他
天津製氷冷蔵株式會社	天津日本租界三島街	一九〇一	一,000,000元	年産 八〇〇噸	株式(日本)
屈臣氏工廠	天津英租界中街	一九三三	一,000,000元	月産 サイダー日産三〇打	個人
大連製氷株式會社青島支店	青島寶山路	一九二七	本社二,500,000元 支店一,150,000元	同 一八〇〇噸	株式

肉、鶏卵、蝦等の輸出、鮮魚の移入および保存等のために重要な役割をなすものであつて山東牛肉の對日輸入が旺んなのは冷蔵工業の發達に負ふところが多い。

天津製氷冷蔵株式會社 資本金二十萬圓(全額拂込)を以て昭和五年創立され爾來順調の發展を遂げ殊に事變以來軍關係および在留邦人の増加に伴ひ製氷および冷凍魚の需要増加し現在の製氷能力および冷凍設備では不足を告ぐるに至り工場設備の増設を餘儀なくされ近く増額増資を決定する筈である。生産能力年三千噸、天津最大の製氷工場である。

電氣瓦斯工業

電氣工業

支那における電氣供給事業は日本よりも二年早くイギリスに電氣事業が初めて興つてから僅か三年目の一八八四年(明治十七年ドイツ人が上海の共同租界に創設した

ものである。その後日本よりは發達において遙かに遅れた。昨年五月現在滿鐵調査によれば全支總數に對する割合は河北省一八%で上海に次ぎ第二位、山東省は二・一%で北支三省および蒙疆における發電所は四七ヶ所、出力八七、〇〇〇キロ、投下資本三千五百萬圓でこの外に自家用發電所六一工場、九四、四〇〇キロでこの大部分は北京、天津、青島に集中され他には左して見るべきものもなく山西、蒙疆は〇・五乃至〇・二%の低位で殆んど未開地である。元來北支は地理的、政治的惡條件に制約せられ土着資本が封建的な高利貸的なイデオロギーにより短期間における高率利潤のみ追及して改良、償却を怠つた結果工業の發展は紡績、セメント工業などを除き極めて貧弱なものであつた。しかも一般民衆の生活程度も低いため點燈が普及せず、北支の電氣事業は次表に示す通り微々たるものであつた(昨年五月現在調査、河北省の分は天津電業は除外す)

省名	種別及び數	資本金 (千元)	發電設備 (KW)
河北	供給事業者 二	一六、八五五	七九
山東	自家用 五	—	七〇
	供給事業者 一六	四、二二二	三三
	自家用 二五	—	三二

山西 供給事業者 七 五六九 一
 自家用 八 一 二
 綏遠 供給事業者 二 四八〇 〇・五
 察哈爾 供給事業者 二 三五六 〇・四

發電設備の過半数は天津、北京、青島に集中されてゐる。北支電氣事業の特長は電氣事業を主とし動力供給や電氣を原料とする方面は僅少であること、火力發電が多く外國資本系統が錯綜し統一經營が困難だといふ點にある。たとへば天津にはわが天津電業公司、舊天津共益會のほかにイギリス系二個、フランス、ベルギー系各一個の會社があり、各既得權益を保有してわが電氣勢力の阻止に大童となつてゐる。これらはいづれも租界を中心とし支那側との間に供給區域を契約してをり積極的發展は望めぬが現状維持で十分利益をあげわが天津電業公司の進出を阻んでゐる。冀東地區内では先般電力聯盟と冀中公司とが共同出資により日支合辦の冀東電業を設立群小電氣事業を合同したが開源礦務局、北戴河海濱發電所のごときイギリス系のもは参加を拒絶し孤島を守つてゐる。しかし情勢の一變した今日小天地に踞する各國の電氣業者は問題とするに足らない。冀東電業公司、天津電業公司はそれぞれイギリスなどの五錢に對して日本側

はわづか二錢の低廉なる料金を武器として包圍陣を完成してゐる。また電力聯盟の別動隊たる東亞電力興業は昨年増資を決定、天津地方五箇年間の需要増加を十萬キロと推定しまた送電第一期計畫として天津塘沽間および北京、天津間に六萬六千ボルトの送電線を建設する準備をも進めてゐる。北支の電燈普及率は人口百人當り朝鮮の五燈、滿洲の七燈に對し僅か二燈に過ぎないからまづ電燈の普及を第一目標とし諸工業の發達、重工業地帯の設置などと關聯し治水、灌漑を考慮にいたした水力發電、石炭資源の開發に伴ふ火力發電を合理的に起す必要がある。

北支の發電は全部火力によるものである。この結果自然發電コストは割高となり天津における電氣料の如きは漢口に次いで世界第二位に位し電力料金の割高は工業發展の痛と稱すべく今後日本資本とその優秀な技術はいよいよこの方面への活躍を待望されるわけだ。

東亞電力興業株式會社 中北支における電氣事業會社としては五大電力會社の外に十五社(九州水力、大日本電力、廣島電氣、熊本電氣、中國合同電氣、矢作水力、京都電燈、伊豫鐵道電氣、山陽中央水電、新潟電力、長野電

氣、日本海電氣、中央電氣、南朝鮮合同電氣)を參加せしめ各五十萬圓出資、一千萬圓の會社として設立し當初五大電力會社のみの出資で北支電力興業公司と稱したが本年五月東亞電力興業會社と改稱した。すなはち電力聯盟の別働隊である。

主要電力會社 北支開發會社が經營すべき北支電氣事業は現にその大部分が冀中公司の委任經營となつてゐるが冀中は開發會社に吸収されるので別に開發會社の小會社として東亞電力興業を中心とする電氣事業會社を設立し北京、天津、石家莊、太原、保定、彰德、冀東、張家口、濟南、芝罘、青島等各地にはさらに電氣事業會社の小會社を設立する筈である。開源炭礦、啓新セメント等の自家用發電を除く北支における主要電力會社の現況は左の如くである。

北京華商電燈公司 (北京)

資本金 六,〇〇〇,〇〇〇元

發電裝置

一五,〇〇〇 KW	一臺
一〇,〇〇〇 KW	一臺
五,〇〇〇 KW	一臺

二,〇〇〇 KW 一臺

發電所 石景山 一

其他西城根發電所(三,〇三五 KW)を所有す。

天津電業公司 (天津)

資本金 八,〇〇〇,〇〇〇元

發電設備

一五,〇〇〇 KW	二臺
-----------	----

冀東電業公司 (冀東)

資本金 三,〇〇〇,〇〇〇元

發電設備

山海關	一,七五〇 KW	一臺
昌黎	五〇 KW	一臺
蘆臺	七〇 KW	一臺
唐山	一	一臺

膠澳電氣公司 (青島)

資本金 二,〇〇〇,〇〇〇元

發電設備

一五,〇〇〇 KW	二臺
五,〇〇〇 KW	一臺
八,八〇〇 KW	一臺

(以下資本金單位千元)
石家莊電燈廠 (石家莊)

資本金 二二九九

發電設備

A 六四〇 kVA 一臺

B 三三六 kVA 一臺

保定電燈電力公司 (保定)

資本金 三〇九九

發電設備

A 八八〇 kW 一臺

B 三〇〇 同 一臺

C 一七五 同 一臺

新鄉水電公司 (新鄉)

資本金 二〇〇〇

發電設備

一四五 kW 一臺

順德電燈公司 (順德)

資本金 一五〇〇

發電設備

A 六〇 kW 一臺

B 七五 kVA 一臺

安陽電氣公司 (彰德)

資本金 五〇〇

發電設備

一二五 kVA 一臺

中興電氣公司 (彰德)

資本金 五〇〇

發電設備

魏榆電氣廠 (榆次)

資本金 一〇〇〇

發電設備

A 一八五 kW 一臺

B 六〇 同 一臺

大谷同記電燈公司 (大谷)

資本金 一〇五〇

發電設備

A 六三 kVA 一臺

B 八三 五同 一臺

生明電燈公司 (新絳)

資本金 二二〇〇

發電設備 八五 kVA 一臺

晉生麵粉公司 (平遙)

資本金 一〇〇〇

發電設備 一六〇 kVA 一臺

晉華紡織祁縣織染廠 (祁縣)

資本金 三〇〇〇

發電設備 三六〇 kVA 一臺

晉北麵粉公司 (臨汾)

資本金 一〇〇〇

發電設備 八二 kVA 一臺

太原電燈新記公司 (太原)

資本金 五五六

發電設備

A 三、〇〇〇 kW 一臺

B 一、一五〇 同 一臺

C 三〇〇 同 一臺

D 三〇〇 同 一臺

濟南電氣公司 (濟南)

資本金 八〇九

發電設備

天津電氣公司 昭和十一年年報自中が天津の外國租界以外の區域に供給の目的を以て設立した會社で資本金は四百萬元、内二百萬元は舊天津市政府の出資で残り二百萬元は興中公司が所有し興中は別に市政府に對して二百萬元を貸してゐた。これを別項日本の電力聯盟が興中公司の所有株の半數百萬圓と貸金の二百萬圓の半分百萬圓を引受け資本金八百萬元の子會社となしたもので一萬五千キロ發電機二臺を新設することとなり事變前に既に發注し事變後に完全したのであるがその供給區域は各國租界外の支那街といふ事になつてゐる。二千キロの發電設備を有する天津居留民團經營の供給區域たる日本租界にも不足分を供給した特別第三區(舊露國租界)特別第一區(舊獨逸租界)も供給區域に屬する、天津には英、佛、白、伊等各租界に發電設備を有し經營してゐるがこれ等は天津電業公司の供給區域外に屬するものである。また餘利

電力は北京に供給する意向であるが北京には別項の華商電燈会社が委任經營となつてゐるのでその實現を見るに至つてゐない。その白河發電所は一昨年十一月以來經費百五十萬元を投じて本年五月完成、北支隨一を誇り出力三萬キロの火力發電所である。九月下旬現在送電量は

日本租界(燈用) 二、〇〇〇キロ
特一區(燈用) 一、〇〇〇キロ
特約電力 五〇〇キロ

その他を合して僅か三千八百キロ(内課燈用および昌和工廠、維新化學各六百キロ、上海紡、雙喜紡六百キロ、中山製鋼、興元公司、京津礦業その他で一千五百キロ内外、化學武齊等の骨粉工場三百キロ)に過ぎず、一萬五千キロ發電機一基を運轉してもなほ過剩電力の捌け口に困る現状で今年末までに棉花プレス、中山製鋼所、大日本セルロイド各工場に送電するとしても一基のみの發電能力を満たし得ず北支經濟の躍進的景況とは全く相反した皮肉な現象を呈してゐる。この過剩電力消化難の原因は事業計畫當初に契約された上海紡、雙喜紡、倉敷紡、大日本紡、岸和田紡、吳羽紡等の紡績會社が工場設立乃至増設不許可となりまた各種工場も資金關係、材料入手

佛租界電燈房 佛 國 二五〇同 五三〇〇同
英國工部局發電廠 英 國 一〇〇同 三三〇〇同
天津電車電燈公司 白 國 六二五〇法三、九〇〇同
天津電業公司 日支合辦 八〇〇〇千元三〇〇〇同
北京華商電燈公司 創立以來三十數年の歴史を有し資本金六百萬元、發電所は西郊石景山三二、〇〇〇キロ、西城根三、〇三五キロであるが現在北京特別市公署が委任經營をなしてゐる。

北京電車公司 北京電氣公司から受電し大使館區域たる交民巷區域に供給する三、一〇〇キロの電車事業を經營してゐる。資本金四百萬元。

北京電氣公司 通縣に發電所を有し一八、〇〇〇キロの發電設備がある。資本金二百五十萬元。

青島電氣界 青島には事變前邦人紡九社あり内三社は買電一即ち膠澳電氣公司より買電し六社は自家發電(内二社は一部電力を膠澳電氣より受電併用)であつた。青島電力の復舊は紡績の復舊と關聯するものであるがその一キロワットの料金は大體一錢五厘見當で膠澳電氣公司は青島電力界の元締をなしてゐる。

膠澳電氣股份有限公司 一九一六年の設立に係り最初邦人經營のものを邦資によつて買収したものであつて、

蘇に北支進出を阻まれてゐるため勢ひ送電不要となつたもので天津電業としても窮狀打破に躍起となつてゐるが現在では如何ともなし難く従つて第二期計畫たる二萬五千キロ發電機一臺増設も當分見送りのほかなく専ら天津市内送電網の確立を期して工場新設許可の日を待つことになつてゐる。

比國電車電燈公司 一九〇六年設立され資本金は數回増資の結果現在六百二十五萬法、半額を電車經營に半額を發電所經營に投じ内容設備北支第一を誇つてゐる。同發電所は設立當時支那側との協定により設立滿二十箇年後に於ては支那側の希望により利權を買收し得ることゝ規定されてゐるが資本調達不能なるため今日尙實現されず只會社側は報效金として毎年二十萬元餘を天津市政府(現在の市公署)に納入してゐる。

なほ天津を中心に前記の外開源炭礦の二九、〇〇〇キロ唐山啓新セメントの一五、〇〇〇キロ、東洋製紙工業の二、五〇〇キロ(共に自家用發電)などがある。

天津に於ける電氣事業

名	稱	國	別	資本金	發電設備
天津居留民團發電所		日	本	一、〇〇〇千元	一、〇〇〇KW

青島還附後日支合辦に組織を改め資本金を二百萬元とし青島における電力供給の元締として今日に及んでゐる。

昭和十一年春新築竣工の四方發電所一萬五千KW二臺、五千KW一臺の發電機は今事變で専務、技師長以下日本人職員六十餘名の最後まで踏留まらうとしたにもかゝらず支那暴兵に爆破され對外關係から廣州路の第一發電所の八千八百KW發電機が残されたため市街地の電燈だけは暗黒にならずに助かつた。しかし復歸以來日本人所の努力で四月初旬までには電燈約七割を復舊し配給してゐる。電力の方は爆破された發電機三臺一萬五千KW二個五千KW一個、合計三萬五千KWで間に合はせに

第一發電所の八千八百KWで市中電燈とごく小工場の一部の動力とを供給してゐたが一萬五千キロ一臺はすでに修理を完了し五月一日から運轉を開始してゐる。爆破された機械は芝浦製作所から技師數名が出張して修繕に當つてゐるが、全部の完全な復舊には九三年かゝるといはれる。他の一萬五千キロ一臺は内地に送つて改作修理してゐるがこれは十一月末に据付を終る豫定である。五千キロ一臺は多少遅延を見る模様である。動力供給は紡績九工場其他八百四十一工場二萬五千七百馬力餘であつ

だが、今のところでは工場方面の需要量だけは七千五・W
あれば足りるので工場は十分な動力を受けられるわけ
だ。事變によつて中止を餘儀なくされてゐた工事も目下
繼續施工中で明年夏ごろには 未完成事業も全部完成する
筈である。事變後電力需要の激減と石炭の價格昂騰とで
月々三萬圓程度の赤字を出してゐるが 經營内容を整備す
るために現在資本金二百萬圓を八百萬圓に増資すること
になつてゐる。

青島に發送電會計畫 青島復興の基礎事業たる電力
の發送電に關しては興中公司が着々その一元の準備を進
行中であり企畫院の検討を経て近く愈よ資本一千萬圓の
日支合辦の發送電會計畫が創立されることになつた。右は
華人經營だつた膠澳電氣股份有限公司を母體としその他
邦人、支人等の經營にかゝる各社を吸収して統制事業に
乗り出すもので現状では發電能力一萬五千キロ、新會社
設立後は三萬五千キロにまで擴張して青島産業復興に萬
全を期せんとするものである。

濟南電氣公司設立案 東亞電力興業がその設立本來の
目的の一部分を遂行、その豊富な資本を以て濟南に進出
し既設電氣事業を買収して新たに資本金三百萬圓、日

支折半出資の合辦事業として 濟南電氣公司を設立せんと
する計畫で東亞電力と興中公司とで出資の四分の一を引
受ける筈である。

瓦斯工業

瓦斯工業は支那全土の内僅か上海に一工場を有するの
みである。支那民衆の生活程度は極めて低く上海の如き
世界的大都市においてすら需要者の目標を支那人とし
ては到底採算は期し難き状態である各國人の居住する共同租
界によつて始めて經營が可能であると云ふ。天津におい
ても邦人或は歐米人に依つて今迄數回設立計畫された
が種々調査を進めるに従つて自らこれが計畫を放棄する
に至つてゐる。すなはち華人消費者は極く少數である事、
燃料(主として石炭)が安價で殊に炊事用としては粉炭を
粘土で固めた煤球兒と稱するものを一般に使用し非常に
割安であること、日、佛、英、伊等の各租界を叫合せば
採算十分可能と云はれるも今日迄斯る機運に至らない事
が重なる原因であらう。要するに北支に限らず支那の瓦
斯工業は華人以外を目標として當分計畫されるものであ
らうから北京の如き大都市も現在の状況では先づ以つて

實現性乏しと云はねばなるまい。昨年春早々天津在留邦
人の一部に依つて、天津瓦斯工業株式會社を組織し日本
租界内の瓦斯配給を目標とした小規模なる瓦斯會社を設
立せんとの議起り設立許可方申請中のこと日支事變に
遭遇し今日に至つてゐるが若し今後右が設立されるれば北
支最初、全支第二番目の瓦斯會社といふことにならう。

窯業

洋灰(セメント)工業

洋灰工場は北支に於ては三工場に過ぎぬ。然かも山西
及濟南の兩工場は資本も少く僅かに工場附近の需要を満
たしてゐるに過ぎぬ状態であるが獨り唐山の華人經營啓
新セメントは良質なる洋灰を多量に産し北支は勿論支那

全土へ販路を有し年々莫大なる利益を上げつゝ獨占的狀
態をつゞけ一昨年来天津地方に於ては我國投資の工場建
築に際し冀東低税を利用して小野田、淺野セメント等が
盛んにダンピングを開始したが唐山附近の安價なる材料
と低廉なる勞銀とによつて生産されつゝある啓新セメン
トには敵すべくもなく及がたぬ有様であつた。しかし
最近治安および交通状態の關係上その産額は少額にとど
まり一方事變後淺野セメントの委任經營となつた太原の
西北洋灰廠は目下工場修理中で同じく三菱系磐城が出資
して本年五月合辦契約が成立した委任經營中の濟南唯一
の致敬水泥公司も未だ地元需要を充すに過ぎぬ程度であ
る。然るに北支經濟開發の進展に伴ふ巨額の需要を豫想
されるので内地當業者は近く華北洋灰公司を設立するこ
とによつて生産能力百萬噸を目標として準備を進めるこ
とになつてゐる。

工場名	所在地	設立年月	資本額	生産量又は能力	其他
啓新洋灰股份有限公司	本社天津佛租界大道、工場河北省唐山	一九〇七	公同1,000,000元 獨1,000,000元	年産能力 1,800,000樽 普通 1,100,000樽	商標 馬牌
西北實業公司洋灰廠	山西省陽曲縣	一九一〇	500,000元	年産 200,000樽	舊省營、淺野セメント經營
致敬水泥公司	濟南商埠緯九路	一九一〇	200,000元	同	磐城セメント經營

東北洋灰公司設立案 當社設立に關してはセメント聯合會側とアウトサイダーたる小野田その他の間に經營主體を何處に置くべきか乃至は内地休眠設備の移轉出資率等に關して屢々紛擾を繰返しおそくも九月末頃までには創立の豫定であつたのが未だその實を擧ぐるに至つてゐない。當社は前記の如く數年後の生産能力百萬噸を目標とするものであるが差當り第一期計畫として北京乃至濟南附近に年産十萬噸の新工場を設立する筈で然る上は啓新セメントと合せ四十萬噸の生産が可能となりさらに目下修理中の西北洋灰廠も現能力日産百二十噸を倍加し近く運轉開始を見る筈であるが當社は西北、致啓各工場を買収する豫定である。なほ商工省の裁定によつて資率はセメント聯合會、セメント懇話會並に純アウトサイダー別に、右三者の出資率は聯合會七割懇話會二割七分、殘餘をアウトたる富山、富國、日鐵三社に割當て徳山曹達、電化兩社は出資に参加せぬことと略決定してゐる。

工場名	所在地	設立年月
東華燒磁公司	天津日租界伏見街	一九二九

珞珈鐵器及陶磁器煉瓦工業

珞珈鐵器工場は天津の數工場に止り投資額亦僅に僅少の狀態であるが只東華燒磁公司(邦人經營)は支那人職工一五〇名を使用販路も河北省山西省一帯に及び年々順調なる營業を續けてゐる。陶磁器の生産は景徳鎮、磁州、博山が著名であり元來高級品工藝品を中心に發達し來つたのであるが現在では小規模な家内工業でその製品も茶碗、皿類、盃類等一般に廉價な粗製品が多い。北支陶磁器工場の主たるものは山東省博山に舊式な家内工業が相當密集してゐるが稍新式な陶磁器工場は河北省唐山二工場天津一工場その他に過ぎず製品も概ね粗磁器にして京津地方の需要を満たすのみであり衛生陶器類の如きは我國名古屋地方から多量に輸入されてゐる。京津地方への旅行者が支那の古磁器として日本内地へ持參する物の多くは日本製であると云ふ。

資本額	月産額	能力又は生産量	其他
三〇〇〇〇元	最高通	二〇〇〇〇元	年營業額 二〇〇〇〇元
		四〇〇〇〇元	邦營業額 二〇〇〇〇元

工場名	所在地	設立年月
德記搪瓷廠	天津佛租界中和里	一九三〇
三同搪瓷公司	天津南市首善大街	一九二九
華北搪瓷廠	天津城內紅牌電車站	一九三〇
大新搪瓷工廠	天津海光寺萬德堂	
啓新磁廠	河北省唐山	
新明磁廠	天津	
德盛窯業廠	青島	一九二八
山東窯業株式會社	青島	一九二八
孤山窯廠	山東省博山	一九二二
山東省立窯業試驗廠	山東省博山	一九二二
膠東陶磁工廠	芝罘	一九二九

資本額	生産能力	備考
四〇〇〇〇元	日産 二〇〇〇個	年營業額 一〇〇〇〇元
二〇〇〇〇元	年營業額 一〇〇〇〇元	職工 六〇名
一〇〇〇〇元	同 一〇〇〇〇	職工 五〇名
二〇〇〇元	同 五〇〇〇元	
一五〇〇〇元	同 一〇〇〇〇個	
一〇〇〇〇元	同 九〇〇〇〇〇	
七〇〇〇元	同 九〇〇〇〇〇	
一〇〇〇〇元	同 九〇〇〇〇〇	

開礦務局が自家用耐火煉瓦を生産しつゝある外その他にこれが生産は見られなかつたが最近一千萬圓を増資した品川白煉瓦會社では冀東地區の豊富な粘土に着眼し唐山、塘沽を工場の兩候補地に擧げてゐたが原土高その他により幾分模倣替をなし本年九月開平に北支第一工場敷地約一萬五千坪を購入した。當社は將來年産六千噸の優秀耐火煉瓦を生産することによつて北支における自給自足を試みるものである。

山東窯業並に孤山窯廠兩者共に放火掠奪を受けたが山東窯業は本年三月中旬から赤煉瓦年三千萬個、赤瓦四百萬個を目標に操業を開始し孤山窯廠は四月下旬から一日六萬個の煉瓦を生産することになつた。

なほ最近兵庫縣淡陶株式會社は愛知縣業者と提携して唐山附近に工場設立の計畫を進めつゝあると傳へられてゐる。

品川白煉瓦株式會社現地工場案 從來北支においては

硝子工業

硝子工業の主要原料たる珪石、曹達、石灰石等は河北、山東の二省に甚だ豊富に産する。山東の博山、河北の琉璃河には多量の石英砂を産し冀東区内の房山、宛平、唐山及び山東の歴城、博山、章邱、淄川等には石灰石極め

て多く、曹達は永利製鹹廠で製出される。故に材料關係から硝子工業は河北省、山東省に自ら發達してゐる。元來支那全土の硝子消費高は約二千萬元でその内四割程度は支那製品でその品種は主として瓶、電燈笠、ラムプ等であつて近代的な板硝子製造工場としては秦皇島の耀華機器玻璃製造廠のみと云つてよい。山東省内では百萬枚位の板硝子を生産して來たが品質は粗悪である。

硝子工場

工場名	所在地	設立年月	資本金	能力或は生産量	其他
耀華機器玻璃製造股份有限公司 (日支合辦)	本埠天津英租界中國實業銀行内 工場河北省秦皇島	一九三三	公三,〇〇〇,〇〇〇元 拂三,〇〇〇,〇〇〇元	年産板硝子 200,000箱 日産サイダー瓶 6打 日産ランプ、ランプホヤ 3,000本 年産ランプホヤ、化粧瓶 100,000打	旭硝子經營 營業良好邦資本 邦資本合資
永信料器工廠	天津日租界伏見街	一九〇九	30,000元	日産ランプ	營業良好邦資本
復義公司	天津日租界住吉街	一九三三	50,000元	日産サイダー瓶	邦資本合資
旭昌料器工廠	天津西車站邵公莊	一九三三	60,000元	年産ランプ、ランプホヤ	合資
長發順料器工廠	天津南市東興市場内	一九四〇	250,000元	年産ランプホヤ、化粧瓶	獨資
義和料器工廠	天津西車站西軍橋	一九三七	30,000元	年産電球及各種硝子器	18,000個
克明料器工廠	天津北營門外	一九三六	30,000元	同 電球ホヤ、硝子瓶	19,000打 合資
中華魁料器公司	天津河北路河馬路	一九三一	80,000元	同 ランプホヤ硝子器	71,000個
北方料器工廠	天津河北路頭村	一九三〇	250,000元	同 各種化粧瓶	35,000打
天然料器工廠	天津南市榮業大街	一九三三	200,000元	同 各種瓶、ランプホヤ	130,000個 合資
光明料器工廠	北京南下窪龍泉村	一九三三	400,000元	職工100名	株式

亞東玻璃工廠 青島萬壽路 一九二八 八〇〇元
新業玻璃工廠 同 一九三二 五〇〇元
中華魁料器工廠 濟南商埠緯北路 一九二九 六〇〇元
德 義 恒 山東省博山 一九二六 二六〇元
仁 和 成 同 一九二九 二八〇元
同 心 成 同 一九二八 三〇〇元
德 義 恒 同 一九三二 三八〇元

耀華機器玻璃製造股份有限公司 一九二二年三月資本金二百五十萬元を以つて白耳義、支那合辦(持株各々一、五〇〇株、額面百元)の下に組織されたもので生産能力は全支の需要を充すに足り年々多大の利益を収めてゐるが、近年大連昌光硝子會社(旭硝子會社系)の壓迫により營業不振に陥り一九三六年十月遂に白耳義側資本の全部を我が旭硝子が肩替りし其の經營を昌光硝子に委任するや重役の改選、主任技師を邦人に變更内部の大改革を斷行した結果早くも同年末には三十六萬餘元の利益を

工場名	所在地	設立年月	資本金	能力或は生産量	其他
亞東玻璃工廠	青島萬壽路	一九二八	八〇〇元	年産ランプホヤ 350,000個 硝子瓶 1,000個	合資
新業玻璃工廠	同	一九三二	五〇〇元	年産ランプホヤ 30,000打 硝子瓶 5,000個	合資
中華魁料器工廠	濟南商埠緯北路	一九二九	六〇〇元	年産ランプホヤ 240,000個 其他 1,000元	合資
德 義 恒	山東省博山	一九二六	二六〇元	年産ランプホヤ 15,000個 硝子瓶 9,000個 花瓶 8,000個	合資
仁 和 成	同	一九二九	二八〇元	年産板硝子 7,000箱 其他 2,000元	合資
同 心 成	同	一九二八	三〇〇元	年産板硝子 5,000箱 其他 1,000元	合資
德 義 恒	同	一九三二	三八〇元	年産板硝子 1,000箱	合資

金屬工業

製鐵工業

近代規模の製鐵工業は北支においては極めて貧弱であつて從來これを代行し來つたものに土法製鐵があり山西省において盛んに行れて來たがその豊富な資源に比す

上げるに至つたが事變後幾分事業に變化を來し本年九月一時的に操業を中止するに至つた。

るときはこれに對應すべく恰も九牛の一毛に過ぎず現存
マニファクチュアとして注目されるだけである。(註資重
産業鐵部門土法製鐵の項参照)。たと土法製鐵以外に多少
とも近代的製備を見られるものに龍煙鐵礦公司石景山製
鐵所、西北實業公司煉鋼廠、保晉公司陽泉鐵廠の三者が
挙げられる。昭和十二年冬以來の世界的鐵不足はいよいよ

製鐵工場

工場名	所在地	設立年月
龍煙鐵礦公司石景山製鐵所	北京郊外京門支線石	一九二八
西北實業公司煉鋼廠	山西省太原城北古城村	建設中
保晉鐵廠	山西省陽泉	一九二七

石景山製鐵所 北京の西方に在り龍煙鐵礦公司が世界
大戰當時計畫し民國八年(大正八年)建設に着手し同十年
竣工直前に大戰後の反動による經濟恐慌の荒波に溺され
鐵價暴落と資金難とのため工事を中止して火入を行はず
爾來十餘年間野晒しの儘放置された。今事變を惹起した
宋哲元が會て冀察政務委員會主席であつた當時わが國と
の合辦企業を契約したが實行に際しては言を左右にして
應じなかつたもので事變後龍煙鐵礦が蒙疆聯合委員會の

よわが國新業界の眼を北支へ向はせたもので事變後北支
の明顯化に伴ひ現地製鐵業も漸次軌道に乗らんとしつゝ
あるがこれが全き操業までにはなほ相當の年子が豫定さ
れてゐる。なほ前記三工場の外邦資小工場に天津鐵廠
中日公司製鐵工場が天津にあり後者は附近の屑鐵を集め
て操業してゐる。

資本額 能力成は生産量 備考

工場名	資本額	年産豫定	備考
龍煙鐵礦公司	五二〇〇〇元	日産豫定 鋼鐵二〇噸	大倉鐵業經營
西北實業公司	七〇〇〇〇元	日産能力 鋼鐵一五噸	事變後十一月(昨年) 操業再開大倉鐵業經營
保晉鐵廠	七〇〇〇〇元	日産能力 鋼鐵二〇噸	操業再開大倉鐵業經營

管理下に興中公司が經營を委託さるゝに及び復活を決定
され本年四月二十四日復興起工式を行ひ日本製鐵から派
遣された田畑技師が建設主任となりその技術指導の下に
鑄鐵機械工事は福岡の白水組、土木工事は清水組の手
で着工し約二百萬圓の巨費で十一月中旬完工火入式舉行
の豫定である。本製鐵所の完成後龍煙鐵礦は産出鐵石の
約半分は現地で鉄鐵に生産するもので差當り一日百七八
十噸を處理することになつてゐる。引込線の完成、コーク

ス用炭の貯蔵、二百五十噸爐一基の建設等右結果は見る
べきものありその使用コークスを供給せしむるために興
中が石家莊に建設せしめた日産四十噸の井陘炭礦の工場
もすでに八月下旬竣工し供給を開始した。位地として右
景山を選定された理由は附近の門頭溝に石炭と石灰とが
産出されコークス用として好適な井陘炭を比較的安價に
入手しうるのと北京に近くして副産物利用に便利のため
である。將來鐵鋼日産八百噸、年産八萬噸—九萬噸が豫
定されてゐる。たゞ一貫作業でないために生産コストが
高くなることは當分情勢止むを得ないことであらう。

西北實業公司煉鋼廠 太原北門外にあり、閻錫山が二
千萬元の巨費を投じて建設中未完成の儘で事變に遭遇し
たもので事變後大倉鐵業に委任經營となり目下復舊中で
あり施設は百二十噸爐一基、四十噸爐一基、鋼鐵三十噸
マルチン爐二基、十二噸マルチン爐六基、計日産二百四
十噸、該炭三十六基、日産二百四十噸を目標とするの小
規模ながら鐵鋼一貫作業が可能で大倉の手によつて四十
噸爐一基は七月完成し、百二十噸爐は十二月完成の見込
であるが五臺山地方の治安確保を待ち四十噸爐は十月末
火入を行ひ原爐は五臺山より、石炭は附近より供給を受

けるが鉄鐵のストックあり副産物工場は未だ完成しな
い。全部完成の時は保晉に比し約八倍の能力を持つわけ
である豫定である。

保晉公司煉鋼廠 保晉礦務公司の姉妹會社として民國
七年(一九一八)資本金七十萬元を以て創立され西北實業
公司製鐵廠が設立されるまでは山西省有数の製鐵廠であ
つた。設備は鑄鐵爐二基(二十噸一基、四噸一基)熱風
爐三基、十五噸製熱爐五基修鐵爐一、機械修理工場一、
鑄物工場一、打鐵工場一、汽機五、發電機五、煉瓦窯一、
陶器窯一、等にして鉄鐵、鋼鐵のほか機械類、磁器、耐
火煉瓦、電氣材料等の製造に従事し毎年十萬元程度の利
益をあげてゐた。製産高は年額鉄鐵約五千噸、(日産能力
二十噸)鋼鐵約五百噸(日産能力十五噸)、原爐は褐鐵礦
及び磁鐵礦、含有量は四〇—五〇%にして品質良好であ
る。さきの恐慌を切り抜けたのは小規模なことゝ別に
耐火煉瓦製造および機械修理工場を附帯經營し來つたの
に因るものである。事變後興中統轄の下に大倉で委任經
營となつてゐる。十月末火入式を舉行、さらに三十噸爐
一基増設の計畫あり原爐は各地より、石炭は井陘より供
給を受くるが同鐵廠は開發會社の子會社たる製鐵會社

出現後と雖もこれに包含されぬことになつてゐる。

天津鑄鐵廠 昨年度天津六里臺中日學院前に鑄鐵工場を開始したが天津事變のために熔鑄爐を破壊され多大の損害を蒙つたがその後工場設備を復舊し層層利用の儲物を目的とし既に操業を開始してゐる。

北支製鐵第一期計畫 前記三製鐵所が全操業を開始しても年産約十五萬噸に過ぎず、一方北支の鋼年消費量十六萬噸、鉄七萬噸、合計二十三萬噸と見積られ逐年増加の傾向にあるので現地當局では現地建設資材の自給自足確立のために本年五月左の如き製鐵増産計畫を樹立した

一、日滿鐵鋼増産計畫と併行して昭和十六年までを第一期とす。
一、探礦は龍煙鐵礦を主とし第一期末には年産二百萬噸とする。
一、右のうち約七十萬噸は原礦のまま内地へ輸出する。
一、殘餘約百三十萬噸の原礦は現地精煉とするこのため天津乃至唐山附近に年産約五十萬噸の製鐵所を新設する。

一、前記三製鐵所ならびに新製鐵所の生産能力合計は鉄年産約六十五萬噸となりそのうち約三十七萬噸は内地

ト製造用休眼ロータリーキルンによる製鐵計畫（洋灰轉爐製鐵）—即ちパッセー法製鐵計畫は商工省の德源によつてセメント業者を始め製鐵業、水鐵金屬精鍊業者間において眞剣に研究されるに至つたが右提唱者の計畫する山東製鐵株式會社は九月下旬の企畫院第三委員會において設立に關する一切の細目を決定し政府の絶對支持のもとにわが國最初のパッセー法による製鐵會社が誕生することになつた。同社は十月中には探礦、製鐵設備建設工事に着手する豫定で資本金五百萬圓（二分の一拂込、大部分滿洲工廠出資）の中國法人となし本社を北京に工場を山東省張店に設置し

イ、鐵礦石その他製鐵原料（石炭を除く）の探掘並にその販賣
ロ、鉄鐵並に副生セメント製造販賣を行ふことになつてをり將來北支那開發會社および華北製鐵會社（假稱）の統合調制を受ける筈であるが事業計畫は左の如くである。

- 一、製造設備 キルン二基、能力十一萬二千噸
- 二、生産數量 鉄鐵十萬噸、セメント十萬噸
- 三、工事完成期 着手十三年十月、完成十四年六月

地に輸出、二十八萬噸は現地における消費に充當する。

北支製鐵會社案 北支製鐵會社設立計畫は北支開發會社の創立が遅延してゐるので商工、省企畫院及び現地當局では一先づ石景山製鐵所を中心として日鐵、日本鋼管、鶴見製鐵及び住友金屬工業等内地數社を主要出資者として資本金一千萬圓を以て近く實現をみる豫定となつてゐたところ最近に至り愈よ北支開發會社も急速創立の運びとなり同社設立と共に之れが子會社として北支全鐵鋼部門を統制すべき北支製鐵も急速具體化が豫想されるに至つたので今般前記石景山中心の新會社設立計畫は一先づ中止することとなつた。仍て石景山製鐵所は今後創立される開發會社の子會社として北支全鐵鋼部門を統制すべき新會社へ包括されることとなり年内には開發會社、興中公司、日鐵、日本鋼管、鶴見製鐵、小倉製鐵、住友金屬工業等を主要株主として創立するものと見られるに至つた。なほ新會社の製鐵所は天津、宣化、唐山等が候補地に擧げられてゐるが現在のところ港灣、用炭および内地との關係上唐山案が有力視されてゐる。

山東製鐵株式會社案 本年四月根本滿洲工廠事務の提唱によつて製鐵界にセンセーションを捲き起したセメン

- 四、事業開始 十四年七月
- 五、原料 鐵礦石—金嶺鎮十七萬噸（自營）、石灰石—十七萬噸（自營）、石炭—博山、淄川、章邱十七萬噸（購入）
- 六、動力 回轉爐から發生する排氣瓦斯を利用して約八千キロの電力を起し工場および探礦場に利用する。

機械器具工業

北支の機械器具工場は非常に多い。統計に依れば天津一三〇工場以上、青島四〇工場北京一〇餘工場となりその他各地の重要都市には農具製造や機械修理の出來る小工場は非常なものである。併し乍ら極く小數の鐵路附屬工場および外商工場を除けば何れも小資本且つ設備不完全で僅かに機械修理部分品取附等を爲し得るに過ぎない。簡單なる内燃機、織布機、繰綿機、靴下機、臺秤、桿秤、金庫、切麵機等を製し得るは上乘の工場である。ゆゑにあらゆる精密機械はこれを海外に仰ぎ輸入年額數千萬圓の多きに達し國內工業發展の障害をなしてゐる。

注目に値するのは山西省に於ける新業の勃興で同省では舊省政府の産業統制機關たる西北實業公司統轄の下に省内の自給自足を目標として一九二三年以來鋭意建設に努めて来た。即ち鍊鋼機器廠、機械廠、機車廠、農具器具廠、鐵工廠、水壓機廠、汽車(自動車)修理廠等を始めあらゆる部門に亘る機械工具類の製出を目指すものです。一部分は成功の域に達してゐる。近年は僅に省内需要の少部分を充てゐたに過ぎぬが鐵礦資源に恵まれたる地域なるを以つて經營宜しきを得れば多分に發展の將來性を有するものと思はれる。事變後これらは興中公司の委任經營下に置かれてゐる。近年紡績工業の發達は紡績、織布機の需要を急激に増加せしめ遂に我豊田鐵機製造株式會社をして青島進出を決定せしめ豊田鐵機を建設せしめた。なほ今次の事變以來邦人職工に依る機械器具製造修理工場の内容完備せるものが要望されるに至つてゐる。

機械器具工場

工場名	所在地	設立年月	資本金
東方鐵機廠	天津英租界倫敦街		500000元
義利鋼桶電氣製	同 伊租界河沿南	一九二七	300000元
造廠	西馬路		

戰時態勢に在る今日特殊諸機械製作の秘密洩洩防止と敏速との要求から當然であるがさらに事變解決後に於ても今後の北支は此方面に益々邦人の優秀なる技術を必要とされよう。今事變以來工場街の回復に従ひ一般工作機械の需要激増したにかゝらず内地業界側の諸材料難甚だしくまたこれが輸送難と相俟つて現地側の紡績機械、計量器、鑄山機械、農具などの需要に頓挫を來たしたことは相當のものであるがよる機運に助成されて邦資鐵工業者、機械器具製作業者は漸く現地工場進出に力を注ぐに至つた。最近發表された北支交通器材會社設立案の如きはその最尤なるものゝ一つであるがその他大連の進和商會、滿洲ロールなどの天津進出も相當注目されてゐる。なほ古河、住友、藤倉および富士通信機(古河系)日本電氣、沖電機、東京電氣等の共同による資本金二千萬圓程度の通信機製造會社案も最近擡頭しつつある。

設備其他

設備其他	備考
ミリングマシン三臺、旋盤六臺、ボール盤三臺、旋盤三臺、旋盤三臺、穿孔機二臺	年營業高 300000元英資本
モーター七臺、ミリングマシン二臺、反射爐二臺、ステキ盤二臺、モーター二臺	

英美機器廠	同 佛租界二號路	一九二四	500000元
三井鐵工廠	天津特別三區	一九二七	300000元
明權製粉鐵工廠	同 特別三區大王	一九三三	150000元
三合成燈廠	同 河北三條石	一九二二	200000元
恒大鐵工廠	同 河北大街	一九二九	100000元
德利興機器廠	同 河北三條石	一九二四	100000元
北洋造鐘工廠	同 特色三區革安	一九三三	500000元
日本軍需品商會	同 佛租界二號路	一九二七	300000元
自動車部			
昇昌忠記行鐵工廠	北京燈市口		150000元
永增機器製造工場	北京南十窪	一九二九	250000元
崔記鐵工廠	北京		250000元
海京機械工廠	北京		150000元
梅澤商會鐵工所	青島遼寧路	一九二七	100000元

旋盤三臺、シカル盤一臺、ボール盤二臺、モーター一臺、爐一基
 旋盤三臺、穿孔機二臺
 工作機械一四臺、發電氣(八〇〇HP)一基
 各種工作機械一式、カンテラ製造年額五〇〇、〇〇〇元
 旋盤五臺、萬力一八個、ボール盤八臺、モーター(五HP)一臺、壓力機一臺、爐一基、金鋼砂電氣砥石一臺
 工作機械一式
 時計製造
 自動車修理及部分品販賣
 諸機械、暖房水道用具製作及工事請負並自動車修理
 ガス發動機(四〇HP)一基、ガス發生機一臺、重油機(二〇HP)二基、發電機(一五KW)一臺、旋盤三〇臺、其他機械六八臺
 デイゼルエンジン其他機械製作及修理
 諸物製造其他機械製作年營業高約五〇〇、〇〇〇元
 諸機械製作及修理
 年營業高一五〇、〇〇〇元

英米資本
 邦資本個人
 製秤を製す事變後製造を行はず修理のみ
 職工四〇名
 一般機械製作其他
 旋盤印刷機を製造す
 商標北洋明星
 邦資本
 舊佛支資本、興中公司に買収、現在華北汽車公司の自動車修理工場
 ポンプ、發動機ボイラー其他機械製作及修理、日本デイズル工業との合辦

膠東鐵工廠	青島冠縣路	一九三、七	三〇〇〇〇圓	紡績機械其他一般機械製作並修理	邦資本
田中鐵工廠	濟寧路	一九三、二	二〇〇〇〇圓	人力車、自轉車其他車輛製作及修理	同
日輪公司	遼寧路	一九三、一	同	紡績機械其他一般機械、製作並修理	同
甲山鐵工廠	遼寧路	一九三、一	同	ボイラー製作及修理、煖房裝置	同
原田鐵工廠	遼寧路	一九三、一	同	油房機械其他一般機械製作及修理	同
市河鐵工廠	冠縣路	一九三、〇	同	一般機械製作及修理	同
昭木鐵工廠	博興路	一九三、〇	同	紡績機械製作及修理	同
和記汽車公司	冠縣路	一九三、〇	同	ボイラー機械製作及修理	同
合順成鐵工廠	中山路	一九三、〇	同	自動車修理	英資本
德順爐鐵工廠	遼寧路	一九三、〇	同	旋盤二臺、モーター(三HP)一臺	同
利生鐵工廠	遼寧路	一九三、〇	同	旋盤九臺、モーター(一〇HP)一臺	同
復記鐵工廠	遼寧路	一九三、〇	同	旋盤一五臺、モーター(計二一H P)一臺	同
東益鐵工廠	遼寧路	一九三、〇	同	P)四臺、其他機械八臺、爐二基	同
金城鐵工廠	遼寧路	一九三、〇	同	旋盤六臺、其他機械二〇臺、モーター(計八〇HP)一臺	同
同泰自行車工廠	遼寧路	一九三、〇	同	旋盤一〇臺、其他機械二〇臺、モーター(計二二HP)二臺、爐二基	同
中國時辰鐘表公司	遼寧路	一九三、〇	同	旋盤二臺、其他機械五臺、モーター一臺、爐一基	同
陸大鐵工廠	遼寧路	一九三、〇	同	旋盤五臺、其他機械二一臺、冶爐二基、モーター六臺、ボイラー一基、(計八〇HP)	同
德順興鐵工廠	遼寧路	一九三、〇	同	時計製作	同

永康鐵工廠	同 大街	一九三、三	二〇〇〇〇元	時計年產 四〇〇〇〇個	
永利鐵工廠	同 利通街	一九三、一	一〇〇〇〇元	時計年產 五、五〇〇個	
永業鐵工廠	同 芝罘法院街	一九三、二	二五、〇〇〇元	時計年產 八〇〇個	
華豐鐵工廠	同 山東省濰縣	一九三、一	二〇〇〇〇元	旋盤九臺、ボイラー九臺、發電機、(二四KW)一基	ワイゼルエンヂン 織布機、ポンプ製作
晉魯鐵工廠	同	一九三、一	三〇〇〇〇元	諸機械製作	
同盛鐵工廠	同	一九三、一	三〇〇〇〇元	年營業高 三〇〇〇〇元	
天豐鐵工廠	同	一九三、一	三〇〇〇〇元	年營業高 三〇〇〇〇元	
西北實業公司鐵工廠	同 山西省太原北門外	一九三、九	二四七、〇〇〇元	年產 刀二、一二六個、年產 鑄三、一四五 舊省管、軍管理	
西北實業公司青村鍊鋼機器廠	同 山西省太原北門外	一九三、九	二四七、〇〇〇元	年產 麵粉機(日產二、〇〇〇石)二式、織布機(日產五、〇〇〇疋)一式、三HP、P、ワイゼルエンヂン三〇〇臺、八HP、P、ワイゼルエンヂン一〇〇臺、織呢機一〇〇臺、平織機八〇〇臺、織呢機一〇〇臺、壓煉瓦機七〇〇臺、(總額約二、〇〇〇、〇〇〇元)	舊省管、軍管理
西北實業公司機械廠	同 太原小東門外	一九三、〇		年產 瓦斯燈一二〇臺、各種車臺一〇〇臺、各種磨上車臺六〇臺、各種制車臺五臺、製本機二〇〇臺、(總額約一、三〇〇、〇〇〇元)	舊省管、軍管理
西北實業公司機車廠	同 山西省太原北門外	一九三、八		年產 蒸汽機車三六臺、各種橋梁九二六架、水車九輛、貨車改造一六輛、安全裝置機車三輛、發電機三九部、修改造七輛、貨車製造六三輛、鐵斗二〇四輛、鑄造蒸汽機車二式	舊省管、軍管理

西北實業公司農具廠 山西省太原北門外 一九四

西北實業公司鑄造廠 同

西北實業公司水壓機廠 同

西北實業公司汽車修理廠 同 一九三、四

中島機器行 天津日租界旭街 一九三、六 一〇〇〇〇元

天津機械工廠 同 福島街 一九八 七〇〇〇元

年産 圓釘八、〇〇〇箱、ボタン穴製造機、一五〇〇組、製圖機七〇〇對、天秤五、〇〇〇對、物差二〇〇對、秤二〇〇架、吸上ポンプ一〇〇台、水車一〇〇台、銃一〇〇、〇〇〇元、東(總額約一〇〇、〇〇〇元)

磨粉機、吸上ポンプ、排飛機、金庫 舊省營、軍管理
コンロ其他を製造す

年産 水壓機六四〇臺、一六吋扇風機二五〇臺、H、P、電動機三〇〇臺、鉚釘六六六噸、ネチ釘三三〇噸、(總額約四一〇、〇〇〇元)

年産 自動車修理五二輛、小型機關車二臺、木炭代油爐一〇臺、一、二H、P、ディゼルエンジン一〇臺、ワシントン式ポンプ三二臺、人力曳車二輛、鼓風機四臺、手動ポンプ二個、平車四輛、井戸吸上ポンプ二臺、離水ポンプ二臺、碎石機一〇、〇〇〇元、(總額約八〇、〇〇〇元)

旋盤二臺、ボール盤二臺、諸機械製作 邦資本
煖房及水道工事設計請負 邦資本
諸機械製作、煖房及水道工事設計請 邦資本

永増機器製造工場 當工場は從來支那人の經營であつたが本年四月下旬日本ディゼル工業が北支臨時政府の許可を得て日支合辦の有限公司となした。同廠は獨英製の工作機械多數と職工平均二百人を有し機械鑄造、鍛工、鍍金等の部門があるから一貫作業が可能であるが差當り機械類の修理を加へ現在の敷地四千九十五坪、工場建坪二千坪の擴充は見送る豫定である。

北支交通器材株式會社設立案 東京の小糸製作所、天津の三昌洋行および住友本社の資本と技術的援助によつて設立することになつたもので八月七日附を以て軍當局の認可を得てゐる。その設立趣意書ならびに設立計畫概要は左の如くである。

設立趣意書

北支那には曩に北支臨時政府組織せられ漸次和平、秩序回復し來りたるがわが帝國政府においても北支那經濟開發株式會社を設立するの運びとなり、北支那の資源開發經濟擴充の實を擧げる見込み確實となれり、茲に於て諸事業活動の根幹にして且つ無驅たるべき交通事業の要素たる各種器材の製造事業が北支那に設立せらるゝことは急務中の急務にして關係各方面に期待せらるゝもの熾

烈なるものがありこれが設立の上はその經濟機能に貢獻するところ大なるは多言を要せず、極東の平和と北支那開發の國策遂行に資すること誠に大なりといふべし、供給の豊富と需要の廣汎、且つ大量とは將來の發展を十分豫期せしむべし、發起人は這般の情勢に鑑み北支那に交通器材製造工場の設立を發起し躍進北支の先驅となり、もつて國策遂行の一端に寄與するとともに北支陸昌に貢獻するところあらむとす、茲に於て發起人は別紙目論見書(省略)及び計畫書に基き會社を設立せんとす、發起人は別紙發起人經歷書(省略)記載の通り、既に日本帝國に於て交通器材製造の專業に關與し豊富なる經驗を有するものにして優良なる製品製作と事業の經營については十分確信を有するものなり。

設立計畫概要

- 一、名稱 北支交通器材株式會社
- 二、資本金 五百萬圓
- 三、目的 交通器材の製造販賣並にこれに關聯する附帶事業の經營、(イ)各種車輛及び車輛部分品、(ロ)信號器、分岐器、その他各種線路用品、(ハ)各種交通器材一般

- 四、組織 支那法人組織
- 五、本支店 本社を北京又は天津、支店、出張所を必要に應じ各地におく
- 六、役員 取締役十二名以内、監査役四名以内

なほ工場豫定地は天津塘沽で天津十一萬坪の敷地は買収済である。

株式會社通和商會天津鐵工場 大連に本社を有し同市外甘井子淑房屯の工場で洋釘、亜鉛引鐵線、大釘、ボルトナット、リベット、ロックナットワシヤ、鑛山用オーガビットその他を製造し全滿鐵道がその大釘を使用してゐる通和商會では本年五月末天津白河下流上海紡上手の元清洋行骨粉工場二棟を敷地五千坪と共に買収し工事を進め内一棟は機械据付を終り次第近く操業開始、本社工場同様のスパイキ・ボルトナット、リベット等の製作に當る筈であるが當初は大釘生産に當る豫定である。

滿洲ロール製作所天津進出 東京ロールの姉妹會社滿洲ロール製作所ではさきに資本金五百萬圓を以て天津に株式會社京津公業公司を設立し白河沿岸十五萬坪の敷地に一大ロール工場建設の計畫を進めて東京ロール、尼崎ロール、滿洲ロール各製作所の連鎖事業たらしめ北支に

左に示す通り最高數萬元を程度として製品もまた釘、針金等を主としたものであるが一昨年來豫想されてゐた天津地方土木建築界の殷盛は遂に我が中山鋼業所の天津進

工場名	所在地	設立年月
中山鋼業所	天津海區五號	一九二七、三
大平洋行電線工場	天津日租界伏見街	一九二二
和濟製釘廠	天津特別三區大馬路	一九二一、五
裕業製針工廠	天津侯家後新河	一九二五
華新洋釘工廠	青島臺東鎮	一九二一、九
月新洋釘工廠	同	一九二一、四
德泰實業工場	同 利津路	一九二二
冀魯製針工廠	同	一九二一、八
中華製針工廠	青島冠縣路	一九二六、六
華豐製針工廠	濟南南關外	一九二二
天魁製釘廠	芝罘德春巷	一九二四、一
中東製釘廠	同 北馬路	一九二七、七
天興製鐵工場	天津伊租界河沿馬路	一九二一、四
志成製鐵廠	天津北門内	一九二二

中山鋼業所 大阪の中山製鋼所が天津に進出して特別四區裕豐紡下手に一萬七千坪の敷地を購へ昨年四月第一

おける最初のロール(製鐵、伸縮、護謄、製紙、製粉、製油、織物用)製作を企てゐる。

豐和洋行工廠 事變前から計畫中の天津華街小孫莊裕豐紡下手の工場は本年四月中旬當局の許可を得て八千坪の敷地を八月中旬完成し秋頃から自轉車々體の製作、同部分品の製造その他金庫、保管庫製作を行ふことになつてゐる。

安原鐵工所 最近天津河北黃緯路に工場を設け紡織機械、工作機械、機關車の部分品製作並に自動車修繕に當り近くムメントを据付ける豫定。

西山鐵工所 東京本所の相原鐵工所と同系の大連市秋月町の西山鐵工所は天津特一區小劉莊公大第六廠傍の恒泰鐵工廠(敷地八百坪)を買収本年八月中操業を開始し電線用ヒン磚子、ボルトナット、大釘等の製作に當り將來年額百萬圓の生産をめざしてゐる。

金屬製品工業

金屬製品工業は前記機械器具工業と姉妹關係にあるものと云ふ可く全く同一なる狀況である。投資額に於ては

出を決定し、昨年四月から毎月亜鉛引平波板を六百噸宛製出せしめてゐる。居留邦人の増加は邦人用ストープの製造計畫を具體的に促進した。

資本額	生産能力或は設備	備考
三〇〇〇〇元	能力、亞鉛引平及浪板、月一、五〇〇噸、月普通六〇〇噸	邦資本
五〇〇〇元	各種電線月産能力、最高六〇〇、〇〇〇〇尺、普通三〇〇、〇〇〇〇尺	邦資本
一〇〇〇〇元	各種釘年産量約 三四、〇〇〇噸	
二五〇〇〇元	年産 鐵針八〇〇、〇〇〇打	
一〇〇〇〇元	月能力 洋釘 一、六〇〇噸	邦資本
二五〇〇〇元	月産 洋釘 六〇噸	日支合辦
八〇〇〇元	製釘機一三臺、線引機、一六臺、モーター(計三〇〇H.P.)五臺、爐二基	
五〇〇〇元	月産 鐵針四〇〇箱 (三五〇〇本入)	
三三〇〇元	月産 鐵針一〇〇箱 (三五〇〇本入)	
五〇〇〇元	月産 鐵針 四〇箱	
五〇〇〇元	年産 洋釘 四四〇、〇〇〇斤	
五〇〇〇元	年産 洋釘 二、〇〇〇箱	
一〇〇〇〇元	日産 鐵板、鐵條一七噸	
二〇〇〇元	茶罐、額料罐、鐵罐	

期工事を完成し亞鉛引平波板の製作に着手したもので月産に千五百噸の能力を有しその原料たる黒板も當工場

は内地の輸出禁止以前に豊富に在庫せしめたため餘裕ある經營をつけて來たが今後は幾分の操短を餘儀なくされてゐる模様である。第二期工事たる釘、針金等の製作工場はその建築をすでに終へ目下諸機械の据付を急いでゐるが近く運轉開始の運びに至る豫定である。なほ同社は本年中山商事株式會社を設立して從來の製品販賣の一切をこれに委ねてゐる。

自動車工業

自動車製造は北支においては未だ許されてをらず修理組立工場のみが存するわけであるが組立工場としてはトヨタ自動車の天津工場があり修理工場としては興中公司および華北汽車公司の工場が代表的のものである。その他小規模工場は漸次増加し濟南にも二三興中公司の修理工場設立を見た。

トヨタ自動車株式會社天津組立工場 事變勃發直後當時自動車製作をはじめて未だ日の浅かつたトヨタ自動車會社では他のフォード、シボレー等と共に軍用に供せられた多数自社製自動車が行動に差支へあらしめてはとの懸念のもとに部分品の補給、車體の修理の目的を以て

天津進出の端緒をなし、臺車の補充、部分品ストック場として今年一月河北支那街中日女子學院前に一萬八千坪の敷地を選定し直ちに工場建設に着手し倉庫六百坪一棟外に組立機械の二工場を合せ工費約三十四萬圓で第一期工事(倉庫)、第二期工事(組立工場)を九月中完成した。部分品の修理工場たる第三期工事は目下種々の事情から急を要せぬため後廻しとなしその竣工は明春四月頃の見込で全部完成の暁は月三百臺の組立可能なりとされてゐるが目下製品は滿鐵系諸會社、省市各公署への納入多くトラックが第一位を占め直營販賣主義を採つてゐる。

興中公司北京自動車修理工場 興中公司經營の北京の自動車修理工場は三月中旬東城燈市口一號に設立された。内燃機および乗用、貨物自動車の修理を目的とし北京第一の修理工場で電氣部、機械部、組立部、鐵工部、塗装部、縫工部、熔接部等に分れ新陣容を誇つてゐる。

日本自動車會社修理工場 日本自動車會社出張所は天津進出後自動車、自動自轉車等の販賣並材料、部分品等その他を取扱つてゐたが日本租界から華街東馬路二二號に移轉を機に五月下旬から自動車修理工場の運轉をも開始しさらに本格的に組立工場をも設立することになつた。

骨粉工業

北支に産出する獸骨を原料とする骨粉工業は邦商武齊洋行が約三十年前から開始して先鞭をつけその後清喜洋行および内外化學肥料會社が相次いで工場を設立した。かくてその肥料價値の優秀なることが確認さるゝや日本向骨粉輸出額も逐年増加して來たが清喜洋行工場は經營振はず閉業するに至つた。

新華汽車工廠のボデー工場竣工 新華汽車工場では天津南開永壽大街に千八百坪の工場敷地を買収、ボデー工場の建設を行つてゐたが六月竣工した。製造能力は月産百五十臺、從來トヨタ自動車の下請を行つてゐたものであるが今後は一般自動車のボデー製作をも行ふ。その他工場 前記工場の外天津にトラックボデー製造の華北工廠が資本金七萬圓で河北太經路一二一に開業し大前自動車工場も六月頃からバスボデー工場として操業しつゝある。

工場名	所在地	設立年月
武齊洋行	市外小劉莊	一九〇六
内外化學肥料公司	天津市外小孫莊	一九二九
高橋商會工場	關口村	一九二六
肥田骨粉廠	青島	一九二四
	青島西鎮	一九二四

製材及木製品工業

北支では材木が乏しいので輸入品を仰いでこれを製材

資本額	生産能力	其他
五〇〇〇〇元	年蒸製骨粉 六〇〇〇噸	株式、邦資、敷地七、〇八四坪
五〇〇〇〇元	同	株式、邦資、敷地七、八九〇坪
五〇〇〇〇元	同	株式、邦資、敷地七、八九〇坪
一〇〇〇〇〇元	同	個人

するに留まり伐材から製作への一貫作業を見ることは出来ず従つて大規模な工業は發達の餘地がない。近時ベニヤ板の用途が増大し殊に事變後その需要は著しくこの方面の製造業も多分の將來性を有するものと見られる。

製材及木製品工場

工場名	所在地	設立年月	資本額	生産能力	其他
大來木工燭木工廠	天津特三區	一九一八	二〇〇〇〇元	〔一時間、硬材二〇才、軟材七〇才〕	個人、米
詳大木工燭木工廠	天津特四區	一九三〇	四〇〇〇〇元		合資、英
東洋木廠天津工場	天津特四區三號路	一九二八、七	一〇〇〇〇〇元		株式、邦資
大二商會製材廠	天津特三區士經路	一九二七	一〇〇〇〇〇元	日産 二五〇石	個人、邦資
同怡和燭木工廠	天津特三區士經路	一九三三	八〇〇〇〇元		個人
和田製材所	青島華陽路	一九二四	二〇〇〇〇元		合資、邦資
東洋木廠青島工場	青島昌樂路	一九二四	三〇〇〇〇〇元		株式、邦資
濱恒製材所	青島青海路	一九二四	六〇〇〇〇元		個人、邦資
詳泰木行有限公司	青島	—	本店 四〇〇〇〇〇元		株式
河合製軸廠	青島嶗山路	一九二七	二〇〇〇〇元		個人
合興利製桿廠	青島垚口路	—	一〇〇〇〇元		個人
新生製桿廠	青島華陽路	一九三〇	二〇〇〇〇元		個人

壓搾梱包工業

北支における特産物たる棉花、羊毛、毛皮などの打包工

業の謂でこれらの輸入に當り行はれるものであるが従来主として英國資本による新業によつて獨占された。日本資本の進出による興中公司プレス工場——現在の北支棉花株式會社プレス工場に就いては資源産業棉花の項で詳述した。

壓搾梱包工場

工場名	所在地	設立年月	資本額	生産	其他
天津打包公司	英租界廣東路	一九三三	三〇〇〇〇元	〔年山羊絨、羊毛、駱駝毛棉花五〇〇〇捆〕	株式
仁記洋行打包廠	天津英租界中街	一九二四	二〇〇〇〇兩	年二、五〇〇捆	株式、英
新泰興洋行打包廠	天津英租界中街	一九三三	五〇〇〇〇兩	年二、五〇〇捆	株式、英
隆茂洋行打包廠	天津英租界大沽路	一九二四	三〇〇〇〇〇元	〔年山羊絨、羊毛、駱駝毛棉花、麻類五〇〇〇捆〕	合資、英
平和洋行打包廠	同	一九二六	一〇〇〇〇〇兩	〔年山羊毛、駱駝毛、棉花麻類六〇〇〇捆〕	株式、英
怡和洋行打包廠	同	一九三〇	一〇〇〇〇〇兩	〔年山羊絨、羊毛、棉花三〇〇〇捆〕	株式、英
高林洋行打包廠	天津英租界大沽路	—	四〇〇〇〇兩	〔年山羊絨、羊毛、棉花三〇〇〇捆〕	株式、英
德隆洋行打包廠	同	一九二七	一〇〇〇〇兩	—	株式、英
安利洋行打包廠	同	一九三〇	一〇〇〇〇兩	—	株式、英
豐記洋行棉花壓搾工場	青島	一九二八	一〇〇〇〇元	一日能力(二〇時間)八〇捆	合資、邦資

其他の工業

煙草工業

北支の煙草工業は日本の國家專賣制と異り自由工業で

あるため屋内手工業から新式設備を施せる大工業に至る迄その数は二百數十に達すると云ふ。殊に河北、山東の二省は煙草栽培も盛んであり、従つて製造工場も多種多様、異状なる發達を遂げてゐる。昨年六月より施行せる國民政府の制税は煙草工業界をも非常なる苦境に陥入れ以來概ね消極的方針の下に經營

全く英米煙草の獨占下にあつたが東亞煙草では多倫經由で進出計畫を樹て滿洲煙草と提携して蒙疆煙草市場に積極的進出計畫を樹立し張家口出張所を中心に煙草販路擴張を進めてゐる。

滿洲煙草株式會社 當社は北支進出の手初めとして本年六月天津佛租界五號路のギリシヤ人經營カラザス兄弟商會煙草工場を資本金百萬圓で買収した。カラザス工場はウァジニア産の「ローヤル」およびエヂプト葉の高級煙草で好評を博し年産能力六億本でカラザス兄弟が三十年來英米トラストを向ふに廻し經營して大をなした工場であつたが買収後は捲上機四基増設の上専ら高級煙草に力を注ぎ將來十億本に増産の筈である。またかねて計畫中であつた哈爾濱工場建設計畫をそのまま北京に移し同地に年産二十億本前後の一大工場を建設することになり資本金二百萬元をもつて東便門に一萬坪の工場を選定、設立に着手した。同工場は資本金一千萬圓四分の一拂込の華北煙草股份有限公司としての認可を受けてゐる。

華北煙草株式會社設立計畫 山東省を主要生産地とする原料葉煙草の買付方針に關しては北支に於ける煙草事業の合理的統制方針に順應すべく現地當局の斡旋下に

土木建築業

概況

過去數年來提唱されて來た日支經濟提携は愈々昨年度における青島邦資紡績工場の擴張計畫、天津邦資紡績工場の建設計畫を皮切りに北支土建界は愈々軌道に乗るものと觀られてゐたが事變勃發と共に一應頓挫した。その後治安の恢復と相俟つて漸次業況活潑となつたが本年に入つて資金難、材料難を増大し折角軌道に乗りかゝつた斯界も本年は左したる實績を擧ぐるに至らず、北支全般に互る土木建築業の本格的發展は數年後に残さるゝ課題として觀られるのが通念となつてゐる。産業五箇年計畫の進展に伴ひ土建界の王國たるを謳はれた滿洲國ですら最近右資金難、材料難に打撃を受けつゝある際、事變勃發後僅々一年を経過した北支の土建界がこの悩みに達着したことはむしろ當然のことであらうが將來における發展性では、北支土建界はその廣大な地域と臨海線地域への事業的連繫によりむしろ滿洲國のそれに優るとも劣るものではない發展性を控へてゐる。従つて事變後一

東亞、滿洲兩煙草會社始め既存の邦人業煙草買付業者間に折衝中であつたが取り敢へず原料葉煙草の獨占的取扱機關として前記兩煙草會社および關係邦人業者七社の共同出資による資本金三千萬圓の新會社を創設することに決定、名稱は華北葉煙草株式會社とし青島に本店、北京と東京に出張所を設ける豫定である。なほ英米トラストは右新會社とは別個に市場から原料葉煙の自由買付を行ふことになつてゐる。

偽造煙草 事變後も偽造煙草は依然旺んに行はれてゐるが山東區統稅局で事變後檢出して燒却した偽造煙草は左の通りであつた。

膠濟牌捲煙草	五千本
時裝牌	三千二百五十本
別野古磨伯	七千七百五十本
哈德門	二千本
前門冒牌	十萬四千八百八十本
別野牌	五萬五千本
同	一萬本
前門牌	五千七百本
無牌	五萬本

年目の十三年度斯界はまづ將來の本格的飛躍發展への小手調べ、基礎がためであつたことが言へよう。

建設總署の治水、道路、都市計畫内容

北支臨時政府の建設總署技監として今春來活躍中の前内務省下關土木出張所長三浦七郎工學博士は十月十一日夜「北支における土木事業」と題して臨時政府が現在實施中の土木建設政策の實情を對日放送した。放送の内容は建設總署の機構からはじめて現在日本、朝鮮、滿洲から約六十餘名の技術官が日系官吏として中國人の間に伍して指導してゐることを述べ、今春來政府が實際に行つた事業として

- (一) 韓復榘が昨夏來、濟南を中心として約四〇〇キロにわたつて黄河の大堤防に防空壕、梅花型散兵壕を掘り繞らしたことに基因したいはゆる黄河堤防決潰の危機の修理作業(豫算七〇萬圓)
- (二) 昨秋の大洪水のため天津附近約四十萬町歩の湛水箇所を浚深と防水対策(總工費百六十萬圓)
- (三) 徐州會戰後における蔣政權の鄭州、開封間におけ

る黄河本堤の破壊箇所を治水事業（黄河水災工作委員
會の新設）

(四) 北支五省の道路政策

(五) 北京、天津、濟南、石家莊、太原、徐州など主要
都市の都市計畫

などについて詳細なる説明を行ひ、政府の政策の基調
を闡明した。臨時政府としては三浦博士の説明で明らか
にせられてゐる通り、本年の土木治水の建設政策は豫算
關係および現下の實情に鑑みて緊急工事促進方針をもつ
て臨み北支の基本的な建設事業はこれを中心とて今後年
度に繰り延べる方針をとり相當の實績をあげた。目下建
設總署長官殷同氏を中心として來年度の本格的な建設政
策の具體案を練りつゝある。目下のところなほ確然たる
決定を見てゐないが大體の基調を

(一) 治水、利水事業

(二) 道路網完成

(三) 主要都市計畫

といふ三大事業に最も重點を置かんとしてゐるが、今
後の建設政策の計畫内容は左の通りである。

道路計畫

計畫として既に本年度から實施した。

(ロ) 北京、天津、塘湖間道路一六〇キロの五箇年計
畫、この道路は北支交通網の幹線として政府は國道
四箇年計畫以外に重點を注ぎ、總工費二千萬圓とし
て高速運行に適する近代道路を建設せんとしてゐる
が、十四年度より着手の豫定である。

(三) 建設方針 道路幅員は最小七メートルとして幹線道
路は將來北支の繁榮に適應する近代道路として十分の
幅員をとらせることとしてゐるが、更に道路の築造法
についてもなるべく現地材料を利用して北支に適した
工法を採用する方針である。北支各地方の交通形態は
馬車、洋車、小車などの緩速車輛が大部分を占めてゐ
るが、新設道路は悉く高速専用を目標として建設、馬
車道は舊道を利用するか或ひは高速車道に並行して
建設する方針と計畫を樹てゐる。

都市計畫

北支の各市街は鐵道、道路、水路、飛行場などの交通
施設、上下水道、公園、運動場などの保健施設に關して
多くの制限を有してゐるので北京、天津、濟南、石家莊

(一) 現状 舊北支五省の昭和十一年度における道路状態

は

(イ) 自動車を通れる道路延長約二四、〇〇〇キロ

(ロ) 自動車營業を許可してゐる道路延長約一四、〇
〇〇キロ

(ハ) 自動車總數五千臺

(ニ) 道路密度は一平方キロにつき一二メートル乃至
四八メートル

といふ状態である。道路密度は山東省を筆頭として河
北省がこれに次いでゐるが、最高密度の山東省をもつ
てしても日本における最低密度の北海道とほぼ同程度
といふ貧弱振りである。しかもまた各省がなほ封建的
色彩を濃厚にしてゐる結果、各省間の聯絡道路は頗る
不完全でその低調救ふべからざるものがある。

(二) 新計畫 (イ) 新國道建設四箇年計畫(工事費總九
千餘萬圓) 臨時政府は茲に於て國道、省道の大擴張計
畫を樹立、國道九千九百キロ、省道六千七百キロ、合
計一萬六千キロの建設計畫を樹立した、その中、省道
は省公署建設事業として各省政府の建設政策に委ねて
ゐる、臨時政府の直轄事業として建設する國道九千九
百キロは政府としては工事費總額九千餘萬圓、四箇年

太原、徐州の六大都市は悉く近代的な都市計畫を樹て改
裝せんとしてゐるが、北京は將來人口約三百萬人の人口
を收容する大計畫をたて、また北京を中心として各重要
地にいたる放射幹線道路、幹線街路の新設修築、新市街
地、排水路の建設などの計畫をたててゐる。

優秀技術者派遣 内務省ではかねて中國臨時政府より
の依頼により北支方面の土木建設工作に指導援助をなす
技術家、事務官を派遣するに決し四十六名の人選につき
銓衡中であつたが五月七日下關土木出張所長三浦七郎氏
以下十九名の人選が決定した、その主なるもの左の如し。

建設總署

建設總署技監(内務技師下關土木出張所長)三浦七郎

公路局

參事 江守保平(滿洲國) 工務科長 小澤久太郎(土
木試驗所技師) 調査科技正 佐藤寛政(土木試驗所技
師)

水利局

參事 本莊秀一(滿洲國) 河川科長 立神弘洋(東京
土木出張所技師) 河川科技正 秋草勳(東京土木出張
所技師) 港灣科技正 山田正平(下關土木出張所技師)

都 市 局

参事心得 山崎桂一(滿洲國) 技術科長 鹽原三郎(東京都市計畫地方委員會技師) 都市局技正 竹内修(京都市計畫地方委員會技師)

濟南水利工務局

参事 平尾勝(内務省土木局技師) 工務科長 小山猛三(大阪府技師) 濟南出張所技正 柳井三郎(石川縣技師)

北京公路工務局

参事 田寺元治(山梨縣技師) 工務科長 佐野俊男(東京府技師) 工務科技正 猪瀬寧雄(千葉縣技師)

濟南公路工務局

工務科技正 笠原昌春(愛知縣技師) 濟南出張所技正 望月一輔(下關土木出張所技師)

鹽北水利工務局

工務科技正 澁谷和夫(青森縣技師) 天津出張所技正 畑中次雄(名古屋土木出張所技師)

土木建築界一年

青島の支那軍暴動

昨年十二月十八日夜青島の邦人紡績工場は十四箇所に見つて支那軍の焦土戦術によつて放火され全滅の難に遭つた。之に要する復興土木建築は青島今日の斯界發展を導く端緒となつた。一時は青島紡績工場の濟南移轉説または再建一時中止説も行はれた。もしそのいづれかゞ決行されていたら北支土建界の今日はよほど情勢を異にしてゐた筈である。

都 市 計 畫

北支當局では北京、天津、塘沽の三線を以て北支における工業の中心地帯となし、さらに濟南、青島の線は會ての日本の投投と權のうへに築かれた第二次的工業地帯であるとの見地からすでに北京、濟南には都市計畫を授けこれが施行に向ひつゝあるが、青島には特に新たな都市計畫を行はず、さらに太原、石家莊、徐州は各地域の中心都市としての重要性を持ち工業都市への移行を辿りつゝあるのでこの三都市にもまた近く都市計畫を施行することになつてゐる。

北京都市計畫

北京、天津いづれも目下その具體案を練りつゝあるが

まづ北京の方は天津に先行して進捗を見せその新計畫版案は大要左の如くである。

一 専用住宅地域

(イ) 地域の範圍

東直門大街、鼓樓、東大街、地安門、黃城、根南爽西、東長安街、崇文門大街、東西南大街、朝陽門大街、東城の各道路に圍まれた内路線中商業地域を除いた地域、西直門大街、南小街、阜成門大街、馬市大街、黃城、根龍頭井石虎、胡同に圍まれた内路線中商業地域を除いた地域、紅菜、市西單北大街、豐盛胡同、舊政部街及び城隍廟、眞無城を結ぶ線に圍まれた内路線中商業地域を除いた地域 (ロ) 取締規則 この地域は市民の住宅地域としていやくも住居の靜寧を害する虞れある建築物設備は一切禁止される、従つて一般住宅、共同住宅、寄宿舎、下宿屋、旅館、小店舗、診療所、養育院、その他救護施設、廟、神社、寺院、佛堂、教會所、演藝用建築物、噴泉、記念門または記念塔のみが許可されることとなる。もつとも住宅地域は専用地域と異つてこの制限は遙かに緩和される。いづれにしても一切の工場建築物は衛生的見地から嚴禁される、但し規模の小なる食料品、被服類の加工または修理を専業とする建築物は許

可される。しかし規模の大なる商店、營業自動車倉庫(四臺以上を所有するもの)劇場、映畫館、演藝場、貨座敷、料理店、浴場、倉庫、火葬場、汚物処理場もこの地域に建築することを禁止される。

一 商業地域

鼓樓、東大街、交通東大街、東直門大街、安定門大街兩側、橫西大街及び甘水橋の一部北側、東四北大街の兩側および東、西、南大街、崇文門大街の西側および崇文門一部の東側、猪市大街、王府大街、王府井大街の兩側、東安門大街の一部の南側および燈市口の南側、朝陽門大街および東長安街の一部の北側および西觀音寺胡同、東觀音寺胡同の南、柳樹井大街、東珠市南側、正陽門大街、天橋、南天街の一部の東側、橋驛馬市の南側および宣武門大街、廣安門大街の兩側、西直門大街、新街口大街、新街口南大街、西四下大街、紅河、市西單下大街、廣安門大街、報子街、羊市街、城門大街の北側三箇所、西長安街の一部および西交民巷一部の兩側。

一 商業地域

(集團商業) 朝陽門大街、崇文門大街、西觀音寺胡同に圍まれた地域、正陽門大街、東城市、柳樹市街、北羊子口大街に圍まれた地域、正陽門大街、西

河沿東口醜染胡同、粉房琉璃街、先農壇に圍まれた地域、阜城の門大街、豐盛胡同、武定侯胡同、紅市西單北大街に圍まれた區域、新街口北大街、蔣養房、羊房胡同、什刹海濱水灘に圍まれた地域。

(イ)商業地域において禁止される建築物は原動機馬力中(職工五人または牛馬一頭は一馬力と看做す)の合計十五を超過する工場、一軒の建築面積千平方メートル(建築面積十分の五を超過するものおよび多量のガス粉塵を發散の恐れある工場、倉庫、近隣に迷惑を與へしめるような音響を發する工場、屠殺場、家畜市場または死畜處理場、火葬場または産汚物處理場などである)。

一 混合地域 (イ)規則 住宅、商業各建築物の混合を許されたる地域でこの地域では専門住宅地域における嚴重なる建築物の制限は緩和されてゐる。さらに原動機馬力中五十(但し職工五人または牛馬一頭は各一馬力として加算)を越える工場、可燃性または引火性強き物品を處理する工場などすべて工業地域においてのみ、建築し得る建築物は一切許可されない。

(ロ) 地域の範圍 廣渠門大街、瓷器門大街、龍鬚溝

および城壁に圍まれた地域。

一 工場地域 目下指定箇所調査中。

一 風景地區および公域 東直門、朝陽門、廣渠門、左安門、永定門、右安門、廣安門、阜城門、井直門、德勝門、安正門、宣武門、崇文門の各城門およびその附近法源寺、白五塔寺、帝王廟、國子監、雍和宮の廟寺およびその附近、北京地方高等法院、河北法院、觀衆臺、覺修胡同などの附近、南海、中海、北海、故宮博物院を中心として黃城根により圍まれた地域、荷葉およびその周圍什刹海濱水灘とその北側の地區天壇および先農壇。

(イ) 取締規則 風景を害するが如き地形などの變更樹木の伐採土石の移轉その他現場を變更せんとする建築、改築、増築には必ず北京特別市長の許可を受けしることを要し、また一般の方針としてこの地域内の建築物は専用住宅地域内に許容せられたものに限つて許可される特に内城の風致地域には支那個々の風致、歴史的建造物の保存のためこれを破壊するやうな施設は一切許さぬこととなつてゐる。

一 美觀地域 地安門外大街、東、西、南大街、崇文門

大街及び王府井大街の兩側、東安門大街の一部の兩側、東長安街の一部の北側、天安門より正陽門に至る門の兩側、正陽門大街および天橋南大街の一部の兩側、東單牌より樓崇文門に至る門の東側、府前街の南側、南長安街の兩側、起瓦市西單、西安門大街および宣武門の一部の兩側。

(イ) 取締規則 この地域は都市美維持のため特に設置されたもので日本でも内濠を中心とした一帯の地域は特に美觀地域に指定されてゐるが、北京でもこの方針を採用して都市美觀を維持することとなつたが、この地域内では市長が美觀を破壊すると認める建築物の除去、改修を命ずるほか一般取締として區域内の建築物の軒高の最低限度を定めるほか、その建築物の美觀設計に關しても制限を附することとなる。

一 普通住宅地域 城内における殘餘の地域。

一 一般的建築物の設計制限 建設敷地に對する建築物の建築面積を制限し、その割合は専用住宅地域は三割以内、住宅地域は四割以内、商業地域は七割以内、混合および工業地域は六割以内を基準とする。右計畫復案は現狀に急激な變化をおよぼすやうな根本

的對策を避け現狀に即して近代的建設の觀點から歴史的古都の近代都市化を實現せしむる方針を採り一面北京のもつてゐる最大の缺點である商店、住宅、工場の雜然と混淆してゐるところを合理化し併せて都市美衛生施設に關しこの古都をして近代化せしめんとするものである。

天津都市計畫

天津都市計畫は目下極秘裡に進捗しつゝあるがその大要は左の通りである。

一 日界碼頭擴大 二、三千噸級の船舶が自由に入出するやうに碼頭を擴大する。現在一千噸級の船は往々溯航して來るが河幅がないのと水深小なるためそのまゝではターンできず下流まで後退したうへ方向を換へねばならぬ不便があるので河底の浚渫と兩岸切落しによる河幅の擴大を必要とし、本問題に關しては對岸の伊太利租界との折衝も大體解決する模様である。日租界碼頭區域は橋立街から佛租界境界に至る沿岸で岸壁に沿うてその邊一帯に大倉庫を新築する計畫である。右に關し七月中に軍特務の發表した建造物禁止區域は次の通りである。

二 自河岸建築物禁止區域(軍特務部發表) 海河沿岸橋

遺物築造禁止に關する件。
海河沿岸に於ける利用線の統一を圖り同時に將來の海河改修事業遂行に支障少なからしむる爲、首題の件左記の通り制定せり。

記

- 一、海河現在海岸より兩岸陸上百米突の線以内の範圍に於ける建築物の築造を禁止す
 - 二、禁止区域内の在來建築物は其の儘とし、修理手入に關しては其都度指示す
 - 三、假設構造は之を許可することを得、但し海河改修工事に支障ある場合は無償撤去すべし
 - 四、現在河岸の線は軍特務部及特務機關と協義の上決定す
 - 五、軍用又は特別の理由ありと認むるときは此の限りに非ず 以上
- 獨、天津より黑漭河迄は沿岸百米以内、黑漭河より下流は五百米以内禁止區域とされてゐる。

三 現在の日本租界メイン・スツリートは旭街であるが將來福島街を中心として現在の道路を海光寺からはるか舊南開大學附近まで延長し碼頭から一直線の中心街路

ないが本年九月時局對策委員會總會に提出された計畫案の概要は左の如くである。
住宅地區は南海岸方面から浮山にかけての地域を、商業地區は埠頭および鐵道沿線附近に集中すべく滄口富士から老虎山脈に至る線を北の境界に、老虎山脈、李村市街、浮山を結ぶ線を東の境界に總面積三千四百五十五萬坪現在青島市の人口によれば市民一人當り約三十五坪となり市の區分は住宅地は南海岸から浮山、李村附近を包含する地域一帯で支那唯一の海水浴場を有し本多博士設計になる日本中の樹木を全部植付けた青島第一公園などを含む。商業區は埠頭、鐵道沿線方面附近で現在の商業中心地であり會社銀行のほとんど全部が集中されてゐる。工業區は事變前から紡績工場地帯であつた四方および滄口方面を主體に附近一帯を大工業地帯となすべく、築港區は第一埠頭計畫として李村河口の沙嶺庄海岸線から大港防波堤に沿ふ大埋立工事をなし大港内の現存岸壁に大補強工事をなして南北兩側の岸壁を強固ならしめ南側岸壁には一萬噸級船舶の横づけを可能としその上岸壁の新造、貨物専用道路の設定等を應急策とし第二計畫によつて埋立地海岸に大築港をなすべく各地區の内譯は左の

とする計畫で海光寺から南開大學に至る一帯は支那家屋が点在するに過ぎぬ廣大な原つばなので新市街建設には最適である。

四 前記の福島街中心策と關聯して東站を日界對岸に接近せしめ新たに橋を架設し萬國橋を渡るの必要をなくし驛を通じての繁榮を日本租界に吸収せんとするものである。

五 白河新橋 次項環狀線道路の白河沿ひ突端と對岸の特別四區(舊ベルギー租界)とを結ぶ白河新橋は建設總署の手によつて架設されることになりすでに十月六日から奈良技師の指揮の下に測量を開始し遠からず着工の見込であるが新橋は佛租界の萬國橋と同じく船舶の航行を便ならしむるためハネ上げ開閉式の鐵橋となし工事豫算は全部で三百萬元見當でこれが完成後は萬國橋を經由せずして日本租界から特三、四兩區方面に自由に往來し得るものである。

六 環狀線道路 英佛租界を通らずこれらを圍繞して日本租界と特別一區碼頭とを結ぶ待望の幹線道路ですでに十月初旬工事に着手した。

青島都市計畫案 青島都市計畫案は未だ具體化を見

如くである。(單位坪)

行政地區	一四四、四六〇
住宅地區	一四、四一六、四六〇
商業地區	一、二八八、〇六〇
工業地區	四二〇、二二〇
築港地區	三、六五一、一八〇
園林地區	一〇、五〇六、五八〇
計	三四、六四八、四六〇

濟南都市計畫 濟南は將來北支、中支の中間重要地として人口二百萬目標の大發展を約束されてをり豫て都市計畫案を急いでみたが山東省公署で四月中旬まづ左の如く一般土地家屋賣買の禁止を布告した。

一、都邑發展計畫に必要な土地は次の如し。濟南、歷城、長清、北京。

二、收用價格は命令布告當日の時價を標準とす。

三、轉買買は收用に際して障礙を發生する虞れあり、特定區域城内の土地家屋は漸次賣買を禁止す。
なほ右に關する土地收用ならびに賣買禁止は北京臨時政府と打合せのうへ發令された。而してその都市計畫首體案は七月末北京當局において決定したので濟南公路工

程局では建設總署と合作し濟南市および近郊一帯の測量を開始したが將來の大濟南を東西南北に貫く二大幹線道路が豫定されてゐる。すなはち同局の計畫によればその一線は北京から濟南、徐州を経て南京に至るいはゆる支那大陸縦貫幹線で他の線は青島を基點とし濟南を經由山西方面に直走して大陸奥地に入る幹線である。即ち建設總署濟南公路工程局では過般來實施中の公路網測量および設計を最近完了、十月中工事に着手するためその布告を發したが新設公路は商埠地を東西南北に貫く即ち濟南城の南門外千佛山下より一直線に西に走る二大幹線で東西大幹線の中約四折は幅員八〇米、コンクリート舗裝、舗道、緩行車馬路、急行車道を設ける外線地帯を設け日本の大和ざくらを移植する意向である。また商埠緯二路を南北大幹線となし幅員五〇米の大道路となし七大馬路以の南の工事を第一期とし江北の比較的繁華の巷は第二期工事に延期されることになつた。なほ現在の二大馬路通りを緯二路以西に四キロ延長し幅員五〇米として飛行場に至る大公路も第一期工事として近日中着工されることになつた。工事着手は諸種の關係上まづ人口密度薄き經七路より南方に向つて開始される模様である。

なほ今次事變中最も邦人財産の被害の大きかつたといはれる濟南市の被害状況は同總領事館警察の調査によれば次の通りであり無被害家屋は四二七戸中わづか七戸といふ慘憺たる状況であつた。

	全燒	半燒	掠奪	一部掠奪	無被害	合計
官公署	二	一	一	一	一	三
工場	一	一	一	一	一	三
倉庫	三	一	一	一	一	六
銀行會社	一	一	一	一	一	三
神社寺院	一	一	一	一	一	三
住宅	三	五	二〇	三	一	三三
病院	一	一	一	一	一	三
計	八	八	三〇	三	七	三七八

(註) 他に密閉のため調査不能家屋が四九戸あつた。合計四二七戸。
 黃河鐵橋工事 七月一日開通式を行つた黃河大鐵橋はその工事のスピードイナ點で確かに世界に誇りうるものであつた。同鐵橋は一九二二年十月九日獨逸會社の手で三年の日子を費し中央部ゲルヴァスパン橋梁がクロスしたもので中央部橋梁の長さは四百二十米、かゝる大鐵橋はわが國になく今回の設計は鐵道省鐵道研究所、第四科鐵橋掛三十名總掛りで同科長沼田技師、稻葉技師中心に一月十日から設計に取りかゝり新設計は元の鐵橋と全く

同じもので橋脚は上部だけ修築し河水の流れてゐるいはゆる中央部ゲルヴァスパン橋梁(橋梁を組むのに足場を作らぬもの)の設計をなしたのである。現地工事は滿鐵の經營で軍監督の下に以前鴨綠江、松花江の架橋工事を請負つたことのある間組が横河橋梁製作所の機材とタイアツプして工事に當り、工事延人員十數萬、僅々半歳餘の短日月で再架橋に成功し六月二十一日その完成を見たものである。その最中央部のカンチレバー式架設法を施したのは約百米におよびこれがため設計における計算上の苦心は非常なものであつた。因みに右設計はわが國では最初のものである。

北支土木建築協會成立 事變後の北支における土木建築者の進出著しきに伴ひこれが統制機關として土木建築協會設立の必要が叫ばれてゐたが在滿代表業者神谷組、福昌公司大倉組、大林組等二十三業者がそれぞれ各一萬圓を出資し(一)松材の共同購入 (二)入札時の競争防止 (三)業者間の諸事務などを目的とする北支土木建築協會を設立することになり創立委員長に菅原恒寛(鐵道工業取締役會長)副委員長に神谷仙次郎、清水揚之助各氏が推され奉天において創立準備を急いでゐたが七月十七日北京

において創立總會を開き正式に成立した。これが主體となるものは進出組で當初同協會の指導精神として聯合請負が計議されたが現地の實情および意向はこれを許すに時期尚早のありさまで結局その歓迎すべき革新案は採用されなかつたといへ斯界の肅正に投じた波紋は渺くない。

北支土木建築協會定款建議書
 國家の興隆文化の發達は土木建築事業に俟つ處大なるは各國の歴史に顯著たるのみならず近くは滿洲國の現狀に徴するも瞭なり。近時國力の一大進展により日鮮滿を通じて國防の充實産業開發の大計畫を樹立せられ之に伴ふ土木建築事業各地に勃興し業界頗る多事多難の折柄尙ほ北支及中支に於ても治安の恢復と共に各種土木建築事業着々遂行せられ土木建の前途正に非常時を招來せんとす。此秋に當り吾人業者有志相圖り關係當局の御助力を仰ぎ北支の首都北京に確固たる土木建築協會を創立し會員の指導統制を克くし實力信用の強化に努め北支開發の第一線に以業奉公の誠を盡さんと欲す。

第一章 總則
 第一條 本協會は北支土木建築協會と稱す。

第二條 本協會は協會員の融和提携を圖り以業奉公の誠を以て北支の建設並産業開發に資するを以て目的とす

- 第三條 本協會は前條の目的を達する爲め左の業務を行ふ
 - 一、北支土木建築事業の遂行に協力
 - 二、協會員の肅正及協力強化
 - 三、工用材料及勞力の需給調節並價格貨銀の査定
 - 四、官公署其他起業家に對する諮問事項の應答並建議

第四條 本協會は本部を北京に置き必要に應じ地方に支部を設置す

第二章 會 員

第五條 協會員の資格は多年土木建築工事の經驗を有し資力信用確實なる者とす

第六條 本協會に加入せんとする者は協會員二名以上の保證を以て申込を爲すべし、前項の申込ありたるときは理事會に於て審議す

第七條 本會を退會せんとするものは書面を以て申出で理事會の承認を得るものとす

同、張家口の六箇所から本格的社宅の建造に取りかゝることになつた。天津では河北天津北站的天津鐵路局合附近に約百五十戸の社宅を明春早々着工する豫定になつてゐる右計畫は豫算はともかく建築資材の入手難が難關とされてゐる。

全河北省橋梁増設工事 河北省公署が全河北省に及ぶ橋梁、暗渠等の増設に建設總署と聯繫して計畫しつゝある工事は新設分木橋十五、渡船碼頭四、暗渠二十に達し總工費六十二萬七千餘圓で近く着手する豫定である。

天津土建界 天津は青島紡績工場の壊滅に比べて工場損害は尠くわづかに七月二十八日公大第七廠が二十九軍に襲撃を受け工場建物に五發、社宅に二發の砲彈が落下した外建築の被害はなかつた。一方わが軍の飛行機によつて敵の策廠根據地と目される、總站前の北寧鐵路局、市政府等が爆撃された。天津を中心とする土建界は事變後の八月から十二月までの邦人士建業者の請負工事總額は五百萬圓に達し本年八月末までの請負總額は一千萬圓を下らないといはれ本年度工事量は二千萬圓前後と見られてゐる。今年度天津建築界は年初相當活況を豫想されなが最近における情勢は工事請負額の旺盛なるにも拘は

第八條 協會員は左の事由により會員の資格を喪失す

- 一、死
- 一、破産

第九條 協會員にして左の各號の一に該當するときは總會の決定を以て之を除名するものとす。

- 一、本協會の定款規約又は決議を遵守せざるとき
- 一、本協會の名譽又は信用を毀損する行爲ありたるとき

青島復興資金 一千萬圓を計上さるゝ青島の損害復興資金借受申込受付は七月一日から同月末までとなつてゐたが締切期日までに受理された数は五百七十五通で總數三千戸餘りの被害者の五分の一に足らぬ少數であつたので青島總領事館では受付期日を八月五日から十日まで延期し十日以後は絶対に受け付けぬことにした。

滿鐵社宅新築 北支各鐵道沿線に約一萬二千名の從事員を派遣し皇軍の活躍に協力してゐる滿鐵北支事務局ではこれら前線社員の慰安と福社策に頭をなやましてゐるがこれら社員が最も苦痛を感じてゐる住宅の不足緩和に乗り出すべく八月下旬大體十三年度分として豫算約七百萬圓を計上ししあたり北京、天津、濟南、石家莊、大

らず爲替管理強化に基く資金入手難、運賃の昂騰による諸建築資材の奔騰などのために苦境にあり二百五十萬圓と觀測されその打開策に努めてゐるが、天津土建協會が中心となつてこれが具體的對策を樹立すべく諸材料價格統制に關する全面的な資料の蒐集調査を行ふに至つた。

天津に於て十二年春以來開始され引續き施工中乃至最近完成の主なる土建工事、請負業者、工費概算を表示する。

- 天津電氣公司 發電所工事及舍宅新築、其他
- 請負 福昌公司
- 工費 約銀百五十萬圓
- 天津 紡 擴張工事、其他
- 請負 萬井組、及北中公司
- 工費 約銀五十萬圓
- 双喜 紡 (福島紡) 新築工事
- 請負 福昌公司
- 工費 約銀百萬圓
- 公大六、七廠 擴張工事其他
- 請負 大倉土木
- 工費 約銀百五十萬圓
- 上海 紡 新築工事

- 請負 福昌公司其他、華人
- 工費 約銀百五十萬圓
- 東洋製紙 新築工事
- 請負 飛鳥組
- 工費 約五拾萬圓(第一期のみ第二期を除く)
- 維新化學 新築工事
- 請負 三谷工程所
- 工費 約銀拾萬圓
- 裕 豐 紡 第二期工事
- 請負 福昌公司
- 工費 約銀百萬圓
- 北支棉花 棉花倉庫
- 請負 大同組
- 工費 約銀貳拾萬圓
- 天津 鑛 建物増改築並官舎新築
- 請負 清水組
- 工費 約二十五萬圓
- 東京建物 常盤街アパート新築
- 請負 天徳號
- 工費 約十七萬圓
- 福助足袋 第一期工事新築
- 請負 益木工務所

岸和田紡新築工事、大倉農場軍宿舍工事、特別第三區軍宿舍工事、東橋局兵營工事、滿蒙毛織新築工事、三池染料新築工事

であるが右は大部分未だ着工の運びに至らず、その他目下計畫されてゐる主なる工場乃至建物としては民間の綜合ビル新築、工費五十萬圓を豫定する、共立病院新築、第三小學校新設、京津工業(天津ロール)各工場、等が計上されてゐる。しかし右の多くは爲替管理の強化による資金難、建築材料難等の諸事情によりいづれも明年度或はその以後に持越されるものと見られ本年度天津土建界は一先づ右を以て幕を閉ぢることになつてゐる。なほ最近鐘紡サービステイションは建築工事を開始した。

青島土建界 支那暴兵のために灰燼に歸した各紡績工場をはじめ日本足袋、青島糸麻、電氣、麥酒、燐寸その他工場商店街、住宅街を問はず復興青島土建界は多忙である。被害概算は紡績一億三千萬圓、一般工業一千百六十萬圓、電氣一百五十萬圓、鑛業一千三百三十萬圓、船舶三十七萬圓、合計一億五千四百七十七萬圓であるがこれが復興の魁として青島土建界は當然土建業者の進出を促し事變前同業組合員は十九人であつたのが大林組、清水組、大倉組、清水組、竹中工務店などの一流業者が進出しさらに橋本組、間組、高田組の進出に加へて地場に

- 工費 約七萬圓
 - 大日本セルロイド リンター工場新築
 - 請負 大林組
 - 工費 約六十萬圓
 - 東京建物 旭街ビル(天寶ビル)新築
 - 請負 安藤組
 - 工費 約十四萬圓
 - 東京建物 芙蓉新館増改築
 - 請負 直 營
 - 工費 約十五萬圓
 - 共 益 會 第一小學校増築
 - 請負 福昌公司
 - 工費 約
 - 共 益 會 新住宅新築
 - 請負 北岡組
 - 工費 四十萬圓
 - 總領事館代用官舎新築
 - 請負 貞森公司
 - 施主 北島與多朗
- なほ昨年度決定或は決定せんといはれながら事變のため延期されたものは
- 関倉敷紡新築工事、吳羽紡新築工事、大日本紡新築工事

おいても岡見保太郎、佐藤善四郎、安藤萬吉、圓福三司、孤山製紙等が新たに新界に乘出しさらに創新、復興新、公和興等の支那同業者も内容を擴充し事變前に比べその數は二倍近く増加した。從來青島の土建界は工事年額二百萬圓乃至四百萬圓の間を上下し昨年は九紡績工場の積極的擴張工事により八百萬圓のレコードを作つた。本年度のこれら復興工事總額は紡績關係一千三百萬圓、一般工事約一千五百萬圓程度と見られこれを昨年の八百萬圓、一昨年約の三百萬圓に比較すればめざましい建設振りである。一時廢墟と化した四方、滄口の紡績工場も急激な復興建設によつて既に七、八十%の進捗を示し工事に従事してゐる支那人も約一萬人に及んでゐる。諸工場の建設中殊にわが在支紡績工業二十年來の辛苦の結晶である青島紡績の復活に伴ふ土木建築工事は青島新界の立役者とも稱すべく、青島紡績の全壊後二月十九日に在華紡績同業會が作成した第一次復興計畫中には「復興資金として政府に對し五千萬圓の低資融通を仰ぐ」なる一項目が含まれてゐる。その第一期復興完成は明年前上期末、或は下期はじめになる模様である。その他半年に亘つて空家となつてゐた家屋はたとへ破壊を免れたにしても大なり小なりの修理を必理とし、他方邦人の進出と共に貸家難を招來し、これに應ずるに支那家屋を以てすれば多くの外

装修理を要するうへに、山東の治安恢復の確保とよみに内地南鮮方面からの工場進出には注目すべきものがある。豊田式織機の如きは四月中旬から開業し、東亞煙草が年産三十億本に上る製造工場を建設することになつてをり、三島製糸系のライスペーパー工場計畫、三井、三菱の支那側麵粉工場買収、その他トヨタ自動車組立工場進出、織詰工場、油房工場、ゴム工場、構寸工場等の新設または買収計畫がある。紡績九工場中近代建築の粋を誇る鐵柱鐵筋を使用してゐなかつたのが幸ひしてまづ日清紡績は六月十日工場の上棟式を行ひ豊田紡、大日本紡、内外綿、上海紡その他工場がこれに續いたが復興途上の青島土建界にもたらされた外務省の通牒は斯界に一大衝動を與へた。すなはち國家總動員の戦時體制に則り在外日本人關係の土木建築工事は戦争遂行に直接必要でないものは一切中止すべしとの通牒である。右によつて將來は木材、鐵材、セメント、ガラス、ペイントなどの一切の土建材料は内地に求め得なくなり民間の明年度計畫にある第三小學校建築をはじめ北支唯一の不凍港青島の將來をめざして企畫着手されてゐる各種建築は殆んど暫口的に中止のやむなきに至るべく發展途上の青島に一大暗響を投げるものとされてゐる。しかし外支商方面には米材、鋼鐵材など多少のストックもあるのでこゝしばらくの對

策はたつものと業者方面では樂觀してゐる向もある。

在青島紡績工場建築の構造内容とその産地の大要

(坪當り金額、木骨煉瓦造)

工事名	坪當り金額	摘 要
足代其他假設費	二五〇〇	材料は内地品使用
土工々々費	〇五〇	現地品使用
コンクリート工事費	四二〇	(僅少の鐵筋を含む)現地品使用
煉瓦工事費	一〇〇〇	現地品使用
屋根瓦工事費	三〇〇	内地品使用
各種防水工事費	三〇〇	内地品使用
諸金物費	一五〇〇	鋳工事は内地品其他は現地品
木材工事費	四二〇〇	一部内地品(長物は米材)
建具工事費	二二〇〇	内地品使用
左官工事費	二八〇	内地品使用
塗師工事費	三三〇	内地品使用
床工事費	三三〇	(機械臺ダクト等を含む)内地品使用
手間及雜工事費	三六〇〇	
排水工事費	三〇〇	
計	三六、〇〇〇	

(註一) 本表の單價は事變前のもので最近は物の有無が問題で値段等は調へ難い。
 (註二) 鐵骨煉瓦造の場合は本表木材費中一圓八〇錢を以て他は鐵骨費に轉換することとなる。
 (註三) この總額は大體坪當り〇・一〇噸乃至〇・一五噸を要する見當である。
 (註) 池村建築事務所による。

北支國、省道幹線工事 臨時政府建設公署では産業開發ならびに國防充實の見地から全國道路網擴充計畫に本づき縣下關係各機關に指令、銳意これが修築、建造をはかつてゐるが、北支國省道重要路線の九月中旬における工事進行狀況は左の如くで、各方面とも劃期的進展を示してゐる。

- 一、北京—塘沽、天津—軍糧城間の路線補修工事はすでに完成。
- 二、北京—塘沽、軍糧城—塘沽間道路補修工事同上。
- 三、北京—天津、楊村—河西務間道路の補修工事はこのほど土砂その他の材料を運搬工事を續行中。
- 四、北京—通州線のうち北京市界内約八五キロの道路擴張工事は、すでに擴張の第一工程をこのほど竣工し目下右道路のコンクリート鋪装につき全力を傾注。
- 五、北京、古北口線中北京、懷柔間の鋪装工事はこのほど全く完了してゐる。
- 六、大沽—大同線の高碑店涿源間の道路鋪装工事は目下進行中であるが、そのうち高碑店—西陵間の道路修築は全部完了してゐる。
- 七、北京、保定、太原線のうち石家莊、井陘間の工事は

目下進行中。

- 八、北京、保定、太原線のうち石家莊、頭泉間の鋪装工事はすでに工事完了。
 - 九、北京、保定、太原線のうち北京、長辛店間は工事中。
 - 十、北京、保定、太原線中長辛店—涿線間道路改修工事はすでに着工した。
 - 十一、北京—濟南線中北京—南苑間新道路は土砂基礎工事が全く完成してゐる。
 - 十二、北京—濟南線中固安線永定河の橋梁工事は目下續行中。
 - 十三、北京環狀線中豐臺—南苑間の鋪装工事は進行中。
 - 十四、北京環狀線西郊飛行場—大井村間の延長鋪装工事は目下順調に進捗、豫定までに竣工の豫定。
 - 十六、北京、張家口線沙河鎮—小湯山間沙河鎮第三橋梁工事はすでに完了。
- 京津公路鋪装工事 京津公路アスファルト鋪装工事は工費三百萬圓で大林組、清水組の手により九月上旬着工の豫定であつたが治安その他の理由でいまだ着工に至らず本年中の着工は見込薄となつた。

天津施工所の事業成果 建設總署北京公路局天津
 施工所は〇〇部隊特務部第一課の事業繼承以來六月一日
 始業三月二十日から天津—塘沽間國道補修工事に着手し
 八月十月を以つて竣工したが本國道全延長五三新七七〇
 米、内施工延長四三新一一二米で橋梁は二八箇所暗渠四
 箇所、路面幅員七米、中央幅員三米の碎石舗装を施工し、
 箇に塘沽市街地には中央幅員三米煉瓦兩端碎石の舗装を
 施工した。本工事費は二十九萬五千圓で人夫延員數約廿
 五萬人に達し施工方法は特名請負とし共成公司以天津軍
 糧城、華北興業公司以軍糧城塘沽間を契約施行させ、匪賊
 の襲撃、運河不便の苦難と戦ひつゝ完了したもので例年
 解氷期や兩期には路面泥海と化し數箇月は交通不能状態
 となり本區間はわづかに鐵道河川によるほかなかつた。
 兩都市間の交通運轉はこゝに初めて路面運送に新生面を
 開拓し自動車交通によるときは僅々一時間で相連絡しう
 ることになり軍事的産業的にみて裨益するところ多大な
 るものがある。

なほ現在施工中の國道のうち
 天 津—柳 村 間 二六新四
 柳 村—河西務間 三一新
 は大林組、復興工業で特名請負をしてゐるが工事費は天

楊柳青地先縮切並排水工事	四一	五二	二四〇〇〇	楠谷組
楊村西方地區排水工事	四八	五八	二五〇〇〇	飛鳥組
天津西站附近子牙河堤防補修並排水	四八	五八	二七、三〇〇	華北興業
趙家莊地先南運河堤防補修並排水	四八	五八	七、七〇〇	華北興業
天津東方地區排水工事	四二	四三〇〇	二七、〇〇〇	共成公司
南運河右岸堤防補修工事	四七	四二六	三三、〇〇〇	杉本工務局
北倉放水路浚深工事	四二	五二〇	六、二七〇	共成公司
下辛口地先南運河左岸堤防修築工事	五〇	六六	一〇、〇〇〇	楠谷組
楊柳青地先子牙河右岸堤防修築工事	五二	六八	六、〇〇〇	同
朱家碼頭地先子牙河右岸堤防修築工事	五二	六〇	四、七〇〇	飛鳥組
上王座附近南運河左岸修築工事	五二	六〇	二、八五〇	同
王家院地先南運河左岸修築工事	五二	六〇	三、五〇〇	同
鄭家樓地先永定河修築工事	六三	六二六	一、六〇〇	同
獨流鎮上流一軒南運河右岸縮切工事	六五	六二五	三、一〇〇	同

津柳村間三十二萬圓柳村河西務間三十三萬圓、道路幅員は九米で十月末竣工の豫定であつたが、砂利不足のため現在三分の一の完了を見てをり今年末までには是非とも竣工の見込である。右は長度五、八九〇・〇〇公尺平均寬度一五、〇〇公尺、面積八八、三五〇・〇〇平方公尺の大連碼頭南大門間の大街路線は共成公司、華北興業公司以九月六日から着工した。以上のほか本年中に於いて着工の大工事は二、三ある豫定である。

天津水利局の事業成果 建設總署天津水利局
 程局では本年四月華北水利委員會海河工程局の事業を繼承以來異常な困難を克服して緩急に應じ土木業を指名或は入札して現在九月八日までの事業成果は次表の如く總工事數四〇件總金額一五五萬圓である。なほ本年度の計畫たる永定河南北兩運河堤防計畫は九、十月書面計畫十一、十二月測量、冬期實地調査を實施し來年度早々大規模の土木を施行する豫定である。

治水對策應急工事一覽

獨流鎮第三保間縮切並排水工事	四五	五六	三、〇〇〇	大林組
----------------	----	----	-------	-----

呂官屯地先南運河右岸縮切工事	六七	六七	二、九〇〇	飛鳥組
當城中心子牙河左岸堤防修築工事	六二	七八	一、四〇〇〇	楠谷組
夏官屯地先南運河右岸堤防補修工事	六七	六三〇	二、七〇〇	飛鳥組
北倉放水路浚深工事	五二	六二五	一、九〇〇	共成公司
天津南方地區排水工事	四八	六二五	三、七〇〇	德盛
第三堡地先子牙河堤防修築工事	五二	—	一、三〇〇	飛鳥組
子牙河筋楊柳青地先樋管新設工事	六二	七三〇	一〇、五〇〇	楠谷組
子牙河黃家房子地先同	六二	七三〇	九、五〇〇	同
小王莊地先減河左岸堤防修築工事	四二	六二〇	一、三〇〇	貞森公司
安棧鎮地先南運河右岸堤防修築工事	六二	七二五	六、〇〇〇	飛鳥組
上王座附近堤防補修工事	六二	七二	四、五〇〇	同
場河放淤區域修築及堤防補修工事	七二	六三二	二、七〇〇	德盛
馬廠減河培修堤防排水工程	七七	六三二	九、〇〇〇	華北興業
淀南放淤區分界堤補修工事	七七	七七	三、〇〇〇	德盛

唐官屯上流左岸修補	六二五	七四	四〇〇〇	貞森公
梁官屯上流右岸修補	六二〇	六二九	一〇六〇〇	同
分界堤及管兒港滅河	七二	七二	三三〇〇	大林組
西堤工事	七六	八二〇	毛〇〇〇	貞森公
南運河筋陳官屯築堤	七六	八二〇	毛〇〇〇	貞森公
新引河西岸堤補修工	七六	八二	五五九	大林組
鄭家樓地先中泓南堤	七四	九二	二〇〇〇〇	飛鳥組
岸運河下莊王家右	七三	八三	二六三四	同
獨流鎮切堤補強工	八六	八九	一三五〇	共成公
永定河中泓南堤修補	八五	八四	二二六	永立工

天津土建協會之員 (九月一日現在)

赤山工程所	秋本工務所
朝日組	五十嵐建築事務所
池田組出張所	一那組
岩谷工務所	上野工程所
榮順洋行	大倉土木天津詰所
大林組出張所	奥口工務所

華北興業公司	金野工務所
蒲池組	義合祥
北岡工程所	北中工程局
北中公司	清川組
共成公司	協立土木公司
合同工業所	古賀組
神谷組出張所	貞森公司
里見工務所	三和組
三和洋行	濫木工務所
清水組出張所	新星社出張所
杉本工程局	鈴木組出張所
錢高組出張所	大同組出張所
高畑工程所	竹中工務店出張所
萬井組出張所	天祥公司
東北工程所	友津商行
橋崎工務店	間組出張所
平原組	日野工務所
福井高梨組出張所	廣島藤田組出張所

松井商行	滿洲飛鳥組出張所
三谷工務所	山越工務所
隆興洋行	其他
安藤組出張所	伊賀原組
五十嵐組工務部	華勝公司
株木組出張所	越浦組
田島組	中外工務所
天來洋行	中島工務所
西松組出張所	平瀨工務所
和田工務所	河村工務所出張所
岡野建築事務所	伍賀電氣商會
河村商會出張所	第一工業公司出張所
國際電業公司	三機工業
京津工業公司	青島土木建築業組合員 (七月末現在)
勝本商會	江川組
	○大崎工業出張所
	○大倉土木出張所
	大塚組

○大 華勝公司	○印は事務後の新組員
○兼 武林組	北支土木建築業協會之員 (六月末現在)
木船組	木野組
木村洋行	木村組
○近藤組出張所	○孤山客廠
瑞申洋行	○清本組出張所
○大 同 住吉組	高瀨建築部
○竹中工務店出張所	筑紫工務所
土肥組	○東亞土木公司
萩野組	○福昌公司支店
藤原組	○豐詳號
松田組	○山口組
吉村組	
伊賀原組	大倉組
大 岡組	岡谷組
大 橋組	錢高組
清水組	高岡組
大 同組	

竹中	戶田	西松	福井	其	阿川	池田	神部	協昌	濠木	太洋	東亞	日本	福島	藤田	三谷	山崎
工務店	組	組	組	他	組	組	司	司	所	組	木	道	司	組	組	組
萬井	滿洲	間島	福昌		青澤	小河	河北	五新	鈴木	泰章	東魯	橋本	福德	北陸	本澤	
組	組	組	司		組	組	所	司	組	行	司	組	組	組	組	

天津土建關係工人賃銀 (各月平均)

並人夫 一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月

米松	米松	內地	白地	紅地	福州	ラ	鹽地	品名	單位	五月中旬	七月中旬
角材	板材	杉材	松材	松材	松材	松材	松材	松方	松方	松方	松方
1000B M	1000B M	三尺才	三尺才	三尺才	三尺才	三尺才	三尺才	2500	2500	2500	2500
3000	3000	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	2500	2500	2500	2500

天津建築材料卸賣相場

(註) 天津特別市社會局調査による。

土工	石工	煉瓦	左官	大工	指物	木挽	鍛冶	馬車	荷馬車	乘用車	人力車	大東公司調査による。
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	天津セメント小口物相場 (月平均)
1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	
1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	

天津木材八月平均相場

米品 松丸材 單位 1000B M 圓

米材	米材	板材	福州	同州	同州	日材	日材	白材	紅材	小木
材	材	材	州	州	州	州	州	州	州	州
千インチ	千インチ	千インチ	千インチ	千インチ	千インチ	千インチ	千インチ	千インチ	千インチ	千インチ
3000	3000	3000	3000	3000	3000	3000	3000	3000	3000	3000

天津衛生陶器相場

PL-5 長角手洗器 15 1/2 5.00
PL-15 長角手洗器 13 5.00
L-139 角手洗器 11 1/2 4.20

PL-21	平付手洗器	10	2.20
PL-60	隅付手洗器	9	2.20
PL-68	隅付洗面器	18%	9.00
PL-91	長角洗面器	19	9.00
PL-93	"	25	—
PL-94	"	22	13.50
PL-97	"	"	13.50
PL-95	"	20	10.50
PL-117	総付洗面器	22	13.50
PL-166	新型洗面器	22	16.00
PC-2	和風大便器		11.00
PA-14	大便器用トラフ		2.50
PO-17	大便器下箱		3.50
PO-16	大風大便器		14.00
PO-18	"		15.00
PC-19	"		14.00
PC-51P	"		17.50
PC-51S	"		17.50
PC-9S	"		15.00
PT-5	小便器	7.00	
PU-5B	"	12	6.00
PU-9	"		4.00
U-10	"		10.00
S-17	ロータック		22.50
S-28	ハタック		13.00

天津壁材料相場 (九月下旬現在)

PU-34	タイル	32.00
L-61	洗面器	25
L-60	洗面器	27 1/2
タイル	6x6	.060
タイル	6x3	.05
タイル	6x6	.13
黄土	一俵	三圓五〇銭
黄土	同	三圓五〇銭
黄砂	一升	五十銭
孔紙	100斤	四十五圓
紙	100斤	六十圓
布	100斤	六十圓

天津建築材料卸賣物價 (弗單位) (1)

品名	單位	一九二七年一月平均	一九二七年六月平均
吉林紅松	立方呎	11.11	11.00
安東白松	立方呎	1.20	1.10
煉瓦	萬枚	100.00	105.00
藍煉瓦	萬枚	110.00	116.00

(註) 支那經濟旬報による。

労働情况

概況

この數年來わが國企業界の北支進出は非常な勢を以て増加しつつあり殊に今次日支事變以來はこの傾向に拍車を加へつゝあるがながゆゑにかゝる傾向を示してゐるかといふとこれが根本となるものは原料の豊富且つ低廉であることゝ労働力の非常に安價であることが數へられてゐる。全支労働者中とくに北支労働者は勞銀が低廉であるのみならず思想的にも中南支に比べて著しく穩健であるといはれてゐる。北支開發に當つてまづ第一に必要とされるものに苦力がある。その主な供給地は山東省で次に河北省が擧げられる。苦力は今日雜役夫の代表的名詞となつてゐて體力は強く粗食に不感症で仕事にあぶるれば碼頭や車站の構内でこぼれ豆を拾つても悠々としてゐる。一日十錢も稼げばなんとか生活はできるとされてゐる。一言にしていへば北支産業開發は滿洲のそれと同じく労働力の大宗ともいふべき苦力關係を度外視しては考へられない。

苦力

今日なながゆゑに山東、河北を中心に尨大な苦人群が氾濫し北支滿洲開發に重大な役割を果すに至つたのであるか。それは支那の複雑な社會的情勢が生んだものにはちがひないが端的にその大量發生を中心に探つて見ると清代における支那舊社會の崩壊に伴つて農村地方からシヤット・アウトされた流民が當時荒廢地であつた滿洲に向つて移住を開始したことに想倒しうるのである。民國十四年—十六年の支那革命勃發によつて支那農村は各地を破壊され種度の窮乏に陥つた農民は老幼婦女子を引具して避難の地を求めた—そのゆく先が殆んど滿洲であつて入滿苦力なる言葉もこれによつていはれるゆゑんである。民國十四年—一九二五年から三四年にかけての年平均入滿苦力數は六十七萬に達する。その後入滿數の増減は變遷を見てゐるが日支事變勃發後北支現地の事情から入滿苦力數は著しく減少し昨秋の如きは滿洲は非常な苦力飢饉に見舞はれた。北支現地の復興および開發が苦力を急需するに至つたからである。併し同地の山東苦力需は依然猛烈に繼續し本年度の如きは八月末に至るまでに約三十五萬餘の苦力が入滿してゐる。北支各地におけ

る入滿苦力查證發給數は八月中三萬一千九百九十で前年同
期に比し天津の八千四百餘をはじめ總體的に増加してゐ
る。また一月以降の累計はすでに三十五萬七千二百六十
二に達し本年中の豫定人員四十萬に肉迫してゐる。昨今
山東苦力の出廻りは河北省に比し著しく減少を示した
芝罘だけが例年になく活況を呈してゐるのは(次表参照)
昨年沿岸封鎖にもかゝらず政記公司船の大連—芝罘
間運航が行はれたためである。一方青島紡績工場の進捗
に伴ひ同地需要は十萬にもおよぶと豫想されてゐるので
入滿苦力が今後不足を來たすことは想像されうる。
大東公司 大東公司は新京に本部を置き資本金十萬圓
の合資會社で業務は主として中國苦力の入滿に關し查證
の發給その統制の業務を遂行する特殊會社で支店を天
津、青島、芝罘等に出張所は北支各地にあり昨一年間に
取扱つた入滿苦力は約三十萬人である。同社は舊協和土
木公司の竹村由登(現協立土木公司組主)と濟南事變當時
の參謀だつた三野友吉の兩人が創立したもので創立當初
五十嵐將軍を社長に迎へ甘粕正彦大尉も無限責任社員と
して經營に參畫した。入滿勞働者を統制すべしとの建前
から出來た合法機關で臺灣華僑の元締たる南口公司なら
び入滿苦力に對し許可制を採用し查證料一人一元を取立

てその經費で經營を賄つてゐる。こと苦力に關する限り
その役割は大きく事變前の北支工作を進める上に残した
功績や滿洲國の不逞鮮人を取締り日鮮勞働者を保護して
來た點で知られてゐる。さきに滿洲國內勞働に關する全
問題の監督統制を目的に設立を見た滿洲勞工協會で近く
大東公司を買収し入滿苦力に關しては直接同協會で一切
をやるといふ説も行はれてゐる。

昭和十二年度入滿苦力累計 (1)

天 塘 山 青 芝 龍 威 安 古 喜 冷	津 沽 關 島 泉 衛 東 口 口 口 口	六七、一二七
合 計	合 計	三一、七四七
十一年合計	十一年合計	一一四、四三八
(註) 十一年合計三六四、九四九	(註) 大東公司調査による。	四五、〇〇三
		三九、九四二
		三四、五五六
		七、〇五二
		三三三
		一、八七二
		二、九七四
		六五一
		三三三、六八九
		三六四、九四九

入滿苦力累計 (昭和十三年一月—八月末) (2)

出身地	本年發給數	前年度發給數	比較増減
天津	三三、八六六	六三、三三三	△ 二九、四六七
塘沽	二、四八八	九、〇五五	△ 六、五六七
山海關	九、八八四	八、八七七	△ 一、〇〇七
青島	一五、三六九	四三、〇〇三	△ 二七、六三四
芝罘	九、六三三	三、〇〇六	△ 六、六二七
龍口	三、〇	三、〇	△ 〇
威海衛	二、六六六	七、〇〇六	△ 四、三四〇
安東	一、六	一、六	△ 〇
古北口	三、〇〇六	一、五〇八	△ 一、四九八
喜峰口	一、二四五	四、六五	△ 三、四〇五
合計	三三、七三三	二七、一九七	△ 五、五三六

(註) △印は減。
(註) 大東公司調査による。

入滿苦力累計表 (昭和十三年一月—六月末) (3)

天 塘 山 青 芝 龍 威 安 古 喜 冷	津 沽 關 島 泉 衛 東 口 口 口 口	一一五、六二二
合 計	合 計	一二、一六六
		八三、〇四四
		一〇、一六三
		七三、四四九

入滿苦力職業別表 (昭和十三年一月—六月末) (4)

右は前年同期總數二十六萬八千九百三十三に比し二萬四千二百四十四の増加である。

農 業	一六、五一七
建 築 業	一一、九六七
雜 業	四、九〇六
林 業	一一五、六二二
商 業	四八
製 業	一、七五五
漁 業	一二、三六六
土 造	七九〇
運 交	七六、六二四
計	三、〇三九
合計	二九二、一一七

(註) 大東公司調査による。

天津入滿苦力職業表 (一月—六月末) (5)

農業	六、〇五〇
製糖業	六、一九四
商業	一、七五五
林業	一、七五五
木業	七六、六二四
交際業	三、〇三九
建築業	四、七〇六
運輸業	四、八七三
建築業	一一五、六二二

山東河北農民離村原因の分類 (6)

原因別	戸數	%
經濟原因	一、七三三	八六、七五
人口過剩	一、三九	六、九二
收穫不足	一、四	九、七〇
負債	一、四	七、〇〇
舊職に歸るため	一、五	七、二五
家計に迫るため	一、三	六、三五
合計	一、九	一〇〇

北支出稼労働者の現地における所有耕地 (7)

所有耕地	戸數	%
五畝以下	一、三三	一〇、六五
五畝以上	一、〇〇	八、二〇
合計	二、三三	一九、八五

苦力以外の労働

原因	戸數	%
天災	一、〇〇	八、八〇
旱災	一、〇〇	八、八〇
水災	一、〇〇	八、八〇
其他原因	一、〇〇	八、八〇
合計	四、〇〇	三三、二〇

日支工業労働時間當り所得比較 (一九三二、三年)

支那	日本
富農地	中農
三〇畝以上	三〇畝以上
二〇畝以上	二〇畝以上
一〇畝以上	一〇畝以上
五畝以上	五畝以上
三畝以上	三畝以上
一畝以上	一畝以上
一〇畝以上	一〇畝以上

工業労働 支那近代工業における労働の特質としては工業労働者の能率が低くまた極めて賃銀の低廉なことが挙げられてゐる。前者はすなはち支那工業労働の使用價值形成要素としての技術的側面から見た性質をあらはし、後者は交換價值形成要素としての經濟的側面から見た性質を示すものでいづれも支那近代工業労働の代表的特質を端的に表示するものである。

日支工業労働時間當り所得比較 (一九三二、三年)

支那	日本
機械器具	機械器具
造船、運搬用具	造船、運搬用具
化学	化学
紡績	紡績
被服、裝身品	被服、裝身品

精製煙草 〇六六六 一七〇〇 〇〇五五(〇〇五五—〇〇五五)
 製紙 〇六八八 七八〇 〇〇八〇(〇〇九〇—〇〇九〇)
 印刷 〇七九九 一〇九三 〇〇五五(〇〇五五—〇〇五五)
 粉 〇七九九 一〇九三 〇〇五五(〇〇五五—〇〇五五)
 刷 一七〇〇 八三三 〇一四〇(〇一四〇—〇一四〇)

かゝる近代工業労働者の所得を、支那社會の基礎をなす農家、及び工場労働者以外の労働階級の所得と比較す

支那工業労働者及び諸職業所得比較

職	最高所得労働者 (造船工)	最低所得労働者 (紡績工)	業	地	名	調査年度	月所得
一般労働者	(註一五)	(註一六)	無	上	海	一九二九	四六〇 一四〇五 二六二 三三三 二八三 二〇〇
同	(註一七)	(註一八)	廣	漢	口	一九二七	(約) 八三三—三三〇 八三三(賞與付) 二五〇(賄付) 五八四—二五〇 二二〇
同	(註一九)	(註二〇)	北	京	郊外	一九二七	八三三—三三〇
同	(註二一)	(註二二)	北	京	山	一九二七	二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註二三)	(註二四)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註二五)	(註二六)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註二七)	(註二八)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註二九)	(註三〇)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註三一)	(註三二)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註三三)	(註三四)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註三五)	(註三六)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註三七)	(註三八)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註三九)	(註四〇)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註四一)	(註四二)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註四三)	(註四四)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註四五)	(註四六)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註四七)	(註四八)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註四九)	(註五〇)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註五一)	(註五二)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註五三)	(註五四)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註五五)	(註五六)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註五七)	(註五八)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註五九)	(註六〇)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註六一)	(註六二)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註六三)	(註六四)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註六五)	(註六六)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註六七)	(註六八)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註六九)	(註七〇)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註七一)	(註七二)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註七三)	(註七四)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註七五)	(註七六)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註七七)	(註七八)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註七九)	(註八〇)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註八一)	(註八二)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註八三)	(註八四)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註八五)	(註八六)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註八七)	(註八八)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註八九)	(註九〇)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註九一)	(註九二)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註九三)	(註九四)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註九五)	(註九六)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註九七)	(註九八)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三
同	(註九九)	(註一〇〇)	唐	津	海	一九二〇	八三三—三三〇 二六二 二〇三 六六三 一九五〇 二六三

れば次の如くであつて、此の意味におけるその相對的地位は決して低くはない。

紡績労働の低賃銀 紡績工業は他の工業に比し特に低廉な労働力を基礎として成立してゐるがこれは大體次の四點に要約されうる。

一、支那紡績労働は長時間労働、低賃銀の兩労働條件の併立することによつてその価格は二重に低下させられてゐる。

二、支那紡績工業と安價なる労働力との關係を一層強化するものは同工業の労働力が専ら成年女工を中心として構成されてゐる事實である。

三、支那紡績工業の各作業の労働賃銀はその主要作業に對するものをも含めて一樣に低廉である。

四、支那紡績労働賃銀は膏血賃銀に近い。

北支労働運動 北支における労働運動は一九二八年前後國民黨が労働政策を強化し一般的な革命的風潮の高揚

により著しく労働者が政勢に出た當時と異り北支各新政權の樹立による國民黨、共產黨および人民戦線勢力の後退により従來のいはゆる労働運動は今後漸次的に跡を絶つものと見られるが臨時政府並びに新民會ではこれを自然的成行にのみ放置せず積極的に労働者を指導し新政權下の輝やかなしい一員として新國家建設に動員すべくその方法につき研究を進めてゐるが結局さきに天津に本部を置いて成立を見た中華海員協會の如くこれを新民主義に則らしめて新民會の指導下におき炭礦鐵道従業員を一單位とする親睦、福祉増進の機關たらしめることに指導する方針を決定した。右によつて天津における工場労働者約四萬、炭礦は開採を入れて約六萬、青島約三萬と稱せられその他鐵道従業員としては京山一萬九千、京包一萬、津浦五千、京漢五千、通信労働者に河北、山東約

四千、これらが主なるものでこの外に唐山労働者が河北、山東、山西で約七萬があるが右労働階級も徐々に新民主義下に入るものと豫想される。

新民労働協會 新民會天津都市指導部では天津特務局長、天津總領事、河北省長、天津特別市長その他各機關並びに紡績工場各代表者三十七名を役員として十月上旬新民労働協會を組織し事務所を河北大經路に置き差當り協會の主眼を紡績労働者層に置き漸次各産業部門に亘つて就職斡旋労働力供給その他一切の労働問題の根本的解決に當らんとするものである。

開灤炭礦の總罷業 三月二十三日趙各莊に端を發した開灤炭礦の罷業は四月五日遂に全礦區のゼネ・ストにまで發展しこれが參加工人は四萬人を計上し暴動化した罷業團と警備隊との衝突が頻々と傳へられた。罷業勃發後直ちに成立した防共自治政府公會(冀東密輸業者、支那浪人、鮮人等を構成分子とする職業的罷業團)は三月三十一日古冶に樹立された五礦工人代表辦事處によつて指導權をうばはれこれに對し四礦勞工維持總會が四月二日唐山に成立し後兩者の對立は特に熾烈なものがあつた。五礦工人代表辦事處は趙各莊、唐山、林西、唐家庄等全

は三元のボーナスを支給(礦務局は工人側に對し食糧補助をなす)▲工人退職の場合には礦務局の許可を要する。かくて工人側の要求は一應容れられたのであるが右妥協を不服とする罷業工人團の態度は俄然硬化し唐山工人俱樂部において労働者大會を開催四月十五日新代表の連名をもつて要求全項回答に關する最後の通告を提出するに至つた。この間好意的にこれが調停の勢に乗出してゐたわが軍當局は天津および唐山特務機關の名により二十一日各礦區に對し大要次のやうな布告を發し工人の復工を命じた工人側も右によつて相前後して復業しこゝに全部的解決を了した。

開灤炭礦罷業は爭議以來月餘におよび軍は同地帯が軍事作戦地の後方にあるので、勞資雙方の協調により速かなる解決を期待してゐたが、事態は依然として繼續される解決の時期は豫測し難し、よつて日本軍はこゝに工人に對し四月十四日締結された協定に従ひ急速にその業務に復歸するやう警告す、該協定は妥當と認められるに由り之を無視するは不當と見なす、しかして開灤當局には同條件を嚴重に施行する外なほ左の三項を實行せしむ。
一、礦務局は今回の爭議にあたり死亡せるものに對し四

礦區の工人代表が網羅され、後者は礦務總局側の御用團體と見られるもので防共自治公會の優秀分子を引抜いたがこの爭議の中心礦區趙各莊の工人代表を參加させることはできず名目上の罷業團であつた。一方爭議勃發と共に經營者たるイギリス人側からわが唐山特務機關長に申入れがあり日本軍隊の威力によつて爭議彈壓方を要望し同時に支那側唐山警防隊にも同様申入れがあつた。しかし右爭議は事變による石炭需要増大のため從來休止中の礦區を復活して労働時間を八時間から十時間に延長したのに端を發した支那人労働者側の賃銀値上要求に絡まる純労働問題と見られたので當初わが軍としてはイギリス側の要望せる日本軍の出動を拒否し單に警戒の見地から憲兵をして監視せしめつゝあつたが十四日七時間餘にわたる勞資折衝の結果先是九日工人代表提出要求三十四箇條のうち待遇改善の主要案件たる四箇條につき妥協成立しこれが草案に調印した。調印せる四箇條の内容左の如し。

工人日給十二セント増額(工人要求通り承認)▲一箇年の労働定期日數二百九十日であつたものを二百七十日に改む(工人要求は二百五十日)▲坑内工には四元坑上工は

- 百元を支拂但し死亡者の認定に不明の點あれば日本憲兵隊の認定を根據とす。
- 二、負傷者に對しては礦務局において無料治療す。
- 三、労働中死傷せるものゝ慰勞金額に關しては雙方協議の上決定す。

なほこの布告に違反し工人の復工を妨害するものあらば治安を害するものと認め嚴罪に處す。

右爭議は京津地方に滲入した國民政府の右翼、極左系分子が舊天津市政府系の急進分子と呼應してわが軍事作戦の後方擾亂を策し多少治安に不備を來したためこの機會をキャッチして爭議を誘發せしめたものと見られてゐるがその罷業による五十萬噸の減炭がもたらした石炭飢饉が現地工場に與へた打撃はすくなくはない。その禍根はいまだ今日にいたるも出炭量その他うへに及んでゐるが最近の國共合作たる北支擾亂は共匪、土匪ならびに敗殘兵の直接行動により擾亂から進んで農民層に喰入りさらにその魔手は北支隨一の開灤礦區におよび現在約一千名がその手先となつて躍るに至つた。彼らは全礦區に働きかけ再罷業を煽動したが礦夫の大部分は今春の經驗に鑑み罷業を肯んじないので作戦を變へて文字通り地

(319) — 業 工

機械工業	鑄造	鍛冶	鑄造	仕上	化學工業	硝子工業	染料工業	金屬工業	其他	煙草製造	雜役	荷車	人力車	苦力	荷馬車	電氣	女工	石炭	製革	骨粉	加工
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
〇・六〇	〇・七〇	〇・七〇	〇・七〇	〇・七〇	〇・八〇	〇・八〇	〇・八〇	〇・八〇	〇・八〇	〇・八〇	〇・八〇	〇・八〇	〇・八〇	〇・八〇	〇・八〇	〇・八〇	〇・八〇	〇・八〇	〇・八〇	〇・八〇	〇・八〇
〇・八〇	〇・九〇	〇・九〇	〇・九〇	〇・九〇	〇・九〇	〇・九〇	〇・九〇	〇・九〇	〇・九〇	〇・九〇	〇・九〇	〇・九〇	〇・九〇	〇・九〇	〇・九〇	〇・九〇	〇・九〇	〇・九〇	〇・九〇	〇・九〇	〇・九〇

ゴム製造工 一〇〇 〇・七〇 〇・八〇

塙場製造工 一〇〇 〇・七〇 〇・八〇

一般自由労働

大工 一〇〇 〇・七〇 〇・八〇

左官 一〇〇 〇・七〇 〇・八〇

石工 一〇〇 〇・七〇 〇・八〇

疊工 一〇〇 〇・七〇 〇・八〇

經理 一〇〇 〇・七〇 〇・八〇

建築師 一〇〇 〇・七〇 〇・八〇

指物師 一〇〇 〇・七〇 〇・八〇

木子 一〇〇 〇・七〇 〇・八〇

硝子職 一〇〇 〇・七〇 〇・八〇

鉾力職 一〇〇 〇・七〇 〇・八〇

洋裁職 一〇〇 〇・七〇 〇・八〇

洋服職 一〇〇 〇・七〇 〇・八〇

灰土職 一〇〇 〇・七〇 〇・八〇

靴職 一〇〇 〇・七〇 〇・八〇

煉瓦職 一〇〇 〇・七〇 〇・八〇

活版職 一〇〇 〇・七〇 〇・八〇

備考 毎朝状況は停業を繰り返るもの、短編を行つてあるもの等の關係から確實なる數字抽出は不可能である。

標準賃銀 新民運動第二階段に入つた新民會は八項目からなる政治啓蒙と民生向上の二元的運動中労働者職業

業 工—(318)

下土作に入り全礦區にサボタージニを強要し或は新手の職術として一日六十錢の賃銀を得ることのできる入礦證を不熟練の苦力達に三、四十錢で貸付けるものもあり全般的に怠業氣分溢れ一日一萬六千越の出炭能力も最近は一萬五千越への出炭減を示してゐる。

開採炭礦工人最低賃銀

坑外工人	少年工人	看燈夫及油差	馬夫及清掃	番人及掃帚	運搬	普通	把鍋爐火	大鍋爐火	各部機械修理	平均	坑内工人	雜工及清道	模範
每日(元)	〇・三八	〇・四〇	〇・四三	〇・四五	〇・四五	〇・四五	〇・五〇	〇・五二	〇・六〇	〇・七五	〇・四八	〇・四五	〇・四五
									普通 〇・四八	熟練士 〇・五一			
										均 〇・五〇			
										新一年後手			
										〇・四五			

坑内推車夫 (新一年後手) 〇・四五

坑内馬夫 〇・五〇

把修機坑

把修機坑 (新一年後手) 〇・四五

把修機坑 (普通) 〇・五〇

技術工藝工 〇・六五

平均 (註) 「支那經濟旬報」第三八號による。

右の各賃銀は一九二九年五月、罷業後會社側が一律に三分値上げしたのものでその後右基準で今春の爭議におよんだものである。

天津市勞賃調 (一九三七年一月)

工場勞働	最高	最低	普通
紡織工業	一・一〇	〇・三〇	〇・五〇
小工業	一・七五	〇・三〇	〇・五〇
製糸	一・七五	〇・三〇	〇・五〇
人絹	一・七五	〇・三〇	〇・五〇
莫大	一・七五	〇・三〇	〇・五〇
絨氈製造	一・七五	〇・三〇	〇・五〇

紹介なる項目を揚げ首都指導部では中國労働者の労働統制救恤対策として勞工協會を設置し労働者標準賃銀を調査中であつたが最近左の如く協定賃銀を發表した。これによつて一般労働者の合理的收入を計り殊に激烈化して來て苦力爭奪戦を緩和しようとするものである。

苦力	土木	木工	瓦工	鐵工	石工	電工	油工	手車	馬車	馬
六〇〇	七〇〇	二二〇	二二〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	二八〇	二八〇	三八〇
(單位錢)										

天津工人賃銀 (三月中旬現在)

(註) 右は一日の労働時間は四月から十月まで十二時間、十一月から三月まで十一時間、四月から十月まで残業は四割増、徹夜は八割増、十一月から三月まで残業は五割増徹夜は十二割増である。

左官	石工	疊工	經工	建工	指物	木子	硝子	鋸工	鐵工	灰工	煉瓦	雜役	荷車
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

天津工人手取賃銀 (各月平均)

取扱種目
陸軍保護車、ちよた、スミダ各六輪車、商工省標準型、いすゞ四〇、三五、右部分品及用品、各種車部分品用品、各種自動車修繕、ボデー製作



國產自動車工業株式會社

天津出張所
電話四一〇二四六番

天津日本租界伏見街二七ノ一

平和タクシー

營業主 大内澄
電話 二一六二七番
二一四一七〇番

營業課目

酸素及酸素器具製造

鑄鋼、鍛鋼、特殊鋼、高級特殊鑄物、條鋼、砲金、一般鑄物製作及修理並機械齒切仕上加工、其他前各項ニ附帶スル一切ノ器具製造

天津日本租界榮街十二ノ七



株式會社

京津工業公司

(株式會社) 滿洲口一ル製作所出張所

電話

三三三
二二一〇
九九〇四
三三二三
八七七六

土木建築、機械、電氣、煖房
衛生、設計施工並請負

大倉土木株式會社天津詰所

天津特別區通州路四號
電話(事務室) 三四〇一
(技術室) 三三〇二

天津日本通關業組合

天津日本租界壽街「結城洋行内」
電話 二〇三三三、二二四二二

土木建築 共

荒成

井公

見

三司

天津日本租界福島街四七ノ六
電話 三三〇九
三三〇九
六一九二
三三〇九

取扱商品 棉花、綿糸、綿布、人絹

本社 大阪市北區中ノ島二丁目

江商株式會社

天津出張所

天津法租界六號路八九

電話 三二六六三
三二六六四

營業科目

送電線配電線
建設工事並
屋內電氣設備
設計請負
機械器具材料
輸入販賣

支那駐屯軍司令部
南滿洲鐵道株式會社
天津電業有限公司
指定

國際電業公司

本店 天津特別三區名古屋ホテル内
電話 三〇八五番、三三〇八番
倉庫 天津法租界中街二四三番
電話 三二九四番
支店 北京東四南大街一四九番
電話 東三五二九番

(二の四)

資生堂化粧品
資生堂石鹼



資生堂天津販賣株式會社

天津日本租界須磨街一六ノ三

電話二、二八三六番

資生堂天津販賣株式會社

北京配給所

北京東城米市大街二五三

(二の五)

目科業營

暖房、冷房、換氣、除塵、空氣濕潤
 度調整裝置、製氷、冷凍、冷蔵設備
 炊事、消毒、洗濯、乾燥、水道、
 衛生、給湯、消火、電氣並ニ瓦斯諸
 設備、設計施工、諸機械製作販賣

天津東馬路北二八號



合資 第一工業公司出張所
 會社

電話 三四七三二

所長岡本直之

本社 大連市山縣通二二二
 親會社 東京市麹町區丸ノ内二ノ一〇
 第一工業株式會社

目科專工

ボーリング、グラウチング、探鑿
 一般地質調査、温泉、鑿
 井、水道工事、各種ポンプ
 水道式自動唧筒、飲料用淨水機
 エヤーリフト装置、オゾン殺菌裝置

田原組

田原寅吉

天津松島街二十二ノ九
 青島、濟南、北京、石家莊

機電 房氣械 工事請負

三和工業合名會社

北京出張所

北京東四牌樓南大街二五二

電話東京局 四〇七〇番

本社奉天 藤浪町一五番地

電話 〇四四三九番

株式會社 大

北

林 支店 組

北京南池子大街二九

電話東

三三二七八
 〇一六四七
 九〇〇四七
 五五八七三
 番

(二の七)

(二の六)

東京商品の
紹介 斡旋

東京市産業局

北京出張所
北京西長安街七二號
電話南局一、九七八番
北京皇城根官房胡同三號
電話東局五、五一五、五一六番

土木建築請負業

岩谷工務所

天津日本租界福島街二六ノ八
電話二二一五五番
支店 北京大興縣胡同三號
電話(東局四三〇四)

北支棉花株式會社

本社天津佛租界中街新華大樓五階
電話三〇二五四
倉庫 天津市特別第三區
六緯路十路
電話二一三九五四

天津日本租界榮街十一ノ二

株式會社 池田組

天津出張所
電話二四五六番

スビイク印自動車部分品製造卸元
ダイハツ自動車北支總代理店

大阪自動車株式會社 天津出張所

本社 天津日本租界扶桑街一五
電話 三三、三一、三〇、二七、二五番
大阪市西區土佐堀通二ノ六
上海出張所 上海共同租界華德路西八〇

天津日本租界壽街十三號

中日公司

電氣分解製煉工場 中日工場
電話二一〇三七番
製鐵及鑄造工場 中日工場
電話二六二七番
南門外八里台大街 電話二三〇六番

天津特三區二緯路四號

興華公司

竹內虎治
電話 (二三〇八六番)
(三〇七二四番)

護謨製品製造



泰山膠皮工廠

川瀨倍七

天津日本租界福島街七三
電話二〇三五八番
支店 青島上海路七六號
電話二〇九六番

營業種目

電氣器具、電線器具、碍子、絕緣材料、紡績用品、輸入商
附屬部分品並機械類



華南洋行

天津日本租界明石街耕餘里一八ノ四
電話(二)一九六九番
本店 名古屋市東區長堀町二ノ五
電話(四)七四三七番

(二〇二二)

電氣、鐵道、鑛山用諸機械材料
無線電信電話機材販賣並電氣諸
器具ノ製作

義昌洋行

本店 天津日界旭街三ノ二

電話 (三〇二〇四番)
(三五五三四番)
(三五五三四番)

工場 天津日界小松街
(電話二〇七〇五番)

倉庫 天津日界三島街三ノ二
(電話二〇七〇六番)

出張所 北京、大同

營業課目

拓殖資金ノ供給
拓殖事業ノ經營

東洋拓殖株式會社

天津日本租界福島街七ノ一
天津支店

電話 (二〇三三八番)
(二〇三三八番)
(二〇三三八番)
(支店長室)

輸出入貿易商

瀧定合名會社天津出張所

天津法租界七號路八九
電話三一二八五三番

(110111)

營業課目

染料、特別藥品、一般工業藥品
 油脂、油脂原料、顏料、小間物
 雜貨販賣輸出入、製造、化工



大阪合同株式會社

天津出張所

本店 大阪市東區北久賣寺町一丁目四十二番地
 支店 東京、名古屋、京都、和歌山、濱松
 出張所 福山、高岡、久留米、奉天、京城、上海
 油脂部、化學工場

土木建築
 設計施工請負

三谷組

組主 三谷貞次郎

本店 天津日本租界宮島街三一ノ二番
 電話 二、〇五六五番
 支店 北京東四平大街一九五番
 電話 東 七八〇番
 二五四七番

(二〇一四)

營業品目

キツコリーマン油醬
 キツコリーマン油醬
 ヒゲタレ味油
 ぽまれ味油
 キツコリーマンソース
 マンジョウ味淋

資本金 三千萬圓
 創業 三百年
 生産 醬油七十萬石、味增百三十萬貫
 味淋二萬石



野田醬油株式會社

天津出張所

天津特別三區三經路一七
 電話(三)二七三五

本社 千葉縣野田町
 出張所 東京、横濱、大阪、下關、名古屋、京城
 工場敷 二十ヶ工場

天津日本租界芙蓉街六番地
 本館 明治ホテル 客室四十室
 電話二局 四二八番
 一五一七番
 一六四七番

天津日本租界旭街中原公司隣
 明治ホテル別館 副華ホテル 客室五十七室
 電話二局 二三三番(分三個)
 一一四六番(分三個)

天津日本租界橋立街五番地
 明治ホテル系 天橋旅館 客室四十五室
 電話二局 三五九番
 一五九六番

天津日本租界旭街八拾八番地
 明治ホテル系 日華公寓 客室十二室
 電話二局 七四七番

天津日本租界花園街二十八番地
 明治ホテル系 大同公寓 客室五十七室
 電話二局 三三六番
 九七三番

橋本磯太

(二〇一五)

目品售經

棉花・人造絲織物
綿糸・毛織物
綿布・絹織物
絲織品・絹織物
毛織品・吳服洋反雜貨
人纖絨・一般輸出入商品

股份有限公司



丸紅洋行

株式會社 丸紅商店天津出張所
天津日本租界扶桑街三番地

電話 二四八一三番

本店 大阪市東區本町二丁目
支店出張所所在地 大阪・京都・東京・名古屋・京城
上海・桐生・足利・福井・ボンベイ

骨粉・骨炭・
骨炸・角石・膠
サクラ印化粧石鹼
サクラ印洗濯石鹼
金角印粉末石鹼

製造發賣元



株式會社 內外學肥料公司

天津法界、二號路、四一號

受電略號、テンシン・ナイガイ
發電略號 (ナイ) ヌハ (ナ)

電話 三〇一三四三

目種業營

燐寸製造原料、化學工業藥品、皮革材料、塗料、セメント
工具、各種マイル、衛生陶器、テックス、ヤハズラス、ル
ーフィング、石油、ガソリン、機械油、カーバイト、コー
ルタール、アスファルト、パラピン、人造バター、瑞豊牌
肥料、津田式ポンプ、NGK濾過器、コメヤ發動機、ワン
ダーストローブ、洗濯石鹼、アース、アースタム

K.K 金山洋行

本店 天津日本租界壽街三ノ五

電話 (三〇五〇八) 二二〇七二
(三五五〇一) 二〇五八〇(倉庫)

出張所 北京崇文門大街東堂子胡同三〇

電話 東局 七六九番

北京東城韶九胡同八號

株式會社 清水組北支支社

電話東局

四	四	一	六
〇	〇	五	一
三	二	〇	〇
〇	〇	〇	〇
番	番	番	番

ト ラ ッ ク 貨 物 運 搬

天津日本租界松島街三五ノ一



北 海 運 輸 公 司

那

珂 道 雄

電話二一三四〇番

土木建築
請負業

北 岡 工 程 所

津 川 長 幸

天津日本租界淡路街五ノ一ノ四

電話二一〇五二番

營業科目

鐵鋼、諸金物、機械、工具、土工具、農具
建築材料、木材、雜貨、一般輸出入貿易
「ヤマオカ」石油發動機、金熊印スコップ、
シヨベル一手販賣

中山鋼業株式會社代理店
浪華商事株式會社代理店



泰

華

洋

行

天津日本租界宮島街宮島橋

電話二〇八一三

出張所 東京、大阪、上海

天津日本租界淡路街八ノ一

湯淺蓄電池製造株式會社

天津出張所

電話二四三二三番

滿鐵、興中公司、日本工業新聞社御指定

曉

ホテル

天津驛前(一緯路三經路角)
電話(2)二〇〇七番

一般青果及同加工品取扱

北支青果組合

天津日本租界芙蓉街一八
電話二四〇三八、二九八八

天津日本租界秋山街一六番地

天津朝鮮人民會

電話二〇四一八番

天津南營門外大街徐胡圈東姜家台

(海光寺兵營西)

各種硝子器一切
電球バルブ製造



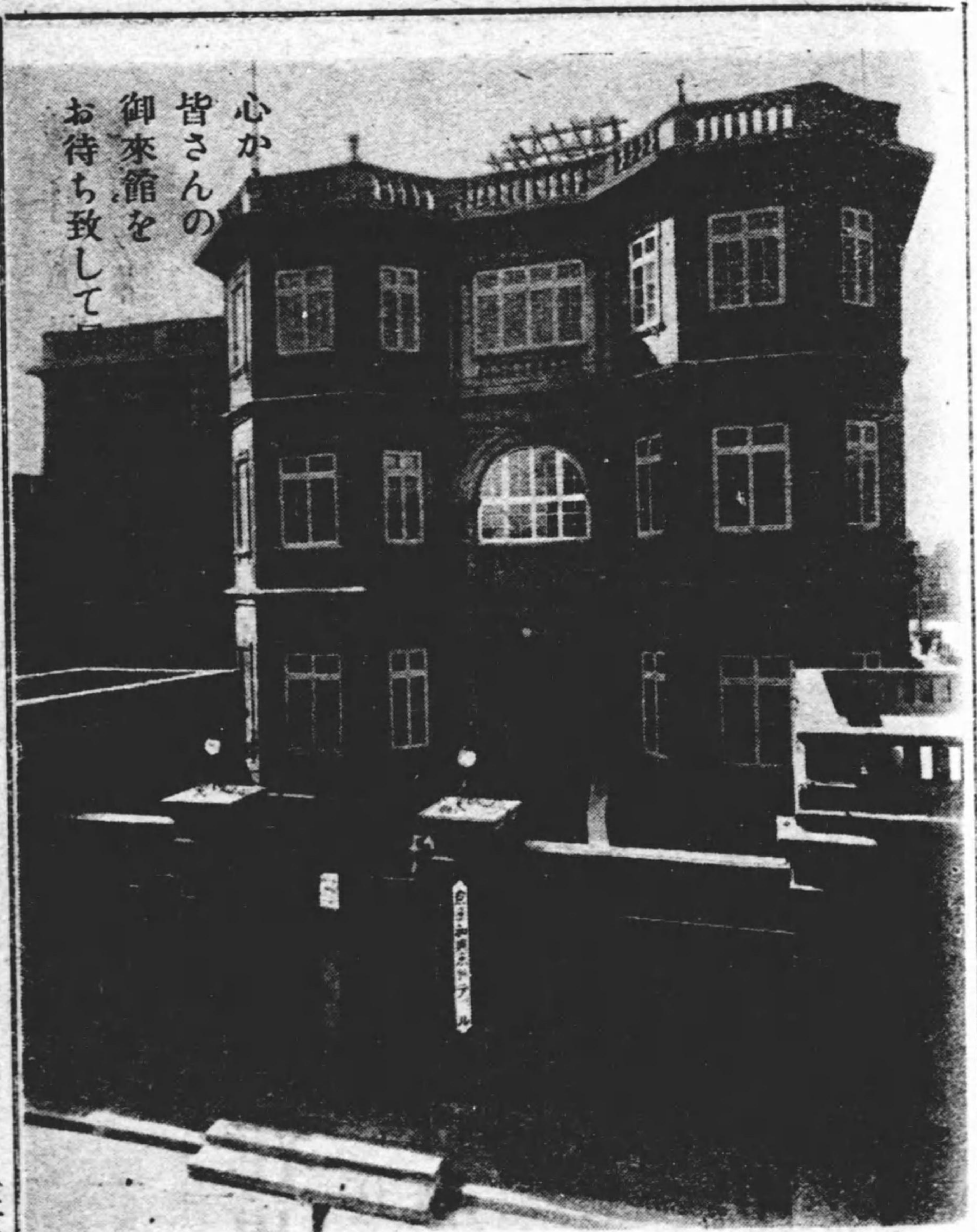
馥義公司

電話二一四九〇番

天津日本租界住吉街一ノ三

伍賀電氣商會

永恒藏
電話二局八三六



心か
皆さんの
御來館を
お待ちしております

天津松嶋街二八ノ一

京和木テル

電話 三三二二三九番

(1151111)



株式 鳥羽洋行

天津支店

電話 三三〇五五〇

出張所 北京王府大街六二

出張所 青島章邱路二六六

機械工具 土地金
鐵道鋪山土木
建築水道用品
電氣材料
自動車用品
農具膠皮製品
其他製作請負

天津日本租界榮街一八

本社 大連市近江町八番地
滿洲國
支店 奉天市千代田通三九
支店 新京豐樂路七二〇號
支店 哈爾濱道外國六道街二七
出張所 鞍山北二條街三三
出張所 牡丹江太平路三五
出張所 齊齊哈爾龍平路新華ビル九
出張所 大連奉天、鞍山
出張所 大連、奉天、鞍山
出張所 大連、奉天、鞍山
出張所 大連、奉天、鞍山

護謨タイヤ中袋製造
其他護謨製品一切
自轉車並同部分品輸入

株式 中村公司

天津日本租界伏見街二十七

電話 三二二六九六號

大阪仕入部 大阪市東區淡路町四丁目
電話 北濱四五四一、四五四四

(1151111)

鐵材諸器具機械
各種纖維原料及製品



日商株式會社天津出張所

(日) 洋行

本社 大阪 今橋

本店青島益都路四八號 (電話四七八六番)



旭硝子店天津出張所

天津日本租界宮島街三三ノ一〇

電話二〇八四四番

營業科目

一、自動車、オートバイ、並ニ
自動車修理、組立、改造
自動車部品、用品、附屬品
修理用機械、工具、販賣並ニ製作
ガソリン、モーター、蓄電池、充電機
蓄電池販賣並ニ蓄電池充電機

ダイハツ號自動三輪車



信益洋行

天津日本租界明石街
二十三番地
二十四番地
二十五番地

電話二局 三〇九五二七號

運輸業

宮下商會

天津日本租界壽街八番地



會合社名

九鬼洋行天津支店

電話 三〇一九〇〇 四一四番

天津日本租界壽街

會合社資

三

友

洋

行

電話 三〇〇五〇四 二八七八番

(二〇二七)

堤商店天津出張所

天津日本租界壽街一三ノ二

電話 二〇三四七番、二二四四二番

本店 大連市山縣通り一三〇

電話二四四九五番二五四一九番

海運業 船舶代理店、輸出入貨物通關

各線行貨物取扱、トラック馬車運送

大連-天津 定期船運航

汽船香椎丸、宗像丸、伊達丸

二日目毎 = 兩地出帆

碼頭及倉庫 日本租界、特別第三區

所長 松尾茂七

目品業營

製衛牙工最理醫
藥生科藥新化療
調綱用藥新學藥藥
劑帶材藥品品及
用材料品品及
諸料及寫眞血器
器一器器藥品精
具般械品精械



松本盛大堂

電話

三三五二號 天津日本租界旭街
三三五三號 天津日本租界旭街
三三五四號 天津日本租界旭街
三三五五號 天津日本租界旭街
電話略受信大連九九七番
振替口座(セイイ)

處滋高玻度
方養等璃量
調藥賣器衡
劑品藥具器



信泰公司天津支店

天津日本租界明石街二九

電話 二〇三五七〇 九七番

(二〇二六)